講義要綱

2020 年度

経営学部

経営学科 －2

東京富士大学

TOKYO FUJI UNIVERSITY

SYLLABUS 2020

講　義　要　綱

SYLLABUS

2020年度

経営学部

経営学科

東京富士大学

― シラバスの利用について ―

このシラバスは、2020年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが１年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス（syllabus）は、ギリシャ語の sittuba すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
入門簿記Ⅱ	１～４	2	半期	光澤　美芽 村上　翔一	307 309
企業論	２～４	2	半期	円城寺敬浩 清水　太陽 高橋　哲也 渡辺　泰宏	311～314 315～318 319 321～324
経営戦略論Ⅰ	２～４	2	半期	小川　達也	325
経営戦略論Ⅱ	２～４	2	半期	小川　達也	327
経営組織論Ⅰ	２～４	2	半期	山口　善昭 渡辺　泰宏	329 331
経営組織論Ⅱ	２～４	2	半期	山口　善昭 渡辺　泰宏	333 335
経営情報学	２～４	2	半期	鬼木　一直	337～340
環境経営学	２～４	2	半期	藤森　大祐	341
経営倫理	２～４	2	半期	山口　善昭	343～346
ミクロ経済学	２～４	2	半期	清水　良樹	347
金融論	２～４	2	半期	清水　良樹	349
ファイナンス論	２～４	2	半期	松田　　岳	351
会社法Ⅰ	２～４	2	半期	隅田　浩司	353
会社法Ⅱ	２～４	2	半期	隅田　浩司	355
民法Ⅰ	２～４	2	半期	隅田　浩司	357
民法Ⅱ	２～４	2	半期	隅田　浩司	359
経済法	２～４	2	半期	隅田　浩司	361
消費者法	２～４	2	半期	隅田　浩司	363
広告論Ⅰ	２～４	2	半期	荒井　　誠 広瀬　盛一	365 367
広告論Ⅱ	２～４	2	半期	広瀬　盛一	369
社会心理学Ⅰ	２～４	2	半期	佐藤　惠美 林　　治子	371 373
社会心理学Ⅱ	２～４	2	半期	佐藤　惠美 林　　治子	375 377
認知心理学	２～４	2	半期	佐藤　惠美	379
リスク・マネジメント論	２～４	2	半期	三好　陽介	381
財務会計論Ⅰ	２～４	2	半期	小森　秀人	383
財務会計論Ⅱ	２～４	2	半期	小森　秀人	385
管理会計論Ⅰ	２～４	2	半期	福山　倫基	387
管理会計論Ⅱ	２～４	2	半期	福山　倫基	389

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
専門演習Ⅰ	３～４	４	通年	石塚　一彌	391
				伊波　和恵	393
				円城寺敬浩	395
				鬼木　一直	397
				佐藤　惠美	399
				清水　良樹	401
				隅田　浩司	403
				高橋　哲也	405
				土井　　充	407
				花尾由香里	409
				日野　隆生	411
				広瀬　盛一	413
				深澤　琢也	415
				藤森　大祐	417
				松田　　岳	419
				光澤　美芽	421
				山川　　悟	423
				山口　善昭	425
				渡辺　泰宏	427
専門演習Ⅱ	４	４	通年	石塚　一彌	429
				伊波　和恵	431
				鬼木　一直	433
				佐藤　惠美	435
				清水　良樹	437
				高橋　哲也	439
				花尾由香里	441
				日野　隆生	443
				広瀬　盛一	445
				深澤　琢也	447
				藤森　大祐	449
				松田　　岳	451
				光澤　美芽	453
				山川　　悟	455
				山口　善昭	457
				渡辺　泰宏	459
プロフェッショナル・セミナーⅠ	２～４	２	半期	石塚　一彌	461
				伊波　和恵	463

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
プロフェッショナル・セミナーⅠ	２～４	２	半期	小川　達也	465
				鬼木　一直	467
				木村　直樹	469
				清水　良樹	471
				高橋　哲也	473
				花尾由香里	475
				日野　隆生	477
				広瀬　盛一	479
				深澤　琢也	481
				福山　倫基	483
				藤森　大祐	485
				光澤　美芽	487
				山川　　悟	489
				渡辺　泰宏	491
プロフェッショナル・セミナーⅡ	２～４	２	半期	石塚　一彌	493
				伊波　和恵	495
				小川　達也	497
				鬼木　一直	499
				木村　直樹	501
				清水　良樹	503
				高橋　哲也	505
				花尾由香里	507
				日野　隆生	509
				広瀬　盛一	511
				深澤　琢也	513
				福山　倫基	515
				藤森　大祐	517
				光澤　美芽	519
				山川　　悟	521
				渡辺　泰宏	523
プロフェッショナル・セミナーⅢ	２～４	２	半期	石川　　勝	525
				石渡　正人	527
				大山　利栄	529
				岡崎　正一	531
				北原　　隆	533
				林　　倬史	535
				原　　晶子	537

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
プロフェッショナル・セミナーⅢ	２～４	２	半期	三好　陽介	539
プロフェッショナル・セミナーⅣ	２～４	２	半期	出原　隆史 神渡　良平 難波　俊樹 林　　倬史 堀口　弘治	541 543 545 547 549
プロフェッショナル・セミナーⅤ	３～４	２	半期	井原　久光 緒方　義人	551 553
プロフェッショナル・セミナーⅥ	３～４	２	半期	北原　　隆 針谷　和昌	555 557
プロフェッショナル・セミナーⅦ （就職）	３～４	２	半期	野沢　牧子 宮地　由夏	559 561
プロフェッショナル・セミナーⅦ （留学生_就職）	３～４	２	半期	糸川　　優 小林　寛典	563 565
プロフェッショナル・セミナーⅧ	３～４	２	半期	宇田川素子 志塚　昌紀	567 569
中小企業論Ⅰ	２～４	２	半期	檜山　昭信 山岡淳一郎 山川　　悟	571 573 575
中小企業論Ⅱ	２～４	２	半期	青山　和正 山岡淳一郎 山川　　悟	577 579 581
ベンチャービジネス論	２～４	２	半期	青山　和正 片山源治郎	583 585
新事業創造論	２～４	２	半期	青山　和正 片山源治郎 野澤　弘宗	587 589 591
経営史	２～４	２	半期	清水　太陽	593～596
人的資源管理論Ⅰ	２～４	２	半期	高橋　哲也	597
人的資源管理論Ⅱ	２～４	２	半期	高橋　哲也	599
キャリア発達心理学	２～４	２	半期	伊波　和恵 松田美登子	601 603
メンタルヘルス･マネジメント	２～４	２	半期	伊波　和恵	605
経営心理学研究法	２～４	２	半期	伊波　和恵	607
知的財産法	２～４	２	半期	髙丸　涼太	609
労働法	２～４	２	半期	黒岩　容子	611～614
流通論Ⅰ	２～４	２	半期	深澤　琢也	615

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
流通論Ⅱ	２～４	２	半期	深澤　琢也	617
商品論	２～４	２	半期	田口　冬樹	619～622
消費者行動論Ⅰ	２～４	２	半期	花尾由香里	623
消費者行動論Ⅱ	２～４	２	半期	花尾由香里	625
商業簿記Ⅰ	２～４	２	半期	西山　一弘	627
商業簿記Ⅱ	２～４	２	半期	西山　一弘	629
工業簿記Ⅰ	２～４	２	半期	福山　倫基	631
工業簿記Ⅱ	２～４	２	半期	福山　倫基	633
原価計算	２～４	２	半期	福山　倫基	635
経営分析論	２～４	２	半期	坂入　　遼	637
財務諸表論	２～４	２	半期	光澤　美芽	639
租税概論Ⅰ	２～４	２	半期	三関　公雄	641
租税概論Ⅱ	２～４	２	半期	三関　公雄	643
税務会計論Ⅰ	２～４	２	半期	石塚　一彌	645
税務会計論Ⅱ	２～４	２	半期	石塚　一彌	647
法人税	２～４	２	半期	田中　俊久 我妻　純子	649 651
所得税	２～４	２	半期	田中　俊久 我妻　純子	653 655
論文指導（卒業論文）	４	２	通年		657
簿記技能Ⅰ（日商３級対策講座）	１～４	２	集中	福山　倫基	659
簿記技能Ⅱ（日商２級対策講座）	１～４	２	集中	福山　倫基	661

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。
　　Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。
　　Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。
　　１：１年生が履修できる科目です。
　　２：２年生が履修できる科目です。
　　３：３年生が履修できる科目です。
　　４：４年生が履修できる科目です。
１～４：１年生・２年生・３年生・４年生が履修できる科目です。
２～４：２年生・３年生・４年生が履修できる科目です。
３～４：３年生・４年生が履修できる科目です。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本の社会としくみ」は、留学生科目です。

専門科目　　経営学科 履修対象：１～４年生

入門簿記Ⅱ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は原則として、「入門簿記Ｉ」を履修済みの者、あるいは高等学校在学時に既に簿記の学習を経験済みの者を対象としており、ほぼ日商簿記検定３級の範囲の商業簿記を取り扱う。具体的には商品売買、売掛金と買掛金、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産、資本（純資産）などの個別論点と、収益・費用の見越・繰延を含む期末の決算整理手続、および８桁精算表の作成と財務諸表の作成である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。	20%
日々の取引を仕訳できるようにする	設問に対する回答によって評価。個別論点について取引の内容を仕訳で示すことができること。	50%
決算整理事項を理解し、財務諸表を作成できるようにする	設問に対する回答によって評価。決算整理事項の内容を理解し、費用および収益の見越しや繰延べを含んだ決算整理手続ができ、８桁精算表および財務諸表を作成できること。	30%
評価の方法　授業中に行う小テスト20%、本試験80%、および授業への貢献度を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法などの説明、「入門簿記Ｉ」の復習
2	各種補助簿	売掛金元帳・買掛金元帳、得意先元帳・仕入先元帳、商品有高帳、小口現金出納帳
3	手形	約束手形とは、処理、割引、裏書譲渡、手形による借入/貸付
4	有価証券	有価証券とは、株式の取得と売却、公社債の取得と売却
5	有形固定資産	有形固定資産の意義、取得と売却、減価償却
6	その他債権・債務(1)	債権・債務とは、借入金と貸付金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金
7	その他債権・債務(2)	前払金と前受金、立替金と預り金、演習
8	伝票会計	三伝票制、仕訳日計表の作成
9	決算(1)	試算表の作成、売掛金明細表、買掛金明細表
10	決算(2)	決算整理（売上原価の算定、貸倒引当金）
11	決算(3)	決算整理（収益と費用の見越し・繰延べ①）
12	決算(4)	決算整理（収益と費用の見越し・繰延べ②）
13	決算(5)	決算整理（資本金と引出金、剰余金）、精算表の作成
14	決算(6)	財務諸表の作成と総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：『レクチャー初級簿記』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」をすでに履修済みか同程度の知識を有することを履修の条件とする。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりし、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【そのたの注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：１～４年生

入門簿記Ⅱ	ムラカミ　ショウイチ 村上　翔一
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。企業が行う各種取引の記帳とそれらを踏まえた決算時の処理を理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他の債権債務、手形、固定資産、税金などに関する期中取引を適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法　課題ないし小テスト30%、確認テスト70%で評価する。全講義回数３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件である。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	講義の進め方および成績評価方法についての説明、春学期の復習
2	商品売買の記帳	分記法、三分法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳、先入先出法と平均法
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳の記帳、貸倒引当金の設定
6	その他の債権債務の記帳	未収入金・未払金、クレジット売掛金、電子記録債権・債務、各種預り金などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳、受取手形記入帳・支払手形記入帳の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳（間接法)、固定資産台帳の記帳
9	税金	法人税等、消費税（税抜方式)、その他の税金の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰延処理（前受・前払）
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越処理（未収・未払）
12	株主資本	株式の発行、剰余金の配当、準備金の積立
13	８桁精算表	試算表と決算整理事項
14	決算	決算手続の記帳
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。毎授業、資料を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」の講義内容を確認しておくこと。

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はこなすこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ｉ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に慎むこと。携帯電話等の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなどの悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意すること。

◇受講の際には電卓（12桁以上）を準備すること。中間テストおよび確認テストの際には、携帯電話、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止する。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（春学期）	円城寺（エンジョウジ）　敬浩（タカヒロ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、ＶＴＲ等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など)。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法　本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（＋α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「企業論」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	３回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	８回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：風間信隆（編著）『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房、2019年

◇参考書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男（編著）『企業論』有斐閣アルマ、2018年
高橋俊夫（編著）『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫（著）『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。
なお、２年生の受講生は毎年かなりのものが単位を落としているので、その点を留意して履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（秋学期）	円城寺（エンジョウジ）　敬浩（タカヒロ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてＶＴＲ等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ドイツのコーポレート・ガバナンスについて理解すること	設問に関する回答によって評価する。ドイツ・モデルの意義と限界を理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法　本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（＋α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「企業論（秋学期)」の講義内容等の紹介
2	ドイツのコーポレート・ガバナンス①	ドイツ・モデルに関する考察
3	ドイツのコーポレート・ガバナンス②	ドイツ・モデルの意義と限界に関する考察
4	日本型企業システムとは何か	日本型企業システムに関する理解
5	日本型企業間関係①	企業集団に関する考察
6	日本型企業間関係②	企業系列に関する考察
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	7回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	9回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」を考察する意義についての理解
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。
15	本試験	「企業論」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

◇教科書：風間信隆（編著)『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房、2019年

◇参考書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男（編著)『企業論』有斐閣アルマ、2018年
高橋俊夫（編著)『ＥＵ企業論－体制・戦略・社会性－』中央経済社、2008年
高橋俊夫（編著)『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（春学期）	清水（シミズ）　太陽（タイヨウ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、複雑かつ多面的な現代企業の全体像と課題を理解し、それに関する関心と問題意識を醸成できるようになることを目標とする。具体的には、現代企業の諸形態や役割について、とくに株式会社に注目し、主に大企業の構造について学ぶ。また、いわゆる「日本的経営」や現代企業の役割に関しても、考えてみたい。必要に応じて、映像資料等も活用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語の理解	テストで評価する。企業社会や株式会社の実態について、専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容理解	テスト、レポートで評価する。企業社会や株式会社制度の内容とその基本的な仕組みを理解し、説明できるか。	20%
理論と制度の理解	テスト、レポートで評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度と企業制度の結びつきを理解し、説明できるか。	20%
知識の応用	テスト、レポートで評価する。本講義で学んだ知見を活かし、現代企業に関して、自分の意見を論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　テスト70%　レポート20%　受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	企業論を学ぶ意義と内容に関する説明
2	現代企業を見る視点	６つの企業観
3	「財・サービスの提供機関」としての企業	経済発展と生活の変化、大企業の実態、企業の長期戦略
4		企業の広告活動、企業の国際化、むすび
5	「株式会社」としての企業	株式会社の機能と構造、株式会社の現実
6	「大企業」としての企業	大企業とは何か、大企業の支配構造、大企業の性格と機能
7		日本の大企業の経営者、大企業のコーポレート・ガバナンス
8	「組織」としての企業	企業と官僚制、企業組織の諸形態、企業の組織と管理論の展開、管理の革命
9	「家」としての日本企業	日本企業と従業員、日本型株式会社制度の構造と実態
10		日本型企業結合様式の独自性、日本企業をみる視点、揺らぐ日本的経営
11	「社会的器官」としての企業	企業の社会的責任論、企業市民、日本企業の社会的貢献活動
12		近年のＣＳＲ活動とＣＳＲ指標・ＣＳＲランキング、企業統治、企業倫理
13		社会のための企業、個人・社会・自然と調和した企業
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（著）『企業論(第４版)』有斐閣アルマ、2018年

◇参考文献：授業で随時紹介する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞を読んでおくと、授業での内容がイメージしやすくなるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（秋学期）	清水（シミズ） 太陽（タイヨウ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、複雑かつ多面的な現代企業の全体像と課題を理解し、それに関する関心と問題意識を醸成できるようになることを目標とする。具体的には、現代企業の諸形態や役割について、とくに株式会社に注目し、主に大企業の構造について学ぶ。また、いわゆる「日本的経営」や現代企業の役割に関しても、考えてみたい。必要に応じて、映像資料等も活用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語の理解	テストで評価する。企業社会や株式会社の実態について、専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容理解	テスト、レポートで評価する。企業社会や株式会社制度の内容とその基本的な仕組みを理解し、説明できるか。	20%
理論と制度の理解	テスト、レポートで評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度と企業制度の結びつきを理解し、説明できるか。	20%
知識の応用	テスト、レポートで評価する。本講義で学んだ知見を活かし、現代企業に関して、自分の意見を論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　テスト70%　レポート20%　受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	企業論を学ぶ意義と内容に関する説明
2	現代企業を見る視点	６つの企業観
3	「財・サービスの提供機関」としての企業	経済発展と生活の変化、大企業の実態、企業の長期戦略
4		企業の広告活動、企業の国際化、むすび
5	「株式会社」としての企業	株式会社の機能と構造、株式会社の現実
6	「大企業」としての企業	大企業とは何か、大企業の支配構造、大企業の性格と機能
7		日本の大企業の経営者、大企業のコーポレート・ガバナンス
8	「組織」としての企業	企業と官僚制、企業組織の諸形態
9		企業の組織と管理論の展開、管理の革命
10	「家」としての日本企業	日本企業と従業員、日本型株式会社制度の構造と実態
11		日本型企業結合様式の独自性、日本企業をみる視点、揺らぐ日本的経営
12	「社会的器官」としての企業	企業の社会的責任論、企業市民、日本企業の社会的貢献活動
13		近年のＣＳＲ活動とＣＳＲ指標・ＣＳＲランキング、企業統治、企業倫理
14		社会のための企業、個人・社会・自然と調和した企業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（著）『企業論(第４版)』有斐閣アルマ、2018年

◇参考文献：授業で随時紹介する

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞を読んでおくと、授業での内容がイメージしやすくなるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（春学期）	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本科目は、現代社会で必要とされる製品・サービスを提供し、人々の雇用から生活環境にも影響する企業経営を主な対象として学習します。現実の経営を理解するためには、企業の理念やそれを実現する仕組、ステークホルダーとの関係、経営者の役割、人々の意欲や互いの協力関係、組織編成と組織文化、有形・無形の資源、変化する環境に適応する経営、企業の海外進出に伴う経営問題などが取り上げられる。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業に関する「専門用語」について理解し、説明ができるようにする	企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。授業内の課題および試験にて評価する。	25%
企業に関する「理論」について理解し、説明ができるようにする	企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。授業内の課題および試験にて評価する。	25%
企業に関する「制度」について理解し、説明ができるようにする	企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。授業内の課題および試験にて評価する。	25%
企業に関する「今後の課題」について理解し、説明ができるようにする	企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する課題について考え、答えを提示できるか。授業内の課題および試験にて評価する。	25%

評価の方法　期末試験50点、課題レポート30点、授業内課題20点
※レポート提出がある。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	経営学のアプローチ	経営学の基礎について学ぶ
3	現代企業と経営学	現代企業を通じた経済活動について
4	企業経営の目的	企業の目的とは何か
5	現代企業とステークホルダー	企業の利害関係者について学ぶ
6	ベンチャー企業と創業者	企業の創業について学ぶ
7	経営理念と経営戦略	企業にある経営理念について
8	企業戦略	理念から戦略へ
9	日本企業とアジア①	日本企業のアジアでの立ち位置
10	日本企業とアジア②	アジア企業との関係性
11	株式会社論	株式会社とは何か
12	組織形態とガバナンス	会社の統治について
13	企業の社会的責任	社会における企業の立場とは
14	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示する。

◇資料等：レジュメを配布（教科書にない情報など)。

【履修条件等】

◇経営学の基本的な知識を身につけていることを求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意して下さい。

◇授業内にてレポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（春学期）	渡辺（ワタナベ）　泰宏（ヤスヒロ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、特に大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
5	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
6	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
7	大企業の支配構造	大企業を支配するものは誰か
8	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
9	大企業のコーポレート・ガバナンス	経営者責任と企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
10	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
11	日本型企業結合様式の独自性	企業系列と企業集団
12	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
13	社会的企業と NPO	社会的企業と NPO の仕組みについて学ぶ
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩、池内秀己、勝部伸夫（著）『企業論（第3版)』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇初学者向けの内容のため２年次に履修することを推奨する。経営学概論などの基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

企業論（秋学期）	渡辺（ワタナベ）　泰宏（ヤスヒロ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、特に大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
5	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
6	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
7	大企業の支配構造	大企業を支配するものは誰か
8	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
9	大企業のコーポレート・ガバナンス	経営者責任と企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
10	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
11	日本型企業結合様式の独自性	企業系列と企業集団
12	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
13	「家」としての日本企業	家の論理とは何か
14	社会的企業と NPO	社会的企業と NPO の仕組みについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩、池内秀己、勝部伸夫（著）『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇初学者向けの内容のため２年次に履修することを推奨する。経営学概論などの基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営戦略論Ⅰ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Strategic Management Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃　②	経営理念とビジョンの役割
5	〃　③	経営戦略の３つのタイプ
6	〃　④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃　②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃　③	市場細分化戦略
10	〃　④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と５つの競争要因
12	〃　②	競争戦略の基本モデル
13	〃　③	価値連鎖（バリューチェーン）
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一賴、ほか著『経営戦略―論理性・創造性・社会性の追求　第３版』有斐閣アルマ、2016年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営戦略論Ⅱ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Strategic Management Ⅱ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃　②	特許を活用した戦略展開
4	〃　③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃　②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃　③	ＰＰＭ（プロダクト･ポートフォリオ･マネジメント）の意義
8	〃　④	ＰＰＭの基本戦略とＧＥのビジネススクリーン
9	〃　⑤	ＰＰＭの応用展開：M&Ａ（企業の合併と買収）の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃　②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃　③	ドメイン・コンセンサス
13	〃　④	ドメインの再定義
14	〃　⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一賴、ほか著『経営戦略―論理性・創造性・社会性の追求　第３版』有斐閣アルマ、2016年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営組織論Ⅰ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Organization Theory I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論Ⅰ」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他的な方法を提案できること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	Ｊ.Ｄ.トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営組織論Ⅰ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Organization Theory I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「人と組織」の関係に注目し、組織における人間行動についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくにマネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「人と組織」の関係の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	経営学のはじまり	産業革命とアメリカ経営学の発展について
3	経営管理論の展開	科学的管理について
4	全社的管理論の展開	大規模組織の管理について
5	ホーソン研究	初期の集団研究について
6	バーナード組織論①	人間とは何か、協働とは何か
7	バーナード組織論②	組織とは何か、管理とは何か
8	バーナード組織論③	ケーススタディ
9	モチベーション研究①	初期のモチベーション理論について
10	モチベーション研究②	近年のモチベーション理論について
11	リーダーシップ研究①	初期のリーダーシップ理論について
12	リーダーシップ研究②	近年のリーダーシップ理論について
13	モチベーションとリーダーシップ	ケーススタディ
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Organization Theory II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モティベーション（動機づけ)、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他的な方法を提案できること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モティベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モティベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モティベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モティベーション(4)	アージリスの不適合理論
9	モティベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モティベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モティベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーキング他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営組織論Ⅱ	渡辺（ワタナベ）　泰宏（ヤスヒロ）
Organization Theory II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「システムとしての組織」に注目し、組織の構造についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくに、マネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「システムとしての組織」の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	アメリカ経営学の潮流	経営組織論の基礎について
3	意思決定①	個人の意思決定について
4	意思決定②	組織の意思決定について
5	組織と環境①	環境適応の理論について
6	組織と環境②	取引コスト理論について
7	組織と環境③	組織間関係の資源依存モデルについて
8	組織と戦略	事業戦略と組織のライフサイクルについて
9	知の経営学	知識創造型経営について
10	組織と学習①	組織における学習過程について
11	組織と学習②	実践的学習について
12	組織と文化	組織文化論、日本的経営論
13	ポストモダンの組織論	近年の経営組織論の研究動向について
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営情報学（春学期）	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Management Information	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの５大装置を説明することができる。さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法　授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	５大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
7	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
8	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
9	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
10	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
11	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
12	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
13	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営情報学（秋学期）	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Management Information	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの５大装置を説明することができる。さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法　授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	５大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。
経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

環境経営学	藤森（フジモリ）　大祐（ダイスケ）
Environmental Management	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。 具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の関係の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートよって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムの概要、効果と問題点
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営倫理（春学期）	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Management & Ethics	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とは何か、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかとうを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーキング	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度・倫理的判断	反倫理的行動を予防する制度、倫理的判断基準
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞、テレビのニュースをよく読み聞いておくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営倫理（秋学期）	山口（ヤマグチ）　善昭（ヨシアキ）
Management & Ethics	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とは何か、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかとうを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーキング	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度	反倫理的行動を予防する制度
14	倫理的判断	倫理的判断基準：功利性、権利、正義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞、テレビのニュースをよく読み聞いておくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

ミクロ経済学	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Micro-economics	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？　たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？　あなたならどう答えますか？　こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生きている社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済学の基礎理論の理解を通じて、現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と授業参加度状況等によって成績を評価する。	定期試験70％、授業参加度10%、課題やリアクションペーパー等の平常点20%

評価の方法　定期試験70％、授業参加度10％、課題やリアクションペーパー等の平常点20％により総合的に判断して成績を評価します。

ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済学の対象	最適化する個人
3	最適化戦略	需要曲線・供給曲線・無差別曲線
4	リスク	大数の法則、逆選択
5	費用	機会費用・サンクコスト
6	雇用	労働市場の現状
7	労働法	労働者の権利
8	ブラック企業	働くということ
9	ゲーム理論①	囚人のジレンマ
10	ゲーム理論②	現実における囚人のジレンマ
11	企業行動	企業の「ベストな判断」
12	市場	独占市場と寡占市場年金の管理と運用
13	政府の役割	外部性、公共財、情報の非対称性
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ミクロ経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

金融論	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Financial Economics	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、社会において必要とされる金融に関する基礎的な知識を中心に修得する。急速なテクノロジーの発展は銀行業に強い影響を及ぼしている。仮想通貨の誕生や金利のマイナス化といった金融環境の激変は、従来の銀行業を窮地に追い込んでいる。もはや、私たちのお金を銀行に預けておくことは、運用の主要な手段ではなくなった。

社会において、お金と無関係ではいられない。したがって、金融知識は修得が必至である。”金融リテラシー”を身につけ、変化する金融環境において適切な自己判断ができるようになりましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・金融に関する基礎理論と各種テクニカルタームの習得 ・金融現象に関する分析能力を身につける	定期試験の結果、平常点（課題やリアクションペーパーの提出など)、授業参加度を基準に成績を評価する。	定期試験80%、平常点10%、授業参加度10%

評価の方法　本試験の結果および課題等の平常点で成績を評価する。
課題例）新聞記事を読んで小レポートを提出。基本的に翌週の講義にフィードバック。授業参加度は成績評価に加えないが、全講義の３分の１、５回以上欠席（正当な理由のない欠席）した場合、単位取得は認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	お金の話	貨幣の歴史
3	銀行組織	バランスシートの仕組み
4	金利	単利と複利
5	ローン	住宅ローンや自動車ローンといった各種ローン
6	社会保険制度	社会保険5つの分野について
7	為替リスクとデリバティブ	リスクの管理方法
8	FX（外国為替証拠金取引）	各種規制と取引方式の違い
9	お金の増やし方	資産運用（株式投資、債券投資、投資信託）
10	タックスプランニング	税制と各種控除
11	不動産	不動産取引
12	相続・事業継承	権利や要件および各種手続きについて
13	リスク管理	生命保険と損害保険
14	個人の資産形成	将来に必要なお金について考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上の欠席は評価の対象外とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から金融に関する新聞記事やニュースをチェックして現状を把握すること。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

ファイナンス論	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Finance theory	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

現在の経済現象には何らかの形で金融が関わっており、金融の知識は必須ものとなりつつある。「ファイナンシャル・リテラシー」という言葉を最近よく目にするようになっているという事実が、金融知識＝「読み・書き・そろばん」同様必要不可欠なものとなりつつあることを示している。その一方で、金融商品に関わるトラブルは多発しており、多重債務問題や無年金・低年金問題など、金融リテラシーが欠けるが故に資金計画が破綻する例も後を絶たない。本講義では、「人生設計」、「リスク管理」、「金融資産運用」など生活に関わる金融をテーマに講義を行うことで、社会人として生活していく上で必要不可欠な金融知識の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の履修を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
資金計画と保険の仕組みを理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。 資金計画や社会保険、その他保険などに関する質問に答えられること。	31%
資産運用の手段とリスクを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 預金、株式、債券、投資信託などに関する質問に答えられること。	23%
税について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 所得税、法人税、不動産税、贈与税、相続税などに関する質問に答えられること。	46%
評価の方法　試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	資金計画	教育資金・住宅資金・老後資金の設計
3	社会保険	医療保険、介護保険、労働保険（労災・雇用)、年金保険
4	生命保険	定期・終身・養老保険、主契約と特約、必要最低補償額
5	損保・第三分野保険	損害保険（火災・地震・自動車)、第三分野保険
6	預金商品	普通預金、定期預金、外貨預金、預金保険
7	投資信託	投資信託、ヘッジファンド、企業再生ファンド
8	株式・債券	発行市場と流通市場、信用買いと信用売り
9	所得税(1)	所得の算出、損益通算、課税標準の計算
10	所得税(2)	所得控除、税額控除　、申告と納付
11	不動産取引	売買契約、賃貸借契約、不動産関連法令
12	不動産と税	取得、保有、譲渡、賃借にかかる税金
13	贈与・相続	贈与・相続と法律、相続税
14	相続税	相続税の算出・調整・申告、相続財産の評価
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と授業の総括を行う。

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上欠席すると評価対象外になる。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇３回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問はコースパワーで受け付けている。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

会社法Ⅰ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Companies Act I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

皆さんが就職をするにせよ、起業をするにせよ、会社法の知識は不可欠です。この講義では、会社法に関するさまざまな事件を取り上げて、会社法とは何か、そして会社法を使いこなしてビジネスをするにはどうしたらよいか、について学びます。
会社法をきちんと理解しておくと、ビジネスのあらゆる場面で役に立ちます。株式会社の『株式』とは何か、株主になるとどんなメリットとリスクがあるのか、もし会社の取締役になるとどんな責任を問われるのかといった経営において大切な知識が身につきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)仮想事例について適切な法的処理ができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、会社法の仮想事例に対して適切な法的処理ができるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)会社法と現実のビジネスとの関連性を理解し、多角的視野から分析できる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、会社法と現実のビジネスとの関連性を理解し、多角的視野から分析できるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%

評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	会社法総則	会社の基本概念、商号について解説
2	株式会社	会社と株式について解説
3	株式	株式の譲渡自由、譲渡制限について解説
4	株式の譲渡	譲渡及び担保化、権利行使について解説
5	特殊な株式保有	共有、信託財産に属する株式について解説
6	投資単位	株式並行、分割などについて解説
7	機関総論	機関設計の概要について解説
8	株主総会	株主総会について解説
9	株主総会の招集	株主総会招集手続などについて解説
10	議事・決議	株主総会の議事、決議について解説
11	決議の瑕疵	株主総会決議の瑕疵について解説
12	取締役	取締役の業務について解説
13	取締役会	取締役会設置会社における法的論点を解説
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田中亘（著）『会社法　第2版』東京大学出版会、2018年、978-4130323895

◇参考書：佐伯 仁志、大村 敦志（編）『ポケット六法　令和２年版』有斐閣、2019年
ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中、指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

会社法Ⅱ	隅田（スミダ） 浩司（コウジ）
Companies Act II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

皆さんが就職をするにせよ、起業をするにせよ、会社法の知識は不可欠です。この講義では、会社法に関するさまざまな事件を取り上げて、会社法とは何か、そして会社法を使いこなしてビジネスをするにはどうしたらよいか、について学びます。

会社法をきちんと理解しておくと、ビジネスのあらゆる場面で役に立ちます。役員の責任、会社の資金調達、合併買収、そして解釈の設立について実践的な知識が身につきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)仮想事例について適切な法的処理ができる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、会社法の仮想事例に対して適切な法的処理ができるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)会社法と現実のビジネスとの関連性を理解し、多角的視野から分析できる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、会社法と現実のビジネスとの関連性を理解し、多角的視野から分析できるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	取締役と会社の利害	競業避止義務、利益相反取引について解説
2	取締役の責任	取締役の責任について解説
3	会計参与・監査役	会計参与と監査役について解説
4	監査役会・会計監査人	監査役会・会計監査人について解説
5	監査等委員会設置会社	監査等委員会設置会社について解説
6	指名委員会設置会社	指名委員会設置会社について解説
7	役員などの責任	任務懈怠責任などについて解説
8	計算	会計帳簿、決算について解説
9	配当	株主への配当について解説
10	資金調達	募集株式について解説
11	新株予約権	新株予約権について解説
12	社債	社債について解説
13	設立・定款変更	設立・定款変更について解説
14	買収・結合・再編	買収・結合再編について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田中亘（著）『会社法　第2版』東京大学出版会、2018年、978-4130323895

◇参考書：佐伯 仁志、大村 敦志（編）『ポケット六法　令和２年版』有斐閣、2019年
ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇「会社法Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

民法Ⅰ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Civil Law I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、民法を扱います。民法は、ビジネスの基本中の基本です。企業に就職して、取引をするときには必ず『契約』を結びます。皆さんもそのうち、自宅を購入することになると思います、その時に住宅ローンのお世話になるかもしれません、そのような日常生活のルールを定めているのが民法なのです。またビジネスの世界は非情です。民法の知識がなければ、簡単に人にだまされ、自分のビジネスを乗っ取られてしまうこともあれば、不利な条件で仕事を引き受けることになってしまいます。この授業では、民法を戦略的に活用する方法を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、問題解決を導くことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	権利能力と行為能力	人の権利能力、行為能力について解説
2	制限行為能力	制限行為能力について解説
3	意思表示	意思表示について解説
4	錯誤、詐欺	意思表示に関する問題、特に第三者保護について解説
5	代理制度	代理制度、表見代理について解説
6	財産譲渡契約	売買契約について解説
7	契約責任	契約責任について解説
8	お金、家を借りる	消費貸借、借地借家法について解説
9	各種の契約	委任契約、請負契約などについて解説
10	弁済および時効	債務の履行および時効について解説
11	契約不履行	契約不履行の場合の責任について解説
12	債権回収	債権回収の基本的な手法について解説
13	変則的な債権回収	変則的な債権回収手法について解説
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、講義で必要な資料は CoursePower で配布します。

◇参考書：佐伯仁志、大村敦志（編集）『ポケット六法　令和２年版』有斐閣、2019年

ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語は厳禁です、違反者は履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

民法Ⅱ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Civil Law II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、民法を扱います。民法は、ビジネスの基本中の基本です。企業に就職して、取引をするときには必ず『契約』を結びます。皆さんもそのうち、自宅を購入することになると思います、その時に住宅ローンのお世話になるかもしれません、そのような日常生活のルールを定めているのが民法なのです。またビジネスの世界は非情です。民法の知識がなければ、簡単に人にだまされ、自分のビジネスを乗っ取られてしまうこともあれば、不利な条件で仕事を引き受けることになってしまいます。この授業では、民法を戦略的に活用する方法を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し問題解決を導くことができる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	物権総論	物件制度について解説
2	不動産物権変動	登記の仕組みについて解説
3	動産物権変動	動産の引渡、即時取得について解説
4	占有権	占有権について解説
5	所有権	所有権制度について解説
6	担保物権総論	担保物権制度について解説
7	質権	質権について解説
8	抵当権	抵当権について解説
9	抵当権の論点	抵当権の諸論点について解説
10	非典型担保	抵当権並びに、非典型担保について解説
11	法定担保物権など	留置権、先取特権などについて解説
12	用益物権など	地上権、永小作権および民法の各種論点について解説
13	不法行為	不法行為について解説
14	家族法・相続法	相続制度について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、講義で必要な資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：佐伯仁志、大村敦志（編集）『ポケット六法　令和２年版』有斐閣、2019年
ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に指示します。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語は厳禁です、このルールに違反した学生は履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経済法	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Economic Law	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、市場経済を支える経済法（競争法）の法理論と政策を取り扱います。授業では、談合やカルテルを規制する不当な取引制限、独占規制、そして合併や買収が競争に与える影響を分析する企業結合規制、そして不公正な取引方法を取り上げます。この講義を受講することによって、経営に必要な法的知識や法的思考力を習得することができます。またこの講義では、さまざまな業界を取り扱いますので、業界研究に役立つだけでなく、企業の経営戦略やマーケティング戦略についても理解を深めることができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義を理解しているかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を理解し、議論することができる	判例･学説の議論状況を把握しているかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)経済法の仮想事例について適切な法定処理を導出できる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、事例式問題に対して法的処理ができるかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
4)現実の経済問題について経済法の思考枠組みを応用できる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、現実の経済問題について経済法のの思考枠組みに基づき分析できるかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の10%

評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	共同行為(1)	不当な取引制限における意思の連絡について解説
2	共同行為(2)	不当な取引制限の諸要件について解説
3	共同行為(3)	不当な取引制限の事例研究
4	事業者団体	事業者団体規制について解説
5	企業結合規制の概要	企業結合規制の概要について解説
6	単独行動規制	単独行動規制について解説
7	協調行動規制	協調行動規制について解説
8	私的独占(1)	排除行為について解説
9	私的独占(2)	排除に関する最新事例について解説
10	私的独占(3)	排除と支配行為について解説
11	不公正な取引(1)	不公正な取引方法の概要の説明
12	不公正な取引(2)	ボイコット、差別対価、不当廉売など
13	不公正な取引(3)	再販売価格維持行為、優越的地位の濫用など
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower からダウンロードできます。

◇参考書：佐伯仁志、大村敦志（編集）『ポケット六法令和２年版』有斐閣、2019年
ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義のなかで予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は､履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

消費者法	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Consumers Law	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。世の中には悪徳商法や、いかがわしいビジネスにだまされて大金を巻き上げられてしまう人が沢山います。皆さんがそうならないためには、消費者法を学び、どんな悪徳商法があるのかをよく知る必要があるのです。特に景品表示法は、ビジネスをする上でも大切な法律です。なぜなら、景品表示法に違反した企業は、消費者の信頼を失うだけでなく、消費者庁又は関係省庁から行政命令や、課徴金という制裁を受け、さらに消費者団体から訴えられるからです。景品表示法違反等消費者法違反は、マスコミで報道されることもあります。ビジネスにおいて重要な消費者法を学ぶことによって、1)自分自身が、悪徳商法にだまされなくなり、2)消費者に配慮したビジネスを行うことができるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	消費者法総論	消費者問題と消費者法の全体構造を解説
2	消費者契約法	消費者契約法について解説
3	断定的判断提供	断定的判断の提供などについて解説
4	不利益事実不告知	不利益事実の不告知などについて解説
5	事業者の責任	事業者の損害賠償請求制限について解説
6	景品表示法	景品表示法の概説
7	優良誤認表示	優良誤認表示について解説
8	有利誤認表示	有利誤認表示の解説
9	各種表示規制	原産地表示など表示規制について解説
10	公正競争規約	各業界特有の規制と公正競争規約について解説
11	課徴金	景品表示法における課徴金制度について解説
12	景品規制	景品規制の解説
13	景品規制の論点	景品規制の論点解説
14	その他の消費者保護	クレジット・ローンなどその他の消費者規制について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：佐伯仁志、大村敦志(編集)『ポケット六法　令和２年版』有斐閣、2019年
ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁、違反者は履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

広告論Ⅰ	荒井（アライ）　誠（マコト）
Principle of Advertising I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

広告によって人々の意識がいかに変容するかというメカニズムから、広告メディアの変遷や、企業のブランド戦略における広告の役割などを、実際の広告やプロモーションの分析を通し学びます。

皆さんが実際に広告を創作する機会が3回あります。広告コピーの書き方やデザイニングとともに、広告の楽しさや難しさを体験することができます。ここで培われるコミュニケーション力は、社会人となる皆さんにきっと役に立ちます。

長年広告ビジネスに携わっている広告マンならではの話も飛び出す授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告によって、人々の購買への意識がいかに変容するかを理解する	実際の広告を事例として分析し、この意識変容のメカニズムにあてはめることで確認する。	20%
多様なメディアの特徴を活かした広告展開を理解する	各メディアの実際の広告を事例として比較・分析することで、メディア毎の広告の特徴を確認する。	20%
広告づくりを通し、自らの意思をいかにして表現するか、コミュニケーション力を培う	実際の広告創作の機会を３回設け、自ら考え、手を動かすことで、表現の組み立てる上での知見・工夫を会得したことを確認する。	30%
広告制作で重要な世の中の流行に対し、日ごろから着目する意識を培う	毎回、授業で取り上げる広告・プロモーション事例や、タイムリーな世の中の動きを、どのように受け止めたか、各自よりコメントを提出してもらうことで確認する。	30%

評価の方法　毎回授業後に提出する授業のポイントへのコメントと、提出する広告創作への取組姿勢､最終回の学習達成度の確認テストを総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	広告論アウトライン	広告論の授業内容と広告創作のオリエンテーション
2	広告表現	広告表現における３つの力
3	広告による意識変容	「購買への意識変容メカニズム」における広告の役割
4	ブランディング①	企業にとってのブランド戦略
5	広告創作①	受講生の広告創作へのフィードバック
6	ブランディング②	企業と顧客のブランドプロミス
7	ネーミング	商品・サービスや企業のネーミングの力
8	広告と音楽	広告におけるサウンド・音楽の力
9	メディア①	広告メディアの変遷と進化
10	広告創作②	受講生の広告創作へのフィードバック
11	メディア②	テレビ局や新聞社の挑戦
12	広報・ＰＲ	広報・ＰＲの特徴と企業コミュニケーション
13	インターネット広告	ＳＮＳ時代の広告・プロモーション
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくにありません。

【履修条件等】

◇自分の考えをどのように表現したらいいか、広告に限らず、日ごろの生活の中でのどのようにコミュニケーションしたらいいか、に関心のある学生にとって、役に立つ授業となります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇皆さんの周りには多種多様な広告が溢れています。普段意識することは少ないと思いますが、自分の好きな広告、嫌いな広告に対し、何故好きなのか、どこが気に入らないのか、を考えるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

広告論Ⅰ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principle of Advertising I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係を広告主の立場から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の考え方と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

広告論Ⅱ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principle of Advertising II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	ＯＯＨやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサとービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

社会心理学Ⅰ	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Social Psychology Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

社会心理学は人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で、どのような影響を受けて行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。

本講義では、社会的な人間の行動を“社会の中の個人”と“個人と集団・組織との関わり”の観点から理解することを目的とする。「社会心理学Ⅰ」では社会の中での個人と対人関係に焦点を当て、社会の中で生活する個人のパーソナリティの認知、他者理解のための対人認知、他者のパーソナリティの認知の観点を解説し、自己や他者のパーソナリティ理解を深めることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己とパーソナリティ	自己概念、自己評価、自尊心など自己に関するさまざまな側面から「自分とは何か？」を考える。そこから、社会の中で生活するパーソナリティの側面に目を向け、他者と関わる自己について理解する。	30%
対人認知と社会的認知	他者を認知し、性格を推測する対人認知の分野を概観する。個人の認知スタイルはその人の原因帰属によって環境の捉え方が異なることを理解する。	30%
態度と態度変容	社会行動を予測・説明するための態度の感情的成分、認知的成分、行動的成分を概観する。さらに、態度が変化するための説得的コミュニケーションの情報処理過程について理解する。	20%
対人関係とコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーションを概観し、情報伝達の影響とその認知過程を理解する。さらにコミュニケーションとしての対人行動から生じる対人葛藤の認知、感情、動機的な側面を理解する。	20%
評価の方法　本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	社会心理学とは	社会心理学とは
3	自己	自己の概念と形成、自己評価と自尊心
4	パーソナリティ	状況による人間行動と社会におけるパーソナリティ
5	対人認知	対人認知の特徴と暗黙の人格理論
6	帰属理論	帰属理論、対人認知と感情
7	社会的認知	ステレオタイプ、偏見と差別の認知的メカニズム
8	態度	態度とその諸属性、認知的均衡と態度変化
9	態度変化と説得	説得の受容と拒否、説得的コミュニケーション
10	攻撃と社会勢力	人間の攻撃性と社会的勢力
11	援助行動	援助行動とその規定要因
12	魅力と対人関係	対人魅力の規定因、対人関係の問題と認知の歪み
13	対人葛藤と交渉	対人葛藤と認知、感情、動機
14	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房

（「社会心理学Ⅱ」と同様）。

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

社会心理学Ⅰ	林（ハヤシ）　治子（ハルコ）
Social Psychology Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

社会心理学は、数ある心理学の研究分野の中で「人の暮らしに密着した行動を扱う心理学」と言える。日常生活の中で起こる「人の心と行動の不思議としくみ」について学ぶ。「社会心理学Ⅰ」では、社会生活の中での個人レベルと対人関係レベルに焦点をあてる。社会心理学の理論を打ち出したさまざまな実験や観察といった研究を紹介し、それに基づく個人の心のしくみと、個人対個人の関係を理解し、さらに、自己と他者との良好な関係を構築するために具体的な事例を取り上げながら理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】【授業計画】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の中での個人の行動や態度、心理に関する理解	設問への回答およびリアクションペーパーでの記述内容により評価する。 社会の中で生きる個人の態度と変容、自己知覚や意識といった心のしくみや行動を理論と合わせて理解できる。	30%
対人認知と行動のしくみについての理解	設問への回答およびリアクションペーパーでの記述内容により評価する。 人は他者をどのように理解しているか、対人認知や行動の原因を推論する原因帰属のしくみ、ステレオタイプと偏見に関する知識を理解できる。	30%
対人関係と魅力を形作るしくみの理解	設問への回答およびリアクションペーパーでの記述内容により評価する。 非言語コミュニケーションから得られる情報や理論に基づく対人魅力の条件を理解できる。	20%
説得や交渉場面における行動とその心理の理解	設問への回答およびリアクションペーパーでの記述内容により評価する。 説得的コミュニケーションのモデルとそのプロセスやテクニックを理解できる。問題解決のための交渉行動を理解できる。	20%

評価の方法　期末試験50%、授業終了時のリアクションペーパーや課題レポート30%、平常点（授業参加度など）20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、学習への取り組み方、評価方法への説明
2	社会心理学とは何か	社会心理学の歴史と動向、社会心理学の研究手法
3	社会の中の個人（1）	態度（バランス理論、認知的不調和理論）
4	社会の中の個人（2）	社会的アイデンティティと個人的アイデンティティ
5	社会の中の個人（3）	自己知覚とセルフモニタリング
6	社会の中の個人（4）	自己意識と学習理論（動機づけと自己効力感）
7	対人認知と行動(1)	対人認知と印象形成、暗黙のパーソナリティ理論
8	対人認知と行動(2)	原因帰属と基本的な帰属のエラー
9	対人認知と行動(3)	社会的カテゴリーとステレオタイプ、認知の歪みと偏見
10	対人関係と魅力(1)	表情の認知（非言語コミュニケーション）
11	対人関係と魅力(2)	対人魅力、第一印象と魅力の返報性
12	説得と交渉（1）	説得コミュニケーション
13	説得と交渉(2)	交渉と取引
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教 科 書：山岸俊男監修『徹底図解　社会心理学』新星出版社

◇参考図書：亀田達也監修『眠れなくなるほど面白い　図解　社会心理学』日本文芸社
他（授業内で順次紹介する）

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅱ」も受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業で指定された教科書の章をよく読んでおくこと。

◇日常生活の中で、次週授業で扱うテーマに関連する自分の行動や心のあり方を振り返ってみること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

◇授業終了時には、必ずリアクションペーパーを提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

社会心理学Ⅱ	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Social Psychology II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

社会心理学は、人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で影響を受けてどのように行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。「社会心理学Ⅱ」では、“個人と集団・組織との関わり”の観点から集団行動の理解と組織での人間行動の理解を目的とする。集団の中にいる時の個人の行動として援助行動、集団意思決定と生産性、社会的勢力などを理解し、さらに組織で生じる集団構造やリーダーシップの観点から人間の行動の理解を深めることを解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
集団と集団過程	集団の構造、成員性、集団間の関係を通して集団が認知と行動に及ぼす影響力について概観する。さらに、同調、集団とパフォーマンス、集団意思決定など集団内での相互作用とその影響を理解する。	30%
組織と個人	組織に所属する個人の心理や行動傾向に焦点を当て、さらに組織の構造や環境への適応に関する焦点を概観する。そこから、組織と個人の相互作用のプロセスに着目した経営組織について理解する。	30%
情報と社会	社会的ネットワークとメディアコミュニケーションについて概観する。身近な社会的ネットワークからマスメディアが構成する情報環境、さらにソーシャルネットワークとの関連性について理解する。	20%
健康と幸福	社会での適応と不適応状態の心理・行動について概観する。不適応状態におけるストレスと行動、さらに犯罪行動と集団非行を概観し、社会的な適応とストレス対処から幸福とは何かを理解する。	20%
評価の方法　本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	集団とは	集団とアイデンティティ
3	集団間関係	集団成員性と集団同一視
4	集団過程	同調と服従、集団とパフォーマンス
5	集団意志決定	集団意志決定と集団の生産性
6	組織と個人(1)	仕事への動機づけ
7	組織と個人(2)	人事アセスメントと組織コミットメント
8	リーダーシップ	リーダーシップの歴史的変遷と現在の潮流
9	社会的公正	価値の相対性と手続き的公正、衡平理論
10	社会的ジレンマ	社会的ジレンマと協力行動
11	群集心理	群集心理、緊急時の集合行動、流言
12	情報と社会	情報と社会的ネットワーク、マスメディアと世論
13	非行と更正	犯罪原因論の発想、集団非行の発生過程と更正
14	健康と幸福	適応、ストレスとコーピング、ソーシャルサポート
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房

（「社会心理学Ⅰ」と同様）。

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅰ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

社会心理学Ⅱ	林（ハヤシ）　治子（ハルコ）
Social Psychology II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

社会心理学は、数ある心理学の研究分野の中で「人の暮らしに密着した行動を扱う心理学」と言える。日常生活の中で起こる「人の心と行動の不思議と仕組み」について学ぶ。「社会心理学Ⅱ」では、集団や組織の中での人の行動や認知、さらに、社会心理学から派生した進化心理学や文化心理学にも興味を広げ、社会レベルでの人と行動の関係を実験や観察に基づく研究の中から読み解く。環境破壊、商品の買い占めといった社会現象や社会問題の具体的な事例も取り上げ、個人が社会との関わる中での問題解決の糸口を探る。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
集団における人間行動と心理の理解と考察	設問と課題、リアクションペーパーから総合的に理解度を評価する。 集団内で共有される思考や行動パターン、心理的特徴とその影響について実験と理論から理解することができる。自らの日常生活における行動と関連付けて考えることができる。	40%
社会現象や社会問題における心理の理解と考察	設問と課題、リアクションペーパーから総合的に理解度を評価する。 社会現象や社会問題に対する解決法を新たな視点で考えることができる。マスメディアの情報やその効果と影響についても理解できる。	30%
近年の社会心理学（文化心理学や進化心理学）の動向と特徴の理解	設問への回答、リアクションペーパーから理解度を評価する。 多様性が尊重される現代社会の中で、「文化」等を切り口とした分析の人間の思考や自己観および心理プロセスの違いを概観したうえで、社会の背景にある文化と心のしくみを理解できる。	20%
ウェルビーイングの意味と健康への理解	設問への回答から理解度を評価する。 「よりよく生きるとは何か」その意義と関連要因を学び、ストレスとその対処、サポートの授受、幸福感と健康に関する理解ができる。	10%
評価の方法　期末試験50%、授業終了時のリアクションペーパーや課題レポート30%、平常点（授業参加度など）20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、学習への取り組み方、評価方法の説明
2	集団の中の人間(1)	集団規範、同調と服従、少数者の影響と革新
3	集団の中の人間(2)	内集団・外集団の変容、分配的公正、社会的促進と抑制
4	集団の中の人間(3)	集団的浅慮、集団意思決定
5	集団の中の人間(4)	リーダーシップ
6	社会現象の心理(1)	予言の自己実現
7	社会現象の心理(2)	社会的ジレンマ、社会的交換
8	情報と社会(1)	攻撃行動、モデリング
9	情報と社会(2)	マスメディアの影響、都市伝説と流言
10	情報と社会(3)	群集心理、パニック
11	文化と人間の心理(1)	文化的自己観、分析的思考・包括的思考
12	文化と人間の心理(2)	個人主義と集団主義、一般的信頼
13	ウェルビーイング(1)	ストレスとコーピング、ソーシャルサポート
14	ウェルビーイング(2)	幸福感と健康
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教 科 書：山岸俊男監修『徹底図解　社会心理学』新星出版社

◇参考図書：亀田達也監修『眠れなくなるほど面白い　図解　社会心理学』日本文芸社
他（授業内で順次紹介する）

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅰ」も受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業で指定された教科書の章をよく読んでおくこと。

◇日常生活の中で、次週授業で扱うテーマに関連する自分の行動や心のあり方を振り返ってみること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

◇授業終了時には、必ずリアクションペーパーを提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

認知心理学	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Cognitive Psychology	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

認知とは、外界にある対象を知覚することで、解釈や判断を行う過程のことである。このため、知覚、記憶、理解、学習、問題解決、推論など人間の認知機能を研究対象とし、人間をコンピュータと同様に情報を処理するシステムであるとする考え方をとる。この手法として、実験心理学、認知神経科学、人工知能研究、進化心理学などさまざまなアプローチ法によって、こころの理解を目指す分野である。このような人間の情報処理システムの基礎知識を習得し、日常生活や産業場面においてどのように使われているかを理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
知覚の基礎	人間の情報処理システムと認知の関係について理解し、環境からの情報獲得として、特に「見る」という視覚の働きから高次の知覚である脳で「理解」することへのプロセスを解説する。	30%
表象とヒューマンエラー	アナログ表象、心的イメージを理解し、表象の脳機能からスキーマと手続き的知識の表現について解説し、日常生活や産業部面で生じるヒューマンエラーについて理解する。	20%
記憶と言語	日常的な記憶やと意識、ワーキングメモリについて解説し、生活の中での記憶や自伝的記憶などの特徴から、無意識に関連する潜在記憶についての性質について理解する。	20%
問題解決と推論	問題解決における探索と推論の形態について解説する。意思決定研究からヒューリスティックスに関する実証的研究を踏まえ、会議、議論、消費行動における意思決定とその誤りについて理解する。	30%
評価の方法　本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	認知心理学とは	人間の情報処理システムと認知
3	知覚の基礎	五感と視覚の基本属性　–環境の知覚
4	認知発達	認知発達と視覚認知
5	高次の知覚	顔の認識と身体感覚　–「見る」ことから「理解」することへ
6	注意	選択的注意と視覚的注意
7	表象とイメージ	心的イメージとスキーマ
8	認知進化と脳	脳の進化と表象の脳機能
9	ヒューマンエラー	手続き知識とヒューマンエラー
10	記憶	記憶とワーキングメモリ、目撃者と偽りの記憶
11	言語	言語処理の認知モデルと脳
12	問題解決と推論	問題解決の過程と推論、演繹推論と帰納推論
13	判断と意思決定	選択の歪みと判断の落とし穴
14	ヒューリスティックス	ヒューリスティックスとバイアス
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：道又爾、北崎充晃、大久保街亜、今井久登、山川恵子、黒沢学（著）
『認知心理学－知のアーキテクチャを探る－新版』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「心理学Ⅰ」、「心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

リスク・マネジメント	三好（ミヨシ） 陽介（ヨウスケ）
Risk Management Theory	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネスにおいてさまざまな意思決定を行うためには、メリットとデメリットを適切に比較することが必要になります。その際、意思決定に必要な情報が揃っていることはほとんどなく、多くの場合は不十分な情報をもとに判断することになります。

この授業では「リスク」について、1)不確実な将来を、現時点で評価するための方法と、2)起きてしまっては困る事態に対して、どのように備えるか、の２つの観点から考えます。各回の授業では講義のほか演習を行い「リスク」について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)リスクの種類と重要度についての理解	講義内容を理解し、リスクの種類と重要度についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)「現在価値」についての理解	講義内容を理解し、「現在価値」という概念についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)リスクの予防や対策についての理解	講義内容を理解し、リスクの予防や対策についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)リスクマネジメントを踏まえた意思決定についての理解と実践	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえ基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%

評価の方法　・授業への出席：最低でも70%（11回）以上出席すること。
・評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	
2	リスクの予測	どんなリスクがあるかを「感じる」
3	リスクの選別	対策すべきリスクを選ぶ
4	リスクの見きわめ	ダメージ、発生確率により対応するべきリスクを選ぶ
5	リスクの対策(1)	さまざまなリスク対策法について学ぶ
6	リスクの対策(2)	いまやれる対策と長期的な対策
7	合理的意思決定(1)	メリットとデメリットの比較
8	合理的意思決定(2)	メリットとデメリットをリスクの観点でとらえる
9	問題と課題	理想と現実の差：「問題」と、現実的対策としての「課題」
10	リスクを低減して未来を切り拓く	リスクに適切に対策し、デメリットを低減して成功確率を上げるための考え方
11	演習	これまでの学習内容についての演習を行い、理解を深める
12	模擬交渉(1)準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
13	模擬交渉(2)交渉	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

◇最低出席率(70%)を満たすこと。不正出席者は履修停止とします。

◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。

◇30分以上の遅刻は50%欠席とします。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

財務会計論Ⅰ	小森（コモリ）　秀人（ヒデト）
Financial Accounting Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

企業会計には、企業外部の株主、金融機関、取引相手、社会等の利害関係者に報告するための財務会計と、企業内部の経営者・管理者に報告するための管理会計がある。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。業界内での他社との公正な比較や理解と評価ができないからである。故に財務会計には明確なルールがありそれにのっとって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後の社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営と財務会計の関係、財務諸表の意味・体系とルール・法制度の理解	設問に対する回答で評価	20%
企業活動と B/S の関係、B/S の構成と主たる科目、資産と負債の本質理解	設問に対する回答で評価	30%
企業活動と P/L の関係、段階利益の意味、収益費用の認識測定の基本の理解	設問に対する回答で評価	30%
P/L と B/S の関係、外貨換算・リースの基本、会計方針株主総会・定款の意味理解	設問に対する回答で評価	20%
評価の方法　確認テスト20%、平常点10%　試験70% 単位評価は３分の２以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届―証明付きおよび４年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	概要、会計とは何か	講義の概要、会計の種類、企業活動（経営）と財務会計
2	財務諸表とは何か	財務諸表の体系、３種類の財務諸表、法制度、
3	会計原則と会計基準	企業活動と情報開示・報告のルール、(各国基準の例)
4	B/S とは何か　資産１	企業活動と B/S　B/S 全体構造、資産の本質、流動資産 事例
5	資産２	固定資産、繰り延べ資産、事例　貸倒引当金と減価償却
6	資産３、負債とは何か	資産の評価方法、負債の本質、流動負債と固定負債
7	純資産とは何か	出資と利益留保の各表示科目、評価換算差額等　包括利益
8	P/L とは何か	企業活動と P/L、段階利益と意味　費用の見方　事例
9	P/L Ⅱ	製造原価と売上原価、製造原価明細書、収益費用の認識測定
10	B/S と P/L の関係	収益費用の認識測定、企業活動と決算、B/S と P/L の関連
11	外貨換算会計	外貨の換算会計
12	リース取引の会計	ファイナンスリースとオペレーテイングリース
13	会計方針等	資産理論評価、会計方針の種類、注記事項、時価会計経過
14	株主総会と財務会計 総括・達成度の確認	計算書類の体系、総会の通知、定款の重要性、決算公告 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇テキストや参考書は開講時に紹介予定。
クラスでは必要に応じて各種資料を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」（または「経営学」）を履修した学生を対象とする。
◇本講義は、「財務会計論Ⅰ」と「財務会計論Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の１つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生―従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記」や「会計学」、「経営学」の復習。
経営や会計、さらにその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身につけてください。

【その他の注意事項】

◇私語、携帯電話の使用（メール、ウエッブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

財務会計論Ⅱ	小森（コモリ）　秀人（ヒデト）
Financial Accounting II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

財務会計は、企業外部に報告するための会計である。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。故に財務会計には明確なルールがありそれにのっとって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。「財務会計Ⅱ」では、「財務会計Ⅰ」の内容を踏まえ、連結と資産負債等の各論の会計処理、ROE等財務分析に焦点が当たる。合わせて国際会計基準にも言及している。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後に、グローバル化し行く現代と未来において、必要な社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個別と連結の違い、連結財務諸表の体系、連結 CF 表の見方を理解する	設問に対する回答によって評価	30%
資産会計、負債会計、純資産会計のの基本の理解	設問に対する回答によって評価	30%
総合指標 ROE と ROA と各指標の理解 分解方法と関連の理解	設問に対する回答によって評価	30%
国際会計基準とは何か、それと日本基準の大きな違いの理解	設問に対する回答によって評価	10%
評価の方法　確認テスト20%、平常点10%、試験70% 単位評価は３分の２以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届―証明付きおよび４年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	概要、連結とは何か	講義の概要、連結と個別の違い、子会社、関連会社等
2	連結財務諸表とは何か	被支配株主、連結 G 資本戦略、日米財務諸表の体系等
3	連結財務諸表Ⅱ	連結決算への流れ、連結 CF 計算書解説、見方と分析　事例
4	企業会計原則	会計基準１
5	企業会計原則	会計基準２
6	資産会計各論Ⅰ	金融商品、金融資産、金銭債権　有価証券
7	資産会計各論Ⅱ	棚卸資産、有形固定資産、減価償却、無形固定資産
8	資産会計各論Ⅲ	固定資産の減損会計
9	負債会計各論	金銭債務、引当金、退職給付の会計
10	純資産会計	株主資本、配当、自己株式、新株予約権、包括利益
11	財務分析Ⅰ	定量分析と定性分析、傾向分析と比率分析、総合指標 ROEROA
12	財務分析Ⅱ	収益性と効率性、生産性、安全性と財務格付け、セグメント分析
13	国際会計基準１	世界の２大基準、その体制、財務諸表の体系、早期適用状況
14	国際会計基準Ⅱ	日本基準との違い、見方における大事な論点
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇テキストや参考書は開講時に紹介予定。
クラスで必要に応じて各種資料を配布予定。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」（または「経営学」）を履修した学生を対象とする。
◇本講義は、「財務会計論Ⅰ」と「財務会計論Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の１つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生―従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「財務会計論Ⅰ」の復習（必要な場合、入門簿記・経営学も復習）。
経営や会計、更にその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身に着けてください。

【その他の注意事項】

◇私語、携帯電話の使用（メール、ウエッブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

管理会計論Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Management Accounting Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。その中で春学期は、企業がどのような数的根拠を用いて、利益最大化を常に達成し続けるための業績評価を行っているかといった、業績評価に関するテーマを学習します。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
標準原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 とくに、同じ計算手続きに用いるデータの違い・データの違いにより生じる差が、経営管理上でどのように活用されるか理解してください。	30%
直接原価計算と全部原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算と全部原価計算の計算手続き上の特徴を理解することが重要です。	30%
ＣＶＰ分析とその利活用に関して	設問に対する回答により評価します。 ＣＶＰ分析が必要になる場面、得られた情報をどう解釈するかを理解することと、計算手続きの一連の流れを理解することが必要になります。	30%
経営シミュレーションゲームを通して管理会計上で使われる経営情報の有用性を確認する	講師が作成した経営シミュレーションゲームを受講者全員でプレイしてもらいます。そのゲームを通して生じるデータから管理会計上で生じる経営情報を作成し、その活用を実体験することで、管理会計が経営管理を行う上で必要であることを理解ください。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、中間テストの形式で実施を予定しております。

貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義に関連する日商簿記検定試験に関しての説明、本講義の進め方、評価方法などに関しての説明
2	管理会計概論	管理会計に関する基礎知識を学ぶ
3	管理会計の発達史	管理会計が歴史的にどのように発達してきたか学ぶ
4	組織と管理会計	経営を管理するうえで、企業がどのような組織形態を持っているのかなど、経営組織について学ぶ
5	組織と経営計画	経営組織を利益最大化目的に沿って行動させるための経営計画について学ぶ
6	管理会計と経営戦略	管理会計の中で用いられる経営戦略の手法などを学ぶ
7	利益計画と直接原価計算	原価計算の手続きを用いてどのように具体的な利益計画が作られるか学ぶ
8	プロダクトミックス	より複雑な利益計画を線形計画法を用いて学ぶ
9	中間テスト	テスト
10	責任会計と業績評価	経営組織の評価を行う手法を学ぶ
11	業績評価と標準原価計算	計画値と実際値を用いた業績評価の技法を学ぶ
12	業績評価と活動基準原価計算	比較的新しく出てきた活動基準原価計算を用いた業績評価を学ぶ
13	業績評価会計まとめ	業績評価会計で学んだことをまとめる
14	前期講義内容まとめ	期末テスト

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）もしくは、日商簿記２級同等の知識を有することを前提とします。難易度の高い計算演習を行うため、その事を念頭に講義を受講してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中だけでは問題演習をこなすことは出来ないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

管理会計論Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Management Accounting II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。秋学期は、企業が意思決定を行う際に、どのような数的根拠を用いて合理的に意思決定を行うのか、といった意思決定に関するテーマを学習します。その後に興味のあるテーマを元にグループワークを行ってもらいます。このグループワークという作業を通して管理会計上のマネジメント手法の理解を深めるとともに、グループワークの難しさを理解し習得してくだされば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理会計がなぜ必要なのかを理解する	管理会計情報でなぜ経営管理を行うことや業績管理を行うことなどが可能になるのかを理解しましょう。	30%
会計情報と業績管理の関連性を理解する	業績管理をするときに、どのような会計情報が求められるのか、会計情報をどの様に使うのかを理解しましょう。	20%
管理会計を行う上での組織の在り方との関係を理解する	企業の組織構成というものはさまざまな形があることは言うまでもないでしょう。さまざまな組織がある中で、管理会計手法に違いはあるのか、それとも共通性があるのか設例を通して学びましょう。	20%
グループワークを通して、管理会計の事例を研究しよう	管理会計の理論を講義で学んだあとに、興味のある管理会計手法に関してグループワークを行うことで理解を深めましょう。その中で、プレゼンの仕方・資料の作り方など指導します。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験30%、グループワーク60%で評価します。※期末試験・グループワークに関しては講義中に補足説明します。
グループワークのグループ決めは講義第２回目に行います。必ず出席するようにしてください。
貢献点は、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	前期の復習	前期学習した業績評価会計に関する復習
3	業務的意思決定会計 ―基礎編―	様々なケースで企業がいくら損をしたとみなすか考察していきます
4	業務的意思決定会計 ―受注か自製か―	企業が二者択一意思決定案件に際して、管理会計技法を用いてどのような合理的な判断を下すか学習します
5	業務的意思決定会計 ―まとめ―	今までの内容をまとめ、短期の意思決定に関する理解を深めます
6	設備投資の意思決定 ―基礎編―	多くの会計の場合、利益が意思決定の根拠とされることが多いが、長期的意思決定の場合、キャッシュに着目する。そのことに関して学習する
7	設備投資の意思決定 ―お金の時間的価値について―	今の100万円と１年後の100万円の価値を考えることを起点に、お金の時間的価値について学ぶ
8	設備投資の意思決定 ―タックスシールドについて―	会計は貨幣的な支出を伴わない支出などがある。そういった場合、税金にどのように影響を及ぼすか学習する
9	設備投資の意思決定 ―実践編１―	実際のケースを使って設備投資の意思決定を行う
10	設備投資の意思決定 ―実践編２―	実際のケースを使って設備投資の意思決定を行う
11	グループワーク準備	グループワークの進め方など
12	グループワーク準備	グループワーク進捗管理
13	グループワーク発表(1)	グループで調べた内容のプレゼン及び評価
14	グループワーク発表(2)	グループで調べた内容のプレゼン及び評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）もしくは、日商簿記２級同等の知識を有することを前提とします。また、グループワークを行いますので途中で履修を取りやめる方はご遠慮ください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇グループワークの内容が決まり次第、各グループで報告に向けてリサーチをすること。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のデスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法　授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計＆管理会計	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計＆管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計＆管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割＆機能(1)	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割＆機能(2)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割＆機能(3)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割＆機能(4)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割＆機能(5)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割＆機能(6)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
13	管理会計の応用(1)応用に向けてのオリエンテーション	27	管理会計の応用(15)テーマ別発表(3)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	28	管理会計の総まとめ(1)
		29	管理会計の総まとめ(2)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）科目を履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎１～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
応用１～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミデスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレス・マネジメント、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期はよりよい論文執筆ならびにチーム・プロジェクトのマネジメント方法についての学びを深めます。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。年間を通じて、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開できるように学習を進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文①（推敲・企画と作成）	①昨年度執筆のゼミ論文の相互見直し（推敲）作業のスキルについて評価する。②テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出（推敲含む）を評価する。	20%
ゼミ論文②（執筆）	体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク（ディスカッション、プレゼンテーション）	①チーム・プロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する。（たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など）②チーム・マネジメントを評価する。 ②日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営･参加（コミュニケーション）	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランタリー・スピリッツという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法　・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点（行事参加等含む）20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	15	グループワーク②－１
2	プレゼンテーション	16	グループワーク②－２
3	ゼミ論文①－１	17	グループワーク②－３
4	ゼミ論文①－２	18	グループワーク②－４
5	ゼミ論文①－３	19	グループワーク②－５
6	ゼミ論文①－４	20	ゼミ論文　中間提出
7	ゼミ論文①－５	21	グループワーク②－６
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	22	グループワーク②－７
9	グループワーク①－１	23	グループワーク②－８
10	グループワーク①－２	24	グループワーク②－９　＊ゼミ発表大会
11	グループワーク①－３	25	グループワーク②－10
12	グループワーク①－４	26	グループワーク②総括
13	グループワーク①－５・総括	27	ゼミ論文②－１
14	ゼミ合宿準備　＊夏期休暇中ゼミ合宿	28	ゼミ論文②－２
		29	ゼミ論文②提出

【使用教材】

◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
◇ゼミの要としての自覚を持ち、お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習 I	円城寺（エンジョウジ） 敬浩（タカヒロ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：組織（主として企業組織）の持続的競争力について考える

このテーマを軸に、演習活動を通じて、企業経営における知識や理論等を修得しながら、グローバル競争のなかで、企業はいかにして持続的競争力を獲得することができるのかを探求していきます。

演習活動はゼミ生皆の協働により運営されます。その活動を意義あるものにするかどうかは、ゼミ生各々の姿勢如何に関わってきます。演習への取り組みは時として楽ではないこともあるかと思いますが、お互いに切磋琢磨し、物事の本質を捉え、自ら問題を解決してく力も演習活動を通じて身につけて欲しいと考えています。専門書の輪読／報告／議論が普段のゼミ活動となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマを自ら見つける能力をつけること	研究テーマを自ら見つけることができるか。そのための資料集めなどの方法を修得できたか。	20%
研究テーマを論理的に考察する能力をつけること	ゼミ員との議論等も踏まえながら、研究テーマを論理的に考察していくことができるか。	20%
研究発表（輪読報告や中間報告含むプレゼン）する能力をつけること	ゼミ員に研究内容を伝える能力があるか。	20%
研究テーマを論文として完成させる能力をつけること	社会科学の論文の書き方を理解できなおかつ実際にその形式に沿って論文（ゼミ論）を完成させることができるか。	40%

評価の方法　ゼミはゼミ員同士の議論が中心に進められるので、出席を最重視し（総合評価の50%以上を占める）、上記の能力およびゼミへの貢献度を勘案して総合的に評価します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	15	秋学期ガイダンス
2	研究方法論①	16	輪読12＋研究中間報告①
3	研究方法論②	17	輪読13＋研究中間報告②
4	輪読１＋報告	18	輪読14＋研究中間報告③
5	輪読２＋報告	19	輪読15＋研究中間報告④＋ゼミ大会準備
6	輪読３＋研究テーマ設定①	20	輪読16＋研究中間報告⑤＋ゼミ大会準備
7	輪読４＋研究テーマ設定②	21	輪読17＋ゼミ大会準備
8	輪読５＋研究テーマ設定③	22	輪読18＋ゼミ大会準備
9	輪読６＋研究テーマ設定④	23	輪読19＋ゼミ大会準備
10	輪読７＋研究中間報告①	24	輪読20＋ゼミ論作成①
11	輪読８＋研究中間報告②	25	輪読21＋ゼミ論作成②
12	輪読９＋研究中間報告③	26	輪読22＋ゼミ論作成③
13	輪読10＋研究中間報告④	27	ゼミ論作成④
14	春学期総括	28	ゼミ論作成⑤
		29	秋学期総括＋ゼミ論提出

【使用教材】

◇教科書：最初の演習時に決定します。

◇参考書：ヘンリー・ミンツバーグ編著、斎藤嘉則監訳『戦略サファリ－戦略マネジメント・ガイドブック』東洋経済新報社、1999年

◇その他は適宜指示します。

【履修条件等】

◇チームワークが重要になるので、遅刻・欠席は厳禁です。大人としての自覚を持って演習に参加するようにしてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出されたときは、必ず課題をこなして参加してください。何かを事前に調べるときはＷＥＢだけに頼らずに、関連書籍に当たるなど能動的な資料集めに努めてください。

【その他の注意事項】

◇履修希望者はゼミ入室申請前に、必ず本館２階のゼミ掲示板（円城寺ゼミ）に目を通してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習 I	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%

評価の方法　演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	ゼミ発表大会に向けたテーマ選定
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	16	ＧＭＴ企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	17	〃
4	関心のあるテーマについて発表	18	ＧＭＴ企業訪問
5	〃	19	ゼミ発表大会に向けた資料作成
6	〃	20	〃
7	グループ発表のテーマ選定	21	〃
8	グループワーク	22	〃
9	〃	23	ゼミ発表大会の予行演習
10	〃	24	ゼミ発表大会の振り返り
11	〃	25	レポート作成作業
12	〃	26	〃
13	グループごとに発表	27	〃
14	まとめ（気づき、反省、決意）	28	レポート提出
		29	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力

企業が経営目標を達成するためには、働く人が重要になります。さまざまな能力やパーソナリティ、興味、動機づけを持つ多様な人々の存在する組織の中で、働く人をどのように活かしていくのかという観点から、人の持つ心の特徴と組織での行動について演習の中で考えていきます。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人事アセスメントとは	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識をテーマに沿って、論理的に理論や概念を説明できるように、テキストの輪読を通してレジュメを作成できるようにする。	10%
業種別に求められる能力とは	職業環境を業種別に分け、業種別によって求められる能力や人材を調査する。さらに、この能力はどのように評価されるのか、昇進昇格や給与体系などの企業側の報酬制度について考察する。	30%
業種研究と調査	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	30%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもらう。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%
評価の方法　発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	共同調査研究
2	人事アセスメントとは	16	
3		17	
4		18	調査データ収集と分析
5	業種別に求められる能力とは	19	
6		20	
7		21	調査論文の作成
8		22	
9	企業側が求める人材像とは	23	
10		24	調査論文の発表
11		25	
12	個人論文	26	
13		27	まとめ、来年度に向けたテーマ設定
14		28	
		29	

【使用教材】

◇教科書：初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジュメやＰＰＴ資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

（内容）

皆さん、次に来るビジネスはなにか？それは金融です。世界のトップ企業である GAFA（ガーファ）が金融業に参入を始めています。例えば、アップル社がクレジットカードを発行し始め、フェイスブック社が仮想通貨を発行します。こうした GAFA の動きに日本で対抗できそうなのはソフトバンクのみです。ヤフーとラインの経営統合は、通信キャリアと金融の融合であると言えるでしょう。もう一度言います。これからは金融の時代です。

清水ゼミで研究できるテーマ例（金融系）は下記の通りです。

・貯蓄から投資への移行～個人の投資信託による資産形成、証券会社の観点からの提言～
・ユニコーン企業の出口戦略～ IPO か M&A か～
・仮想通貨の可能性
・非上場企業による資金調達手段の提言
・負債性資金に依らない地方自治体による資金調達方法
・FX 投資の健全性確保～投資家保護の観点から～

（教授法）

・専門書の輪読
・学生によるレジュメ作成と内容報告
・質疑応答
・議論のテーマ決定　→　学生同士のディスカッション　→　教員のコメント

（研究テーマ）

現代の金融に関する問題

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取り扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取組み方・提出された課題を教員が評価する。	平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%
評価の方法　平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
＜春学期＞ (1)テキストの輪読 (2)テーマ設定：各人が研究テーマを設定する。 (3)研究内容の報告 (4)夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）	＜秋学期＞ (1)ゼミ発表大会で報告するテーマの設定 (2)ゼミ発表大会：ゼミ生全員がプレゼンに参加する。 (3)レポートの仕上げ（締切：卒業論文締切日）

【使用教材】

◇教科書：初回の演習時において話し合う。

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

◇①考慮すべき理由のない欠席、無断欠席をした場合、ペナルティー（追加レポートの提出）を課す。

◇②学習意欲のない者の履修は認めない。

◇③全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した大学行事において無断欠席をした場合は単位取得を認めない。

◇④ゼミ内で交わした約束（ルール）を守れない場合、履修登録を取り消してもらう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇卒業論文の提出を必須とするゼミです。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習 I	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

わたしの専門は、経済法、国際経済法そして交渉学です。従って、この専門演習では、この３つの領域を取り扱います。経済法では、経済法（競争法、ともいいます）に関する最新論点について学び、国際経済法では、貿易・通商法の基礎について学びます。そして、交渉学では、模擬交渉を中心とした交渉力強化トレーニングを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の習得	経済法、国際経済法および交渉学の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
論点発見能力	経済法、国際経済法および交渉学の論点を適切に抽出し、その論点の射程範囲を理解しているかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い･態度ができるかについて、課題とディスカッション内容によって評価します。	40%
評価の方法　ゼミへの積極的参加姿勢と、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。評価は、参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経済法に関する基礎知識の解説	15	ゼミ発表大会の準備1
2	経済法の法的処理の考え方の解説	16	ゼミ発表大会の準備2
3	不当な取引制限事例演習1	17	ゼミ発表大会の準備3
4	不当な取引制限事例演習2	18	ゼミ発表大会の準備4
5	私的独占事例演習1	19	ゼミ発表大会の準備5
6	私的独占事例演習2	20	ゼミ発表大会の準備6
7	企業結合事例演習1	21	GATT-WTO 体制の解説7
8	企業結合事例演習2	22	最恵国待遇・内国民待遇の解説
9	交渉学の基礎理論の解説	23	地域貿易協定の解説
10	交渉学演習	24	農業貿易・衛生植物検疫等の解説
11	不公正な取引方法事例演習1	25	貿易救済措置の解説
12	不公正な取引方法事例演習2	26	サービス貿易の解説
13	ゼミ発表大会の論点提示	27	投資・知的財産の解説
14	ゼミ発表大会の課題探求	28	政府調達・電子商取引の解説
		29	環境・労働紛争処理の解説

【使用教材】

◇教科書は指定しません、ただし、経済法、国際経済法、交渉学に関する参考文献を演習中、指示します。必要に応じて書籍は各自、購入する必要があります。

◇法律の演習なので六法を必ず購入して下さい。

推奨：佐伯 仁志、大村 敦志（編）『ポケット六法　令和2年版』有斐閣、2019年

ISBN：978-4641009202

【履修条件等】

◇経済法は必ず履修してください。

◇消費者法、民法Ⅰ・Ⅱ、会社法Ⅰ・Ⅱの履修を強く推奨します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ほぼ毎回、予習課題が指示されますので、課題の提出が必要です。

【その他の注意事項】

◇参加意欲が乏しい場合、専門演習の履修を取りやめてもらう場合があります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

テーマ：ワークモチベーション　～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」について様々な角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているか、になります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているか、になります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%

評価の方法　個人作業の内容：40%
集団作業の貢献度：40%
授業態度およびゼミ運営：20%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	15	秋学期テーマ設定会議
2	春学期テーマ設定会議	16	ゼミ発表大会準備
3	テキスト講読①	17	・テーマに沿った資料の輪読
4	・テーマ設定会議で決定した内容に	18	・テーマについてのディスカッション
5	関連するテキストの輪読	19	・パワーポイント作成
6	・レジュメ作成・発表	20	・パワーポイント発表練習
7		21	・振り返り
8		22	
9	グループワーク設定会議	23	
10	グループワーク	24	テキスト講読②
11	・テキスト購読を通じて発見した課	25	・レジュメ作成・発表
12	題の解決	26	・学期末レポート作成
13	・グループディスカッション	27	
14		28	
		29	年間フィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示します。

◇参考書：授業時に指示します。

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。

◇与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。

◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしましょう。

【その他の注意事項】

◇ゼミ行事（合同ゼミ、ゼミ合宿などを予定）への積極的な参加を求めます。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（２級程度)、会計理論（財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」程度)、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「プロフェッショナルセミナー」で取得したリテラシーをもちいて、(a)情報を整理・分析することができる。(b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。(c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 「プロフェッショナルセミナー」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、(a)問題を自ら発見し、(b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)グループワークに貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法　発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。		

【授業計画】

＜春学期＞

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

＜秋学期＞

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇常に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計論Ⅰ」、「税務会計論Ⅱ」、「管理会計論Ⅰ」、「管理会計論Ⅱ」、「経営分析論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇簿記（３級程度)、会計理論（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」）の知識を確認すること。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。

◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	花尾（ハナオ）　由香里（ユカリ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者心理と行動、マーケティング戦略

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、輪読形式で文献レビューを行っていくとともに、班別での研究活動を進める。秋学期は、実際の消費者行動を分析するとともに、企業側の視点に立ち、マーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し発表することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。輪読の担当箇所のレジュメを作成し、実際の商品例等を挙げながら他者にわかりやすく内容を説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できるようになる。	25%
消費者行動やマーケティング戦略にまつわる意見交換や議論に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できるようになること。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加し貢献すること。	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、個人発表の内容20%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%とする。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業のガイダンス	15	班別研究の途中経過報告
2	・個人研究テーマの選定と研究法	16	・班別研究についての調査分析
3	・最新のビジネスの話題に基づくディス	17	・ゼミ発表大会準備
4	カッションと戦略立案	18	
5	・班別研究テーマの選定	19	
6		20	
7		21	
8		22	
9		23	
10		24	
11		25	・最新ビジネスの話題に基づくディス
12		26	カッションと戦略立案
13		27	
14	研究報告準備	28	
		29	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指定する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、個人の発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自分や他者の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

◇演習には、極力休まずに出席すること。

◇ユニークなアイデアを出す努力をすること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習Ⅰ」では、まずテキストを輪読し、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより理解を深めていく。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	15	プレゼンテーション
2	輪読	16	プレゼンテーション
3	プレゼンテーション	17	ゼミ発表大会の準備
4	輪読	18	ゼミ発表大会の準備
5	プレゼンテーション	19	ゼミ発表大会の準備
6	輪読	20	ゼミ発表大会の準備
7	プレゼンテーション	21	ゼミ発表大会の準備
8	輪読	22	ゼミ発表大会の準備
9	プレゼンテーション	23	ゼミ発表大会の準備
10	輪読	24	ケーススタディ
11	プレゼンテーション	25	ケーススタディ
12	輪読	26	ケーススタディ
13	プレゼンテーション	27	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
		29	まとめ（学んだことと各自テーマ発表）

【使用教材】

◇（日野隆生共著）『マーケティング戦略論（第２版)』学文社、2019年

◇日野隆生（編著）『サービス・マーケティング―理論と実践―』五絃舎、2018年

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは禁止です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習 I	広瀬（ヒロセ） 盛一（モリカズ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動、スマートフォンを用いたマーケティング・コミュニケーション活動、ＣＳＲ広告

広告やマーケティングの理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやＳＰＳＳなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

＜春学期＞

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

＜秋学期＞

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習 I	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：国境を越えたビジネスを学ぶ

近年、日米欧をはじめとした先進諸国の小売・流通企業は自国の市場の成熟化を受け、新興諸国市場への国際展開を積極的に行っている。本演習では、コンビニエンス・ストアやスーパーマーケットなどの小売・流通企業を中心に、グローバルな視点でこれら企業のマーケティング戦略に関する諸処の問題についての基礎的知識の習得を目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキルを身につけていること	演習におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの使用方法を理解しレジメを作成できることが要請される。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
グローバルな視野で企業が直面している諸問題について発見し説明できること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。グローバルビジネスに関する学術書、論文、ニュースから問題点を探り出し、他のメンバーと共有できることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	演習におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%

評価の方法　全29回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、レジュメ発表などの分担貢献度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言の積極性50点を基準に評価する。

【授業計画】

＜春学期＞

・研究発表レジュメの作成およびそのプレゼンテーションの練習
・国際流通論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読
・各種データおよび資料の調査方法の習得
・小売・流通企業の国際展開に関する現状と課題の把握

＜秋学期＞

・春学期の基本的文献の輪読からの学習、レジュメ作成およびプレゼンテーションから培った能力をベースに、研究レポートを学内および学外に向けて発信することを目的とする。

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。
◇参考書：矢作敏行著『現代流通―理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年
諸上茂登・藤澤武史著『グローバル・マーケティング』中央経済社、1997年

【履修条件等】

◇グローバルビジネスに興味や関心があり、なおかつ積極的にゼミ活動に参加できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇研究発表の際には、惜しみなく時間をかけて事前学習し準備する。
◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇演習中は積極的な質疑応答およびコメントの発言が強く求められる。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業による環境問題の解決

・ＬＧＢＴと企業

・障害者と企業

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%

評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	16	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	17	調査
4	調査およびディスカッション	18	
5	プレゼンテーション準備	19	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	20	
7	研究テーマの検討	21	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	22	
9	調査およびディスカッション	23	
10	プレゼンテーション準備	24	
11		25	ゼミ発表大会の振り返り
12		26	研究テーマの設定
13	プレゼンテーション	27	プレゼンテーション準備
14	振り返り	28	プレゼンテーション
		29	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：「経済・金融問題の分析」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」のが「経済（学)」の役割です。社会的な課題を発見し、その課題の根本理由を考え抜き、解決策(施策)の提案を行うのが本専門演習の目標です。また、文化祭（模擬店）に参加し、発想力、協働力、問題解決能力なども養います。履修者には「経済・金融の『今』を知りたい」という積極的な姿勢を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組めているか否かによって評価を行う。研究・課題には文化祭への参加を含む。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法　平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する)。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	研究テーマの確認	15	ゼミ論文確認
2	先行研究サーベイ１	16	プレゼン準備１
3	先行研究サーベイ２	17	プレゼン準備２
4	先行研究サーベイ３	18	プレゼン演習１
5	先行研究サーベイ４	19	プレゼン修正１
6	調査法１（統計学基礎）	20	プレゼン修正２
7	調査法２（T 検定/F 検定）	21	プレゼン演習２
8	調査法３（相関分析/因子分析）	22	プレゼン修正２
9	調査法４（回帰分析）	23	プレゼン演習３
10	調査結果まとめ１	24	プレゼン修正３
11	調査結果まとめ２	25	研究計画書の作成１
12	分析・考察１	26	研究計画書の作成２
13	分析・考察２	27	研究計画書の作成３
14	分析・考察結果まとめ	28	研究計画書の作成４
		29	研究計画書の作成５

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇参考書：講義中に適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上欠席すると評価対象外になる。

◇遅刻、無断欠席、私語、無関心な姿勢などは一切許さない。

◇ LINE、Google Document、Microsoft Word、Excel、PowerPoint のリテラシーを要する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の演習を通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇授業計画（臨時ゼミの開催など）は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	光澤（ミツザワ） 美芽（ミメ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：財務会計

このゼミでは、財務会計をテーマに、４年次の専門演習の基礎固めとして、より高度な専門性を獲得したうえで、現代会計における様々なテーマについて研究活動を展開することを目的としている。

春学期では、わが国の企業会計制度のなかから自身が興味を持ったトピックを選び、その概要、会計上の論点をまとめて報告してもらったうえで、全員でディスカッションをする。秋学期では、前半はゼミ発表大会に向けて研究・調査活動と報告を重ねる。後半は個別にテーマを選定し、卒業論文の作成を視野に入れて個人研究活動を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商２級程度）、会計理論（「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」程度）の知識を有しているか。ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理・分析することができるか。	10%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	10%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝達することができるか。実のある議論ができるか。	10%
論理的思考力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 グループ研究活動および個人研究活動において、テーマの設定から結論に至るまでの論理展開が適切になされているか。文献引用が適切になされているか。自分の意見と異なる見解に対する反証やその論拠など論理的な思考の構築ができているか。	50%

評価の方法　ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）および研究成果により評価。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	オリエンテーション
2	報告およびディスカッション	16	報告およびディスカッション
3		17	
4		18	
5		19	
6		20	ゼミ発表大会準備
7		21	
8		22	
9		23	
10		24	ゼミ発表大会振り返り
11		25	個人研究テーマの報告
12		26	個人研究活動
13		27	
14	まとめとゼミ発表大会テーマ決定	28	
		29	個人研究報成果告

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」、「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」を履修済みであること。

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」、「管理会計論Ⅰ」、「管理会計論Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記３級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。

◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（ＰＰＴおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。

◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。

◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等ＳＮＳの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（遊戯、笑い、アート、物語）を活用したマーケティング

春期においては、ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨き、マーケティングプランニング（商品開発、広告企画、プロモーション企画、新事業創出など）を行なえるようなスキル獲得を目指します。秋期には、ゼミとしての独自の研究設計～実践を行います。企業との連携授業（ＰＢＬ）や各種コンテストへの参加、企業訪問、学外視察・見学、他校との交流、外部講師の招聘なども随時行いたいと思います。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「こども環境絵画を活用した環境啓発ゲームの開発」（花王と連携）「ボードゲームが育む社会的スキルに関する調査研究」（ＧＰと連携）「企業のユニークな風習・制度と企業理念との関わりに関する研究」「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」（手塚プロダクションと連携）「高田馬場観光地化計画案」「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」（アントレックスと連携）等。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度・協調性・リーダーシップ50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	16	秋学期研究活動の準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	17	研究方向の確認と役割分担
4	ビジネスリテラシートレーニング②	18	個人研究と発表①
5	ビジネスリテラシートレーニング③	19	個人研究と発表②
6	ビジネスリテラシートレーニング④	20	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	21	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	22	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	23	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	24	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	25	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	26	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	27	グループ研究発表④
14	総括と達成度の確認	28	流通視察・ショウルーム見学
		29	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社等

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング」を受講していること。

◇受講生同士で積極的な人間関係をつくろうとする人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等)、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。
本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミは学生が能動的に学習する場です。欠席や遅刻した場合は、自分から埋め合わせをしなければならないということを心得ておいてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：社会構築主義から見た企業倫理

今年度は、現実を社会的に構築されたもの（絶対的存在ではなく、みんなが主観的に作り上げていくもの）として見る、社会構築主義を考える。そして、現実を社会的に構築されたものとして考えた場合に、企業の倫理はどう作られていくかを考える。

それぞれの企業で、現実はどうとらえられ、それに基づいてどのような倫理水準が設定されるのかを考える。できれば実験をしてその過程を明らかにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会構築主義が説明できる	演習内での積極的な発言。	25%
社会構築主義と客観的な現実との違いを説明できる	演習内での積極的な発言。 客観的な現実の例を挙げられる。 社会構築された現実の例を挙げられる。	25%
シンボリックな見方を理解できる	演習内での積極的な発言。 シンボルの例を挙げられる。	25%
シンボルを応用できる	演習内での積極的な発言。 実際にシンボルをどのように利用できるかの例を挙げて説明できる。	25%
評価の方法　自分で考え、積極的に発言でき、他人の意見もよく聞け、自分の意見を修正できるか。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	はじめに	15	実験準備
2	客観的現実とは	16	
3		17	
4		18	実験
5	社会的に構築された現実とは	19	
6		20	
7		21	シンボルを探す
8		22	
9	社会的に構築された現実を探してみる	23	
10		24	シンボルの影響を探る
11		25	
12	シンボリックな世界	26	
13		27	まとめ
14		28	
		29	

【使用教材】

◇教科書：１回目の授業で指示します。

【履修条件等】

◇まじめに出席し、他のゼミの仲間と仲よくでき、山口ゼミに楽しくかつアカデミックな現実を構築できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コマーシャル、新聞、ニュースに常に関心を持ち疑問を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習 I	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。初年次に学習した経営学の基礎的な内容をふまえ、「事業とは何か」、「企業とは何か」、という経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査やフィールドリサーチなどを行い、グループ学習を実施します。最終的に、ひとつのプレゼン資料にまとめ、学内のゼミ報告大会にて研究報告します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
２．個々の問題意識の醸成	同上。	20%
３．チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
４．創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法　ゼミナール活動全般を通じて、上記の４項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	16	資料調査(1)
3	課題の設定(2)	17	資料調査(2)
4	資料調査(1)	18	資料調査(3)
5	資料調査(2)	19	報告資料の作成(1)
6	資料調査(3)	20	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(1)	21	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(2)	22	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(3)	23	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(4)	24	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(5)	25	レポート作成(2)
12	フィールドリサーチ事前学習(1)	26	レポート作成(3)
13	フィールドリサーチ事前学習(2)	27	レポート作成(4)
14	前期ふりかえりおよびまとめ	28	レポート作成(5)
		29	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「企業論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する。	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のデスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法　授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計&管理会計	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割&機能(1)	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割&機能(2)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割&機能(3)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割&機能(4)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割&機能(5)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割&機能(6)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	27	管理会計の応用(15)テーマ別発表(3)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	28	管理会計の総まとめ(1)
		29	管理会計の総まとめ(2)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎１～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
応用１～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミデスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレス・マネジメント、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期はよりよい論文執筆ならびにチーム・プロジェクトのマネジメント方法についての学びを深めます。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。年間を通じて、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開できるように学習を進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文①（推敲・企画と作成）	①昨年度執筆のゼミ論文の相互見直し（推敲）作業のスキルについて評価する。②テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出（推敲含む）を評価する。	20%
ゼミ論文②（執筆）	体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク（ディスカッション、プレゼンテーション）	①チーム・プロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する。（たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など）②チーム・マネジメントを評価する。 ②日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営･参加（コミュニケーション）	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランタリー・スピリッツという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法　・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点（行事参加等含む）20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	15	グループワーク②－１
2	プレゼンテーション	16	グループワーク②－２
3	ゼミ論文①－１	17	グループワーク②－３
4	ゼミ論文①－２	18	グループワーク②－４
5	ゼミ論文①－３	19	グループワーク②－５
6	ゼミ論文①－４	20	ゼミ論文　中間提出
7	ゼミ論文①－５	21	グループワーク②－６
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	22	グループワーク②－７
9	グループワーク①－１	23	グループワーク②－８
10	グループワーク①－２	24	グループワーク②－９　＊ゼミ発表大会
11	グループワーク①－３	25	グループワーク②－10
12	グループワーク①－４	26	グループワーク②総括
13	グループワーク①－５・総括	27	ゼミ論文②－１
14	ゼミ合宿準備　＊夏期休暇中ゼミ合宿	28	ゼミ論文②－２
		29	ゼミ論文②提出

【使用教材】

◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
◇ゼミの要としての自覚を持ち、お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身に付けていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%

評価の方法　演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	ゼミ発表大会に向けたテーマ選定
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	16	GMT 企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	17	〃
4	関心のあるテーマについて研究	18	GMT 企業訪問
5	〃	19	ゼミ発表大会に向けた資料作成
6	〃	20	〃
7	論文テーマ選定	21	〃
8	論文テーマに関する情報検索	22	〃
9	〃	23	論文作成作業
10	〃	24	〃
11	〃	25	〃
12	〃	26	〃
13	〃	27	〃
14	まとめ（気づき、反省、決意）	28	プレゼンテーション発表
		29	まとめ（気付き、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力

企業で働く人間の能力やパーソナリティ、興味、動機づけを企業別に明らかにし、組織の中で働く人をどのように活かしていくのかを考える。ここから、組織の中での対人関係や組織での行動について演習の中で考えていく。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストの輪読	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識の習得と同時に、レジュメの作成を通して、論理的な思考能力の習得を目指しく。各人が章を担当し、レジュメによる発表を行い、これに基づいた質疑応答と討論を行っていく。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集を行う。データ結果のまとめ方と考察を行うことで、企業におけるデータを読み取る力を高めることを目的とする。	30%
共同研究	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもらう。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%

評価の方法　発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	共同調査研究
2	キストの輪読（社会心理学、パーソナ	16	
3	リティ心理学)	17	
4		18	調査データ収集と分析
5	テキストの輪読（産業心理学）	19	
6		20	
7		21	調査論文の作成
8		22	
9	個人論文の作成	23	
10		24	調査論文の発表
11		25	
12	個人論文の発表と討論	26	
13		27	まとめ、来年度に向けたテーマ設定
14		28	
		29	

【使用教材】

◇教科書：初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジュメやＰＰＴ資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

（内容）

皆さん、次に来るビジネスはなにか？それは金融です。世界のトップ企業である GAFA（ガーファ）が金融業に参入を始めています。例えば、アップル社がクレジットカードを発行し始め、フェイスブック社が仮想通貨を発行します。こうした GAFA の動きに日本で対抗できそうなのはソフトバンクのみです。ヤフーとラインの経営統合は、通信キャリアと金融の融合であると言えるでしょう。もう一度言います。これからは金融の時代です。

清水ゼミで研究できるテーマ例（金融系）は下記の通りです。

・貯蓄から投資への移行～個人の投資信託による資産形成、証券会社の観点からの提言～
・ユニコーン企業の出口戦略～ IPO か M&A か～
・仮想通貨の可能性
・非上場企業による資金調達手段の提言
・負債性資金に依らない地方自治体による資金調達方法
・FX 投資の健全性確保～投資家保護の観点から～

（教授法）

・専門書の輪読
・学生によるレジュメ作成と内容報告
・質疑応答
・議論のテーマ決定　→　学生同士のディスカッション　→　教員のコメント

（研究テーマ）

現代の金融に関する問題

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取り扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取組み方・提出された課題を教員が評価する。	平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%
評価の方法　平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
＜春学期＞ (1)テキストの輪読 (2)テーマ設定：各人が研究テーマを設定する。 (3)研究内容の報告 (4)夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）	＜秋学期＞ (1)ゼミ発表大会で報告するテーマの設定 (2)ゼミ発表大会：ゼミ生全員がプレゼンに参加する。 (3)レポートの仕上げ（締切：卒業論文締切日）

【使用教材】

◇教科書：初回の演習時において話し合う。

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

◇①考慮すべき理由のない欠席、無断欠席をした場合、ペナルティー（追加レポートの提出）を課す。

◇②学習意欲のない者の履修は認めない。

◇③全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した大学行事において無断欠席をした場合は単位取得を認めない。

◇④三分の一以上の欠席（考慮すべき理由がない欠席）をした場合、履修登録を取り消してもらう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇卒業論文の提出を必須とするゼミです。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

テーマ：ワークモチベーション～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」について様々な角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているか、になります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているか、になります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%

評価の方法　個人作業の内容：40%
集団作業の貢献度：40%
授業態度およびゼミ運営：20%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	15	秋学期テーマ設定会議
2	春学期テーマ設定会議	16	ゼミ発表大会準備
3	テキスト講読①	17	・テーマに沿った資料の輪読
4	・テーマ設定会議で決定した内容に	18	・テーマについてのディスカッション
5	関連するテキストの輪読	19	・パワーポイント作成
6	・レジュメ作成・発表	20	・パワーポイント発表練習
7		21	・振り返り
8		22	
9	グループワーク設定会議	23	
10	グループワーク	24	テキスト講読②
11	・テキスト購読を通じて発見した課	25	・レジュメ作成・発表
12	題の解決	26	・学期末レポート作成
13	・グループディスカッション	27	
14		28	
		29	年間フィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示します。

◇参考書：授業時に指示します。

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。

◇与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。

◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしましょう。

【その他の注意事項】

◇ゼミ行事（合同ゼミ、ゼミ合宿などを予定）への積極的な参加を求めます。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者心理と行動、マーケティング戦略

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、輪読形式で文献レビューを行っていくとともに、班別での研究活動を進める。秋学期は、実際の消費者行動を分析するとともに、企業側の視点に立ち、マーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し発表することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。輪読の担当箇所のレジュメを作成し、実際の商品例等を挙げながら他者にわかりやすく内容を説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できるようになる。	25%
消費者行動やマーケティング戦略にまつわる意見交換や議論に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できるようになること。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加し貢献すること。	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、個人発表の内容20%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%とする。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業のガイダンス	15	班別研究の途中経過報告
2	・個人研究テーマの選定と研究法	16	・班別研究についての調査分析
3	・最新のビジネスの話題に基づくディス	17	・ゼミ発表大会準備
4	カッションと戦略立案	18	
5	・班別研究テーマの選定	19	
6		20	
7		21	
8		22	
9		23	
10		24	
11		25	・最新ビジネスの話題に基づくディス
12		26	カッションと戦略立案
13		27	
14	研究報告準備	28	
		29	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指定する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、個人の発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自分や他者の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

◇演習には、極力休まずに出席すること。

◇ユニークなアイデアを出す努力をすること。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の１つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習Ⅱ」では、テキスト・論文などを輪読しながら、現代社会におけるマーケティングとは何か、そして、現代におけるマーケティングの問題について適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより論文を作成していく。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの専門的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど)、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	15	プレゼンテーション
2	輪読	16	プレゼンテーション
3	プレゼンテーション	17	ゼミ発表大会の準備
4	輪読	18	ゼミ発表大会の準備
5	プレゼンテーション	19	ゼミ発表大会の準備
6	輪読	20	ゼミ発表大会の準備
7	プレゼンテーション	21	ゼミ発表大会の準備
8	輪読	22	ゼミ発表大会の準備
9	プレゼンテーション	23	ゼミ発表大会の準備
10	輪読	24	ケーススタディ
11	プレゼンテーション	25	ケーススタディ
12	輪読	26	ケーススタディ
13	プレゼンテーション	27	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
		29	まとめ

【使用教材】

◇（日野隆生共著）『マーケティング戦略論（第２版）』学文社、2019年

◇日野隆生（編著）『サービス・マーケティング―理論と実践―』五絃舎、2018年

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは禁止です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやＳＰＳＳなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

＜春学期＞

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

＜秋学期＞

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：国境を越えたビジネスを学ぶ

近年、日米欧をはじめとした先進諸国の小売・流通企業は自国の市場の成熟化を受け、新興諸国市場への国際展開を積極的に行っている。本演習では、コンビニエンス・ストアやスーパーマーケットなどの小売・流通企業を中心に、グローバルな視点でこれら企業のマーケティング戦略に関する諸処の問題についての基礎的知識の習得を目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキルを身につけていること	演習におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの使用方法を理解しレジメを作成できることが要請される。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
グローバルな視野で企業が直面している諸問題について発見し説明できること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。グローバルビジネスに関する学術書、論文、ニュースから問題点を探り出し、他のメンバーと共有できることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	演習におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%

評価の方法　全29回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、レジュメ発表などの分担貢献度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言の積極性50点を基準に評価する。

【授業計画】

＜春学期＞

・研究発表レジュメの作成およびそのプレゼンテーションの練習
・国際流通論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読
・各種データおよび資料の調査方法の習得
・小売・流通企業の国際展開に関する現状と課題の把握

＜秋学期＞

・春学期の基本的文献の輪読からの学習、レジュメ作成およびプレゼンテーションから培った能力をベースに、研究レポートを学内および学外に向けて発信することを目的とする。

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。
◇参考書：矢作敏行著『現代流通―理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年
諸上茂登・藤澤武史著『グローバル・マーケティング』中央経済社、1997年

【履修条件等】

◇グローバルビジネスに興味や関心があり、なおかつ積極的にゼミ活動に参加できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇研究発表の際には、惜しみなく時間をかけて事前学習し準備する。
◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇演習中は積極的な質疑応答およびコメントの発言が強く求められる。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業による環境問題の解決

・ＬＧＢＴと企業

・障害者と企業

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%

評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	16	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	17	調査
4	調査およびディスカッション	18	
5	プレゼンテーション準備	19	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	20	
7	研究テーマの検討	21	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	22	
9	調査およびディスカッション	23	
10	プレゼンテーション準備	24	
11		25	ゼミ発表大会の振り返り
12		26	研究テーマの設定
13	プレゼンテーション	27	プレゼンテーション準備
14	振り返り	28	プレゼンテーション
		29	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：「経済・金融問題の分析」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」のが「経済（学)」の役割です。社会的な課題を発見し、その課題の根本理由を考え抜き、解決策(施策)の提案を行うのが本専門演習の目標です。履修者には各自現代の経済・金融問題に関する卒業論文を作成してもらいます。卒業論文の執筆を通じて、大学生として必要なリテラシーを確実に身に付けるとともに、論理的思考力、問題解決能力の養成を行います。履修者には「経済・金融の『今』を知りたい」という積極的な姿勢を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組めているか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法　平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する)。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	卒論報告１	15	卒論修正・報告１
2	卒論報告２	16	卒論修正・報告２
3	卒論報告３	17	卒論修正・報告３
4	卒論報告４	18	卒論修正・報告４
5	卒論報告５	19	卒論修正・報告５
6	卒論報告６	20	卒論修正・報告６
7	卒論報告７	21	卒論修正・報告７
8	卒論報告８	22	卒論修正・報告８
9	卒論報告９	23	卒論修正・報告９
10	卒論報告10	24	卒論修正・報告10
11	卒論報告11	25	卒論修正・報告11
12	卒論報告12	26	卒論修正・報告12
13	卒論報告13	27	卒論修正・報告13
14	卒論報告14	28	卒論修正・報告13
		29	卒論まとめ

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇参考書：演習中に適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上欠席すると評価対象外になる。

◇遅刻、無断欠席、私語、無関心な姿勢などは一切許さない。

◇ LINE、Google Document、Microsoft Word、Excel、PowerPoint のリテラシーを要する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の演習を通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇授業計画（臨時ゼミの開催など）は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	光澤（ミツザワ） 美芽（ミメ）
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：財務会計

このゼミでは、財務会計をテーマに、特に現代会計の理論について研究を行う。春学期では、ＩＦＲＳ（国際財務報告基準）を題材にいくつかトピックを取り上げ、原文での輪読およびディスカッションを行う。秋学期では、個人研究テーマを決定し、前半はテーマに関連する文献調査・資料収集などの個人研究活動とその報告を行い、後半は卒業論文の作成と報告および指導を行っていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商２級程度）、会計理論（「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」程度）の知識を有しているか。ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理・分析することができるか。	10%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	10%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝達することができるか。実のある議論ができるか。	10%
論理的思考力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 グループ研究活動および個人研究活動において、テーマの設定から結論に至るまでの論理展開が適切になされているか。文献引用が適切になされているか。自分の意見と異なる見解に対する反証やその論拠など論理的な思考の構築ができているか。	50%

評価の方法　ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）および研究成果により評価。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	研究進捗報告
2	報告およびディスカッション	16	個人研究活動および報告
3		17	
4		18	
5		19	
6		20	中間報告（章立て、参考文献等）
7		21	卒論作成および報告
8		22	
9		23	
10		24	
11		25	
12		26	最終報告（論文の提出）
13		27	自由課題研究（または論文の校正）
14	まとめと卒業論文研究テーマ報告	28	
		29	まとめと振り返り

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」、「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」を履修済みであること。

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」、「管理会計論Ⅰ」、「管理会計論Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記３級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。

◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（ＰＰＴおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。

◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。

◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等ＳＮＳの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（遊戯、笑い、アート、物語）を活用したマーケティング

春期においては、ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨き、マーケティングプランニング（商品開発、広告企画、プロモーション企画、新事業創出など）を行なえるようなスキル獲得を目指します。秋期には、ゼミとしての独自の研究設計～実践を行います。企業との連携授業（ＰＢＬ）や各種コンテストへの参加、企業訪問、学外視察・見学、他校との交流、外部講師の招聘なども随時行いたいと思います。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「こども環境絵画を活用した環境啓発ゲームの開発」（花王と連携）「ボードゲームが育む社会的スキルに関する調査研究」（ＧＰと連携）「企業のユニークな風習・制度と企業理念との関わりに関する研究」「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」（手塚プロダクションと連携）「高田馬場観光地化計画案」「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」（アントレックスと連携）等。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度・協調性・リーダーシップ50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	16	秋学期研究活動の準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	17	研究方向の確認と役割分担
4	ビジネスリテラシートレーニング②	18	個人研究と発表①
5	ビジネスリテラシートレーニング③	19	個人研究と発表②
6	ビジネスリテラシートレーニング④	20	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	21	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	22	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	23	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	24	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	25	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	26	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	27	グループ研究発表④
14	総括と達成度の確認	28	流通視察・ショウルーム見学
		29	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社等

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング」を受講していること。

◇受講生同士で積極的な人間関係をつくろうとする人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等)、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。
本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミは学生が能動的に学習する場です。欠席や遅刻した場合は、自分から埋め合わせをしなければならないということを心得ておいてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：社会構築主義から見た企業倫理

今年度は、現実を社会的に構築されたもの（絶対的存在ではなく、みんなが主観的に作り上げていくもの）として見る、社会構築主義を考える。そして、現実を社会的に構築されたものとして考えた場合に、企業の倫理はどう作られていくかを考える。

それぞれの企業で、現実はどうとらえられ、それに基づいてどのような倫理水準が設定されるのかを考える。できれば実験をしてその過程を明らかにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会構築主義が説明できる	演習内での積極的な発言。	25%
社会構築主義と客観的な現実との違いを説明できる	演習内での積極的な発言。 客観的な現実の例を挙げられる。 社会構築された現実の例を挙げられる。	25%
シンボリックな見方を理解できる	演習内での積極的な発言。 シンボルの例を挙げられる。	25%
シンボルを応用できる	演習内での積極的な発言。 実際にシンボルをどのように利用できるかの例を挙げて説明できる。	25%
評価の方法　自分で考え、積極的に発言でき、他人の意見もよく聞け、自分の意見を修正できるか。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	はじめに	15	実験準備
2	客観的現実とは	16	
3		17	
4		18	実験
5	社会的に構築された現実とは	19	
6		20	
7		21	シンボルを探す
8		22	
9	社会的に構築された現実を探してみる	23	
10		24	シンボルの影響を探る
11		25	
12	シンボリックな世界	26	
13		27	まとめ
14		28	
		29	

【使用教材】

◇教科書：１回目の授業で指示します。

【履修条件等】

◇まじめに出席し、他のゼミの仲間と仲よくでき、山口ゼミに楽しくかつアカデミックな現実を構築できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コマーシャル、新聞、ニュースに常に関心を持ち疑問を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅱ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Specialized Seminar II	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、卒業後の具体的な進路に向けた問題設定をふまえ、それぞれの問題意識や関心にしたがった産業や企業の研究を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」での学習内容をふまえ、大学での４年間の学びの集大成として、経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、就職活動で得た知見や経験をふまえながら、各自の調査研究の報告等を実施します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
２．個々の問題意識の醸成	同上。	20%
３．チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
４．創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法　ゼミナール活動全般を通じて、上記の４項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	16	課題の設定(1)
3	課題の設定(2)	17	課題の設定(2)
4	資料調査(1)	18	資料調査(1)
5	資料調査(2)	19	資料調査(2)
6	資料調査(3)	20	資料調査(3)
7	報告資料の作成(1)	21	報告資料の作成(1)
8	報告資料の作成(2)	22	報告資料の作成(2)
9	報告資料の作成(3)	23	報告資料の作成(3)
10	報告資料の作成(4)	24	報告資料の作成(4)
11	報告資料の作成(5)	25	報告資料の作成(5)
12	プレゼンテーション演習(1)	26	報告資料の作成(6)
13	プレゼンテーション演習(2)	27	プレゼンテーション演習(1)
14	春学期ふりかえりおよびまとめ	28	プレゼンテーション演習(2)
		29	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

会計は、社会人にとって必須の常識であるにもかかわらず、そのなじみにくさから（高校時代に勉強した一部の学生を除いて）一般の学生諸君には敬遠される科目でもある。しかし、ビジネスパーソンとなってからは、必ず、会計のセンスを会得しているか否かが問われることになる。営業職、開発企画担当、広告担当、PR（パブリックリレーションズ）担当…その他もろもろの会社の活動の前提として、会計的ものの考え方（センス）は、不可欠の要素となる。なぜなら、会社のどのような活動も、資金の裏付けが必要であり、会社にとって有限な資金をどのように確保し、有効に活用するかに関する客観的な数値の情報を把握するための「用具＝手段」が、会計であるからである。

春学期では、まず、会計の基本的スタンスを理解してもらおうと考えている。会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無の確認	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な知識の習得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

春学期は、会計へのイメージづくりのために、会計の意義（必要性、目的、簿記との関係、実務上の役割、会計をめぐる制度、会計報告の内容）について、14回にわたり解説する。

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレスと心理社会的適応、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

そのために、グループワーク、プレゼンテーション、レポート作成を通じて、各種調査法やチームプロジェクトの企画立案の基本を学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート作成①（まとめ）	レポート執筆のために必要な基礎的な作法を理解し、実践できているかどうか。体裁、テーマ、構成、論考等の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク(ディスカッション、プレゼンテーション)	チームプロジェクトで役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する（たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など)。 日頃のプロジェクトへの貢献態度、完成したプレゼンテーションについて評価。	40%
チームワークとゼミ運営･参加（コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランタリー・スピリットという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
レポート作成②（まとめ）	チームプロジェクトの報告書の執筆。体裁、テーマ、構成、論考等の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%

評価の方法　・レポート課題40%
・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40%
・授業ならびにゼミ運営への関与・平常点（行事参加等含む）20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	
2	ワーク	
3	グループワーク①	グループでの基礎的なワーク（全４回）
4	〃	
5	〃	
6	〃	
7	レポート作成①	グループワークのまとめレポート作成（提出）
8	グループワーク②	グループでの調べ学習＋調査ワーク（全５回）
9	〃	
10	〃	
11	〃	
12	〃	
13	レポート作成②	グループワークでのまとめレポート作成（提出）
14	総括・達成度の確認	レポート課題提出　（夏季休暇中にゼミ合宿行事実施予定）

【使用教材】

◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

◇受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。
◇その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）に適宜参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
◇お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Professional Seminar Ⅰ	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」では、ＡＩ（人工知能）とロボット技術を用いた“おもてなしとサービス戦略の未来”を考察します。事例分析やフィールドワーク（訪問調査）を行い、理解を深めることが目標です。その際、専門誌や経済新聞等から得られる情報を通して、刻一刻と変化するサービス産業の動向や経営環境の潮流を的確に把握するテクニックを身につけます。演習中にインタラクティブな議論を重ねることで、自分のことばで表現できるスキルを磨き、大学生や社会人に必要な思考力・洞察力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げたハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	ハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明でき、諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やレポート発表会におけるプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジュメを作成するスキルが身についている	演習の時間やレポート発表会で担当したセクションのレポート・レジュメをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法　演習の実施回数に対して出席回数が３分の２以上に限り評価します。なお、２回連続して欠席したり、レジュメ発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」では、個々の履修者が関連した話題やテーマに基づき、専門雑誌や経済新聞等から得られる情報を収集し、その内容を読み解く能力を徐々に身につけていきます。研究対象とする領域は、ＡＩ（人工知能）やロボット技術といったハイテク関連企業の事業活動、おもてなしのサービス産業の動向と変化、市場のトレンド等、幅広く検討し、背後にある競争環境の把握に努めます。

演習の進め方は、担当教員が準備した資料を熟読し、記述内容の要点を確認します。経営学やサービス産業で必須の専門用語の把握も忘れてはなりません。資料で指摘している重要な箇所や問題点、あるいは考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得られた知見を要約し、追究すべき論点を考察の上、レジュメを発表します。

履修者全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

こうした学習をつうじて、サービス関連企業や業界が直面している重要なトピックを発見し、フィールドワーク（訪問調査）の内容を絞り込んでいきます。

その上で、履修者は個々人で研究テーマを設定し、学期の最後に「ゼミ単位取得レポート」を作成します。字数は3,000字以上とやや多目ですが、充実した研究成果が得られるはずです。完成したレポートは履修者全員がパワーポイントで発表する「レポート発表会」で披露し、質疑応答を経て担当教員に提出します。

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」は半期の演習となりますが、その後、秋学期の「プロフェッショナル・セミナーⅡ」へ移行可能な能力水準に引き上げることを目的に指導します。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料は適宜紹介・配付します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために、継続して「プロフェッショナル・セミナーⅡ」を履修する方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から専門雑誌や経済新聞等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇プロフェッショナル・セミナーは通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。その主体は、履修者自身にあることを認識してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本セミナーでは、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、Word、Excel、PowerPoint などを用い、コンピュータの基本操作も学びます。グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけることを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。プレゼンテーションの方法を学び、演習における態度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法　セミナーでの態度（発言、積極性など)、貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ、内容
1	ガイダンス
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ
3	プレゼン技術について学ぶ
4	関心のあるテーマについて発表
5	〃
6	〃
7	グループ発表のテーマ選定
8	グループワーク
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	グループごとに発表
14	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外での行事（企業訪問、合宿など）に参加することがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業は① iPad や Microsoft　Office 等を含む ICT スキル、②レポートの書き方、③プレゼンの仕方、といった、初年次でカバーする学習内容の発展、および３年次以降の「専門演習」で扱う、より専門的な実務思考トレーニング（経営／経済・法／会計／経営心理／マーケティング）の橋渡しとなる科目です。

前期の「プロフェッショナル・セミナーⅠ」では主に初年次「基礎演習」の延長・応用となる内容をカバーしつつ、「省略現象の仕組み」をテーマとしてゼミを進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. ICT スキルの養成	パソコンや iPad の使用法や Office ソフトなどの応用スキルを身につけ、よりアカデミックな内容に応用するための土台固めを行う。	20%
2. レポート執筆能力の養成	主張を支える根拠（数値データや先行研究）を駆使して、より説得的な文章を書けるようになるための手法を身に付ける。	20%
3. プレゼン能力の養成	オーディエンスにわかりやすく伝えるための根本的な「考え方（姿勢)」と、実際にスライドをわかりやすく見せる「技術」の基礎を習得する。	20%
4. アカデミック・リテラシーの養成	与えられたテーマについて考え、仮説の立て方やその検証方法、データの妥当性について批判的に考えられるようになる。	40%

評価の方法　上記の４項目について、授業での貢献度や積極性などを合わせて考慮し、評価する。授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	コース概要や成績評価についての説明
2	ICT ツールの基礎	iPad や PC の基礎；メールの書き方について復習
3	日本語の統語構造①	左記のテーマについてゼミ内で考えながら、Office ソフト（WORD ／ EXCEL ／ PowerPoint）の使い方についての復習、およびその応用方法を学ぶ
4	日本語の統語構造②	
5	主語の省略①	
6	主語の省略②	
7	助詞の脱落①	左記のテーマについてゼミ内で考えながら、レポートの書き方（レポートの形式や文体についての基礎 /参考文献の探し方やその引用法 /与えられたテーマで実際にレポートを書く）を学ぶ
8	助詞の脱落②	
9	述部の省略①	
10	述部の省略②	
11	「ら」抜き言葉①	左記のテーマについてゼミ内で考えながら、プレゼンの方法（スライド作り／発表原稿／与えられたテーマでの実際の発表）を学ぶ
12	「ら」抜き言葉②	
13	否定極性と省略現象	
15	春学期のまとめ	

【使用教材】

◇参考図書については初回の授業で指示し、以降の読書課題については適宜指示する。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇必ず iPad を持参すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「老後資金2000万円必要」という文言が金融庁の報告書に載ったことは知っていますよね。これをきっかけに「年金だけではダメだ」、「ちゃんと自分でお金を管理しないと」という機運が高まりました。大学生の皆さんはどうしますか？お金は使えば減りますが、使うことで増えるお金の使い方があります。それが投資です。投資の基本は長期運用です。したがって、早く投資を始めるほど良いということです。しかし、投資を始めるといってもどうしていいかわかりませんよね。投資に必要なスキルや知識の総称を『金融リテラシー』と言います。ゼミナール活動を通じて、お金のプロフェッショナルを目指しましょう！

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門書を読む力、レジュメ作成力、プレゼン能力、ディベート力を身につける	プレゼンテーションの内容とセミナーにおけるアクティビティへの取り組みを総合的に判断する。	プレゼン評価60%、各種アクティビティの平常点40%

評価の方法　プレゼン評価60%、各種アクティビティ等の平常点40%により総合的に判断して成績を評価します。

ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。

【授業計画】

► 専門書の選書および輪読
► レジュメ作成（要約報告）
► パワポによる資料作成
► プレゼンテーション

【使用教材】

◇教科書：指定しない。
◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。セミナー活動に真剣に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から新聞やニュースをチェックすること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：ヒューマンリソースマネジメント～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」について様々な角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているかになります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているかになります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%

評価の方法　個人作業の内容：40%
集団作業の貢献度：40%
出席およびゼミ運営：20%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	オリエンテーション
2	テキスト講読
3	・テーマ設定会議で決定した内容に関連するテキストの輪読
4	・レジュメ作成・発表
5	
6	
7	
8	
9	グループワーク設定会議
10	グループワーク
11	・テキスト購読を通じて発見した課題の解決
12	・グループディスカッション
13	
14	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示します。

◇参考書：授業時に指示します。

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。

◇与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。

◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしましょう。

【その他の注意事項】

◇意欲のある学生を歓迎します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

〔内容、到達、教授法〕

消費者行動やマーケティング理論を理解したうえで、効果的な企業戦略についてディスカッションを行う。ユニークなアイデアを出す練習、他者の前での発言方法、プレゼンテーション技術などについても学びます

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動とマーケティングの理論を理解し説明できる	授業時の発言内容と課題提出によって評価する。	20%
消費者行動とマーケティングの理論を応用し、現実のビジネスモデルを分析できる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。理論をただ理解するだけでなく、その理論を応用して、現実の現象を分析し、説明することができる。	20%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	30%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、個人研究の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	グループ研究の実施	・テーマ選定 ・リサーチ計画作成 ・調査分析の実施 ・資料作成 ・発表準備
3		
4		
5		
6		
7		
8	企業および商品に関するケーススタディ	実際の企業や商品の現状を分析し、問題点や改善点を探る。効果的なマーケティング戦略を立案する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【使用教材】

◇教科書：なし。

◇必要に応じて資料等を配布する

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報の入手を心がけること。

【その他の注意事項】

◇授業には、極力休まず出席すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス社会で、マーケティングという言葉が使われていますが、その意味は、市場調査や広告・宣伝など販売促進（プロモーション）活動など多様です。

マーケティングは、このような部門活動だけでなく、全社的・戦略的行動です。

マーケティングは、ビジネス（経営）の基本です。

本科目では、まずテキストを輪読し、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより理解を深めていきます。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
評価の方法　演習態度（積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	セミナーの進め方
2	自己紹介	発表・質問・応答
3	マーケティングの起源	輪読
4	マーケティングの歴史	輪読
5	マーケティング・コンセプトの変遷	輪読
6	現代のマーケティング	輪読
7	マーケティング戦略	輪読
8	マーケティング戦略	輪読
9	マーケティング戦略	輪読
10	マーケティング戦略	輪読
11	マーケティング戦略	輪読
12	マーケティング戦略	発表
13	ケーススタディ	ディスカッション
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇（日野隆生共著）『マーケティング戦略論（第２版）』学文社、2019年

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは禁止です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	広瀬（ヒロセ） 盛一（モリカズ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

このプロフェッショナル・セミナーでは、さまざまなマーケティング活動のなかでもテレビやオンラインの広告、クーポンなどの販売促進、SNS やオンラインサイトにおける口コミといったマーケティング・コミュニケーション活動を中心にして、マーケティングについて学ぶと同時に、研究をするための基本的な技術の習得を目指す。

マーケティングは、身近にあるビジネス活動であり、学生もマーケティング活動のターゲットとして企業から注目されている。企業がどのようなマーケティング活動を行っているのかを理解することは、企業のマーケティングについて理解するだけでなく、消費者としてマーケティング活動に向き合えばよいのかという知識も得ることになる。

本セミナーでは、マーケティングの学習を通じて、図書館やオンラインでの情報検索、パソコンでの文章や資料の作成、学習内容の発表といったアカデミックリテラシーも高めていく。研究テーマは、受講生と相談して決める予定だが、オンラインのマーケティング活動を考えている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルや SPSS などのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業への参加50%、課題50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	ゼミの運営方針の説明と参加者の自己紹介
2	学内施設の使用方法	学内施設の使用方法について確認する
3	同上	同上
4	研究テーマの設定	研究テーマの設定
5	同上	同上
6	資料の検索	資料の検索方法について確認し、実施する
7	同上	同上
8	オンラインシステムについて	学内のオンラインシステムについて確認する
9	同上	同上
10	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシーについて確認する
11	同上	同上
12	同上	同上
13	プレゼンテーション	テーマについてまとめたものを発表する
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

本セミナーでは、最終的にグローバル・マーケティングに関する問題を解決・提案する能力を養成することを目的とします。グローバル・マーケティングとは、国境を越えて行われるマーケティング活動を意味します。それは、自国とは異なった制度環境でマーケティングを行うということです。本「プロフェッショナル・セミナーⅠ」では、先に述べた最終的な目標に向けて、まずはグローバル・マーケティングに関する基礎理論を学び、また研究調査に必要となる統計学の知識も学び、研究を行うための基礎知識の習得を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキル（文献検索・ＰＣスキル）を身につけていること	授業におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの基本的な使用方法を理解しレジメを作成できることが評価基準となる	20%
研究発表に必要な理論的知識、統計学の基礎を身につけていること	授業における輪読で、内容を自らが説明することができる、また、統計演習の実践から、自らがデータを用いて分析を行えることが評価基準となる。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	授業におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	授業におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%

評価の方法　学習態度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言などの積極性50点を基準に評価する。

【授業計画】

＜履修者の理解度と興味に応じて調整＞

・国際経営論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読

・マイクロソフトのオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の活用方法の習得

・統計学の基本知識の習得

・各種データおよび文献検索方法の習得

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。

◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

◇とくに設けない。

◇以下に記載の「その他の注意等」を熟読し、理解できる学生ならば、歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業計画に記載した事項（授業中に指示)。

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇本「プロフェッショナル・セミナーⅠ」は、履修生の自発的な学習が重要になります。毎週履修者が分担して、課題報告をすることが求められますので、出席はもちろんのこと、そうした課題をこなす自信とやる気がある履修者でなければ単位修得は困難かと思われます。ただし、やる気のある学生、将来海外で働いてみたい、国内で就職しても海外に携わる仕事をしてみたいという学生はこのセミナーで得るものは大きいでしょう。通常の授業とは異なりますので、自ら学習の意思がある学生のみの履修を求めます。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	福山（フクヤマ）　倫基（モトキ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：原価計算・管理会計とＩＴ

本講義では、原価計算・管理会計とＩＴをテーマに、３・４年次の専門演習で大学教育の集大成である卒論制作を行う上で基礎となる、初歩的専門性の獲得および専門研究の手法の基礎を習得することを目的としている。

プロフェッショナル・セミナーⅠでは以下の２つのことを行うことで上述の目的に寄与する。１つ目は、卒論や大学におけるレポートの書き方である。２つ目は、原価計算や管理会計の技法をＩＴシステム上に構築することを通して学際的な専門知識を獲得することである。そのため、基本的な原価計算・管理会計の知識の再整理とともに、システム構築の基礎を行う。前期は、原価計算や管理会計の知識を紹介する簡単なＷＥＢページを、HTML5・CSS3・Java Script などを使い開発する技法を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究に対するリテラシーを身に着ける	ゼミ活動を通して評価します。 文献の調べ方、整理の仕方、まとめ方、論文としてどうアウトプットするかなどを学習します。	30%
原価計算の手続きを通して、原価情報の持つ意味を理解する	ゼミ活動を通して評価します。 原価計算の前提となっている、投入と産出の等式の理解から、各原価計算の手続きがどういった理論に基づいて構築されているか、それらの手続きを経て得られる情報がどのような意味を持つか学習します。	30%
管理会計の手法や理論を理解する	ゼミ活動を通して評価します。 管理会計で何を実現しようとしているか学習します。	30%
ＩＴの利活用に関して習熟する	ゼミ活動を通して評価します。 キッティングから簡単なプログラミングまでを習熟します。	10%
評価の方法　ゼミ活動への積極的な参加及び提出課題により評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	ゼミの進め方などに関する概説
2	大学で研究することについて	文献の調べ方、アカデミックライティングの仕方、その他、大学で研究をするときに必要な知識を再確認します。
3		
4	演習	Ｗｅｂサイトを作成する過程で、原価計算・管理会計の知識並びに、ＩＴの知識を習熟していきます。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	総括・達成度の確認	前期のまとめとなるプロダクト作成

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義ではＩＴルームで講義を行います。ＵＳＢを持ってきていただくと幸いです。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇特にありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

◇講義中に詳しく説明します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業の環境問題対策について

・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて

・環境ビジネス、観光ビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
観光ビジネスに関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
地域活性化に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
上記のテーマに関する問題発見能力の開発とプレゼン能力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%

評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	進め方についての説明、メンバー間のコミュニケーション
2	研究テーマの検討	テーマについてのレクチャーと各自のテーマの検討
3	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定。
4	調査・検討	それぞれ文献調査やフィールドワーク
5		
6	中間発表	研究の中間発表
7	中間発表	研究の中間発表
8	発表の振り返り	それぞれの発表についてディスカッション
9	調査・検討	それぞれ文献調査やフィールドワーク
10		
11		
12	研究発表	各自まとめの研究発表
13	研究発表	各自まとめの研究発表
14	発表の振り返り	それぞれの発表についてのディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

◇その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇ゼミ活動に積極的に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自がそれぞれのテーマについて自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	光澤（ミツザワ） 美芽（ミメ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

【研究テーマ】財務会計

このゼミでは、財務会計をテーマに、３年次および4年次の専門演習の基礎固めとして、初歩的専門性の獲得および専門研究の手法の基礎を習得することを目的としている。

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」（春学期）では、専門書の輪読を通じて財務会計の初歩的専門性を獲得してもらう。具体的にはテキストを分担して、毎回担当者が内容を要約しレジュメを作成したうえで発表し、ディスカッションを行う。「プロフェッショナル・セミナーⅡ」（秋学期）へ向けた予備段階として、専門書を読み解く力を養い、専門性を深めることを目的としている。なお、発表にはパワーポイントを使用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商３級程度)、会計理論（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）の知識を有しているか。ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理分析することができるか。	20%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	20%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝達することができるか。実のある議論ができるか。	20%
専門書の読解力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 専門性の高い文献を読み解き、内容を理解することができるか。専門書に出てくるよりレベルの高い専門用語を理解し説明できるか。	20%

評価の方法　ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）およびレポートにより評価。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、発表分担の割り当てなど。
2	輪読①～⑥【第１部】	各発表担当者による発表およびディスカッション
3		
4		
5		
6		
7		
8	振り返り	【第１部】の復習
9	輪読⑦～⑪【第２部】	各発表担当者による発表およびディスカッション
10		
11		
12		
13		
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括、レポート

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」を履修済みであること。

◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記３級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。

◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（ＰＰＴおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。

◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。

◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等ＳＮＳの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：実践的マーケティングプランニング

マーケティングには「商品開発」「販売促進」「広告宣伝」「ブランディング」などさまざまな領域があり、その裾野は非常に広いものです。本講座は単に知識としてのマーケティングではなく、「自分たちで考えてみる」「自分たちでやってみる」ことを通じて、マーケティングの仕事の楽しさを体感してもらえる場にしたいと考えています。また、近隣の企業から具体的なテーマをもらって企画に取り組むことも想定しています。

以下にシラバスを示しますが、研究テーマや運営方法については受講生の志向をながら進めていきたいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会人としてのマナーやビジネスリテラシーの確立	授業にはきちんと出席する、遅刻しない、メールには返信する、課題は提出する、約束は守る、学生同士互いに助け合う、きちんとしたメール文がつくれる…といった基礎能力を評価ポイントとする。	50%
マーケティング企画の実践を通じた基礎学力の向上	企画書の作成を通じてパワーポイントの扱い方を、調査分析を通じて統計的な思考法を、消費者行動の観察を通じて心理学を、ネーミングを通じて外国語を…というように、実務的な作業によって基礎的な能力も磨いていこうとする姿勢があるかどうかを評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	概要説明
2	相互理解プログラム	参加者同士のコミュニケーション
3	ビジネスリテラシートレーニング①	マーケッターとしてビジネスの現場で仕事のできる基礎的能力を身につける
4	ビジネスリテラシートレーニング②	
5	ビジネスリテラシートレーニング③	
6	ビジネスリテラシートレーニング④	
7	マーケティングの基本理解①	マーケティングの基本概念への理解に努める
8	マーケティングの基本理解②	
9	マーケティングの基本理解③	
10	マーケティングの基本理解④	
11	プランニング作業①	企業との連携による具体的なマーケティングプランの作成
12	プランニング作業②	
13	プランニング作業③	
14	総括と達成度の確認	

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で紹介予定。

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発や広告などに興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができ、ｅメールでの連絡ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等)、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミは学生主体で運営するものです。無連絡で欠席、遅刻をしないこと。

◇担当講師からの連絡・メールには、きちんと返信すること。

◇履修者同士の良好で長期的な人間関係をつくりあげていってください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	渡辺（ワタナベ）　泰宏（ヤスヒロ）
Professional Seminar I	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

この演習では「経営」と「企業」についてさまざまな角度から考えていきます。経営とはなにか、企業がどのような仕組みで動いているのかということについての全体像をつかむことを目的としている。まず「事業論」と呼ばれる分野について、基礎的な文献を精読し、研究の方法を学び、各個人の興味や研究課題を明確にさせていくために、産業や企業に対しての興味の幅を拡げていくように学びを深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成する。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して積極的にコメントを行ったか。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表する。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行ったか。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行う。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮したかどうか。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求める。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価する。評価基準は、積極性と真摯さ。	20%

評価の方法　個人作業の内容：40%
集団作業の貢献度：40%
出席およびゼミ運営：20%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	オリエンテーション
2	テキスト講読
3	・テーマ設定会議で決定した内容に関連するテキストの輪読
4	・レジュメ作成・発表
5	
6	
7	
8	
9	グループワーク設定会議
10	グループワーク
11	・テキスト購読を通じて発見した課題の解決
12	・グループディスカッション
13	
14	フィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示する。

◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識すること。与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスであるということを意識すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応する。

◇日頃より社会問題に広く関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇意欲のある学生を歓迎する。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

秋学期では、春学期に引き続き会計の基本的スタンスの把握を目的とする。

会計によって把握された情報を必要としている人々（利害関係者という）に対して、具体的な計算を通して、会計をめぐるどのような問題があるのか、会社の活動の良し悪しはどのよう数値となって現れ、どのように理解すればよいのか、経営にとっての将来的に有効な経営活動の方向性の指針となる数値はどのように把握されるのかといった会社にとって必須の事柄について、具体的なケーススタディに言及していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無の確認	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な知識の習得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

秋学期は、春学期での会計の意義と役割についての理解を深めるために、履修者自らが「自分の手」で実践することを眼目とする。利害関係者への適切な会計報告のために、企業の活動、状況を、どのように、計算するかについて15回にわたり具体的に、想定問題を解いて理解を深める。

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレスと心理社会的適応、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、春学期の学習成果を踏まえ、グループワーク、プレゼンテーション、レポート作成を通じて、各種調査法や企画立案の習熟を一層進めるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート作成①（調べ学習）	テーマ設定から文献研究、レポート執筆のプロセスならびに最終的な報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。	20%
グループワーク(ディスカッション、プレゼンテーション)	チームプロジェクトで役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する（たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など)。 日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価。	40%
チームワークとゼミ運営･参加（コミュニケーション）	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランタリー・スピリットという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
レポート作成②（グループワーク報告書作成）	チームプロジェクトのまとめレポートの執筆。体裁、テーマ、構成、論考等の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%

評価の方法　・レポート課題40%
・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40%
・授業ならびにゼミ運営への関与・平常点（行事参加等含む）20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	ゼミ合宿での成果の振り返り
2	グループワーク	グループワーク（全10回）
3	〃	
4	〃	
5	〃	
6	〃	
7	〃	グループワークのレポート作成①（中間提出）
8	〃	
9	〃	
10	〃	＊ゼミ発表大会
11	〃	まとめ
12	レポート作成	グループワークでのまとめレポート作成（全２回：提出）
13	〃	
14	〃	
15	総括・達成度の確認	レポート課題提出

【使用教材】

◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

◇受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。
◇その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも適宜参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
◇お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Professional Seminar Ⅱ	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、ＡＩ（人工知能）とロボット技術を用いた“おもてなしとサービス戦略の未来”を考察します。事例分析やフィールドワーク（訪問調査）を行い、理解を深めることが目標です。その際、専門誌や経済新聞等から得られる情報を通して、刻一刻と変化するサービス産業の動向や経営環境の潮流を的確に把握するテクニックを身につけます。演習中にインタラクティブな議論を重ねることで、自分のことばで表現できるスキルを磨き、大学生や社会人に必要な思考力・洞察力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げたハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	ハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明でき、諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やレポート発表会におけるプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジュメを作成するスキルが身についている	演習の時間やレポート発表会で担当したセクションのレポート・レジュメをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法　演習の実施回数に対して出席回数が３分の２以上に限り評価します。なお、２回連続して欠席したり、レジュメ発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、「プロフェッショナル・セミナーⅠ」で個々の履修者が興味を抱いた研究テーマに基づいて考察を深めていきます。

演習で取り上げる研究領域は、引き続き、ＡＩ（人工知能）やロボット技術といったハイテク関連企業の事業活動や、おもてなしのサービス産業の動向と変化の他、新しいビジネスチャンスの可能性を検討します。また、学外演習活動の一環でＡＩやロボットをテーマにした国際展示会を訪問する予定です。

演習の進め方は、担当教員が準備した資料を熟読し、記述内容の要点を確認します。経営学やサービス産業で必須の専門用語の把握も忘れてはなりません。資料で指摘している重要な箇所や問題点、あるいは考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得られた知見を要約し、追究すべき論点を考察の上、レジュメを発表します。

履修者全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

こうした学習をつうじて、サービス関連企業や業界が直面している重要なトピックを発見し、フィールドワーク（訪問調査）の内容を絞り込んでいきます。

その上で、履修者は個々人で研究テーマを設定し、学期の最後に「ゼミ単位取得レポート」を作成します。字数は3,000字以上とやや多目ですが、充実した研究成果が得られるはずです。完成したレポートは履修者全員がパワーポイントで発表する「レポート発表会」で披露し、質疑応答を経て担当教員に提出します。

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」は半期の演習となりますが、最終的には次年度以降の専門演習Ⅰ・Ⅱへ移行可能な能力水準に引き上げることを目的に指導します。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料は適宜紹介・配付します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために次年度以降も継続して「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を履修する方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から専門雑誌や経済新聞等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇プロフェッショナル・セミナーは通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。その主体は、履修者自身にあることを認識してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本セミナーでは、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法　セミナーでの態度（発言、積極性など)、貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ、内容
1	研究テーマ選定
2	ＧＭＴ企業研究
3	ＧＭＴ企業訪問
4	テーマに関する研究
5	〃
6	〃
7	発表に向けた資料作成
8	〃
9	予行演習
10	振り返り
11	ＧＭＴ企業研究まとめ
12	次年度ゼミテーマ探索
13	〃
14	〃
15	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外での行事（企業訪問、合宿など）に参加することがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	キムラ　ナオキ 木村　直樹
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業は① iPad や Microsoft　Office 等を含むＩＣＴスキル、②レポートの書き方、③プレゼンの仕方、といった、初年次でカバーする学習内容の発展、および３年次以降の「専門演習」で扱う、より専門的な実務思考トレーニング（経営／経済・法／会計／経営心理／マーケティング）の橋渡しとなる科目です。

後期の「プロフェッショナル・セミナーⅡ」は前期の内容を前提として、経営学科の各担当教員が専門とする、より発展的な内容（３年次以降「専門演習」）の「ゼロ段階」にあたる、幅広い知識の習得を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．「専門演習」のゼロレベルとしての２年次ゼミ	経営学科の各コース（経営／経済・法／会計／経営心理／マーケティング）の専門的な内容につながるような、幅広い教養と知識を身に付ける。	20%
２．ゼミ発表大会（発表者側）を見据えたグループワークの基礎	ある１つのプロジェクトにグループで取り組むうえで必要となる、「ワーキンググループ」内の役割分担とリーダーシップについて、ゼミ内で実際に体験する。また、先行研究の調査方法について学ぶ。	20%
３．専門的内容について自ら発信する能力の養成	各コースに関連する何らかの新しいテーマについて考えて、問題提起を行い、それをレポートやプレゼン資料にまとめられるようになる。また、その調査結果について、個人ないしグループで発表できるようになる。	20%
４．アカデミック・リテラシーの養成	与えられたテーマについて考え、実際に仮説を立て、それを検証し、データとしてまとめた上で、分析と考察ができるようになる	40%
評価の方法　上記の４項目について、授業での貢献度や積極性などを合わせて考慮し、評価する。授業への出席は３分の２以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	コース概要や成績評価についての説明
2	メディアとことばの基礎①	ことばとその表現法について、掘り下げて考えてみるとともに、ことばと文化の関係を考える
3	メディアとことばの基礎②	
4	語用論と認知処理①	語用論（ことばによるコミュニケーション方式と文脈依存性をカバーする理論）の基礎を学び、それが人間の認知処理能力とどう関わっているのかを学ぶ
5	語用論と認知処理②	
6	語用論と認知処理③	
7	広告とことば①	企業のキャッチコピーやＣＭなどにことばがどのように活かされているのかを考える
8	広告とことば②	
9	文処理効率の最大化①	どうすれば言語的に伝達効率を最大化させられるのかを、さまざまな身の回りの表現から考える
10	文処理効率の最大化②	
11	文処理効率の最大化③	
12	理解負荷の最小化①	どうすれば相手に理解してもらえるか、そのエネルギー負荷の最小化はどうすれば図れるのかを、さまざまな身の回りの表現から考える
13	理解負荷の最小化②	
14	理解負荷の最小化③	
15	秋学期のまとめ	秋学期に扱った内容について、プレゼンを行う

【使用教材】

◇参考図書については初回の授業で指示し、以降の読書課題については適宜指示する。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇必ず iPad を持参すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「老後資金2000万円必要」という文言が金融庁の報告書に載ったことは知っていますよね。これをきっかけに「年金だけではダメだ」、「ちゃんと自分でお金を管理しないと」という機運が高まりました。大学生の皆さんはどうしますか？お金は使えば減りますが、使うことで増えるお金の使い方があります。それが投資です。投資の基本は長期運用です。したがって、早く投資を始めるほど良いということです。しかし、投資を始めるといってもどうしていいかわかりませんよね。投資に必要なスキルや知識の総称を『金融リテラシー』と言います。ゼミナール活動を通じて、お金のプロフェッショナルを目指しましょう！

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門書を読む力、レジュメ作成力、プレゼン能力、ディベート力を身につける	期末に課すレポートの内容とセミナーにおけるアクティビティへの取り組みを総合的に判断する。	レポート評価60%、各種アクティビティの平常点40%

評価の方法　レポート評価60%、各種アクティビティ等の平常点40%により総合的に判断して成績を評価します。

ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。

【授業計画】

► 専門書の輪読

► 先行研究フォロー

► 討論テーマの決定

► ディベート

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。セミナー活動に真剣に取り組むこと。欠席等の連絡は当日ではなく事前にすること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から新聞やニュースをチェックすること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：ヒューマンリソースマネジメント～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」について様々な角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているかになります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているかになります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%

評価の方法　個人作業の内容：40%
集団作業の貢献度：40%
出席およびゼミ運営：20%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	オリエンテーション
2 3 4 5 6 7 8	テキスト講読 ・テーマ設定会議で決定した内容に関連するテキストの輪読 ・レジュメ作成・発表 ※テキスト一冊を通読する訓練を行います
9	グループワーク設定会議
10 11 12 13 14	グループワーク ・テキスト購読を通じて発見した課題の解決 ・グループディスカッション
15	フィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示します。

◇参考書：授業時に指示します。

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。

◇与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。

◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしましょう。

【その他の注意事項】

◇意欲のある学生を歓迎します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

消費者行動およびマーケティングについての理論を応用し、効果的な企業戦略について立案する。企業側の視点に立ち、消費者の心理や行動分析をもとにしたマーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動とマーケティングの理論を理解し説明できる	授業時の発言内容と課題提出によって評価する。	20%
消費者行動とマーケティングの理論を応用し、現実のビジネスモデルを分析できる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。理論をただ理解するだけでなく、その理論を応用して、現実の現象を分析し、説明することができる。	20%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	30%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、個人研究の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	グループ研究の実施	・テーマ選定 ・リサーチ計画作成 ・調査分析の実施 ・資料作成 ・発表準備
3		
4		
5		
6		
7		
8	企業および商品に関するケーススタディ	実際の企業や商品の現状を分析し、問題点や改善点を探る。効果的なマーケティング戦略を立案する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	これまでの授業についての総括および学習達成度の確認する

【使用教材】

◇教科書：なし。

◇必要に応じて資料等を配布する

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報の入手を心がけること。

【その他の注意事項】

◇授業には、極力休まず出席すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス社会で、マーケティングという言葉が使われていますが、その意味は、市場調査や広告・宣伝など販売促進（プロモーション）活動など多様です。

マーケティングは、このような部門活動だけでなく、全社的・戦略的行動です。

マーケティングは、ビジネス（経営）の基本です。

本科目では、まずテキストを輪読し、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより理解を深めていきます。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%

評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	セミナーの進め方
2	サービス・マーケティング	輪読
3	サービス・マーケティング	輪読
4	サービス・エンカウンター	輪読
5	サービスの品質と満足	輪読
6	従業員満足と顧客満足	輪読
7	ケーススタディ	発表・ディスカッション
8	ケーススタディ	発表・ディスカッション
9	ケーススタディ	発表・ディスカッション
10	ケーススタディ	発表・ディスカッション
11	ケーススタディ	発表・ディスカッション
12	ケーススタディ	発表・ディスカッション
13	ケーススタディ	発表・ディスカッション
14	ケーススタディ	ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇日野隆生編著『サービス・マーケティング―理論と実践―』五絃舎、2018年

◇（日野隆生共著)『マーケティング戦略論（第２版)』学文社、2019年

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは禁止です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	広瀬（ヒロセ） 盛一（モリカズ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

このプロフェッショナル・セミナーでは、さまざまなマーケティング活動のなかでもテレビやオンラインの広告、クーポンなどの販売促進、SNS やオンラインサイトにおける口コミといったマーケティング・コミュニケーション活動を中心にして、マーケティングについて学ぶと同時に、研究をするための基本的な技術の習得を目指す。

マーケティングは、身近にあるビジネス活動であり、学生もマーケティング活動のターゲットとして企業から注目されている。企業がどのようなマーケティング活動を行っているのかを理解することは、企業のマーケティングについて理解するだけでなく、消費者としてマーケティング活動に向き合えばよいのかという知識も得ることになる。

本セミナーでは、マーケティングの学習を通じて、図書館やオンラインでの情報検索、パソコンでの文章や資料の作成、学習内容の発表といったアカデミックリテラシーも高めていく。研究テーマは、受講生と相談して決める予定だが、オンラインのマーケティング活動を考えている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルや SPSS などのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業への参加50%、課題50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	ゼミの運営方針の説明と参加者の自己紹介
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定
3	同上	同上
4	研究方法の検討	研究方法の検討
5	同上	同上
6	資料の検索と収集	資料の検索と収集
7	同上	同上
8	分析方法の検討	分析方法について検討
9	同上	同上
10	データの収集と分析	データの収集と分析
11	同上	同上
12	同上	同上
13	研究のまとめ	テーマについてまとめる
14	同上	まとめたものについて発表する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

本セミナーでは、最終的にグローバル・マーケティングに関する問題を解決・提案する能力を養成することを目的とします。グローバル・マーケティングとは、国境を越えて行われるマーケティング活動を意味します。それは、自国とは異なった制度環境でマーケティングを行うということです。本「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、「プロフェッショナル・セミナーⅠ」で習得した知識をもとに、研究テーマを発見し、研究方法を検討し、研究を完成するという、ゼロから完成までの全てのプロセスを、履修生自身が主体的に関与し研究能力を養成することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	授業におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	授業におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して発表者の発表内容を理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	20%
研究レポート・論文を執筆できること	研究レポートおよび論文の基本的体裁（参考文献の記載方法、章立て、論理展開など）について学び、自らが執筆した研究レポート・論文の完成度が評価基準となる。	20%
研究レポート・論文の内容を、プレゼンテーションツールなどを使って発表できること	自らが執筆した研究レポート・論文をパワーポイントなどのプレゼンテーションツールを効果的に活用し、聴衆にわかりやすく発表できることが評価基準となる。	40%

評価の方法　研究への取り組み態度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言などの積極性50点を基準に評価する。

【授業計画】

＜履修者の理解度と興味に応じて調整＞

・マイクロソフトのオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の実践的活用

・統計ソフトの実践的活用

・研究テーマ設定

・研究方法の検討

・研究調査のプランニングと実践

・研究発表

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。

◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

◇とくに設けない。

◇以下に記載の「その他の注意等」を熟読し、理解できる学生ならば、歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業計画に記載した事項（授業中に指示)。

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇本「プロフェッショナル・セミナーⅡ」は、履修生の自発的な学習が重要になります。毎週履修者が分担して、課題報告をすることが求められますので、出席はもちろんのこと、そうした課題をこなす自信とやる気がある履修者でなければ単位修得は困難かと思われます。ただし、やる気のある学生、将来海外で働いてみたい、国内で就職しても海外に携わる仕事をしてみたいという学生はこのセミナーで得るものは大きいでしょう。通常の授業とは異なりますので、自ら学習の意思がある学生のみの履修を求めます。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	福山（フクヤマ）　倫基（モトキ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：原価計算・管理会計とＩＴ

秋学期は、原価計算・管理会計に関するケーススタディと、ケースをシミュレーションするシミュレーターないしゲームの開発を行う。システムの開発を行うということは、その対象に対する深い理解が必要となると同時に、何らかの活動を効率化することや改善することを実現したり、新たな可能性を見出すことにもつながる。これらの活動を通して、受講生の皆様の会計知識のより深い情勢や、一般的に世に求められている情報活用能力の育成を実現したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
静的なシステムと動的なシステムを理解する	ゼミ活動を通して評価します。 システムは、システム間の連携の強いものであったり、情報を表示するだけのものなど様々です。それらのシステム構築の基礎を学びます。	30%
管理会計・原価計算領域のケースをレビューできるようになる	ゼミ活動を通して評価します。 ケースをレビューすることは、何も大学だけで行うことでなく、経営社会一般的に行われる活動です。その一連を学習します。	30%
管理会計・原価計算領域のケースをシステムに置き換える	ゼミ活動を通して評価します。 システムを作る際、ある活動をコンピュータで出来るように再設計する必要があります。その一連を学習します。	20%
自分の力で小さなシステムを構築する	課題によって評価します。 大なり小なり、自分の力でシステムを開発することは自信につながると考えます。よって、どんな些細なシステムでもいいので構築することを評価軸にします。	20%
評価の方法　ゼミ活動への積極的な参加及び提出課題により評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	演習	前期の学習内容を元に、以下の二点を主軸に演習を行います。 １．管理会計・原価計算領域のケーススタディ ２．システム構築
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	自分で考えたシステムを提出してもらいます。

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義ではＩＴルームで講義を行います。ＵＳＢを持ってきていただくと幸いです。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

◇講義中に詳しく説明します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業の環境問題対策について

・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて

・環境ビジネス、観光ビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
観光ビジネスに関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
地域活性化に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
上記のテーマに関する問題発見能力の開発とプレゼン能力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%

評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	進め方についての説明、メンバー間のコミュニケーション
2	研究テーマの検討	テーマについてのレクチャーと各自のテーマの検討
3	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定。
4	調査・検討	それぞれ文献調査やフィールドワーク
5		
6	中間発表	研究の中間発表
7	中間発表	研究の中間発表
8	発表の振り返り	それぞれの発表についてディスカッション
9	調査・検討	それぞれ文献調査やフィールドワーク
10		
11		
12	研究発表	各自まとめの研究発表
13	研究発表	各自まとめの研究発表
14	発表の振り返り	それぞれの発表についてのディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

◇その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇ゼミ活動に積極的に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自がそれぞれのテーマについて自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	光澤（ミツザワ） 美芽（ミメ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

【研究テーマ】財務会計

このゼミでは、財務会計をテーマに、3年次および4年次の専門演習の基礎固めとして、初歩的専門性の獲得および専門研究の手法の基礎を習得することを目的としている。

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」（秋学期）では、「プロフェッショナル・セミナーⅠ」（春学期）の専門知識を前提に、前半はグループごとに財務会計に関するテーマを選定し、グループワークを、後半は個別にテーマを選定し、個人研究活動を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商３級程度)、会計理論（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ）の知識を有しているか。ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理分析することができるか。	20%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	20%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝達することができるか。実のある議論ができるか。	20%
研究活動の手法の基礎の確立	ゼミ活動およびレポートにより評価。 グループ研究活動および個人研究活動において、テーマの設定、文献・資料の調査・収集・整理、論理的文章の執筆が適切にできているか。	20%

評価の方法　ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）および研究成果により評価。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	グループ分けとグループ研究のテーマ選定
2	グループワーク	グループごとに選定したテーマについての調査・研究活動。 （必要であれば図書館やＰＣルームを利用）
3		
4		
5	中間報告	レジュメ・ＰＰＴを用いて、問題意識（テーマ）、章立て、研究手法などを報告。質疑応答。
6	グループワーク	中間報告において明らかになった問題点などを踏まえ、引き続きグループごとに調査・研究を行う。
7		
8		
9	研究成果報告	最終報告。
10	個人研究の進め方について	個人研究の手法について。
11	個人研究テーマ報告	研究テーマ、章立て、研究手法などを報告。
12	個人研究活動	各自、調査・研究。（必要であれば図書館やＰＣルームを利用）
13		中間報告。質疑応答。
14		調査・研究。
15	総括・達成度の確認	個人研究成果報告

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」を履修済みであること。

◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記３級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ・Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。

◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（ＰＰおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。

◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。

◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等ＳＮＳの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ヤマカワ　サトル 山川　悟
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：実践的マーケティングプランニング

マーケティングには「商品開発」「販売促進」「広告宣伝」「ブランディング」などさまざまな領域があり、その裾野は非常に広いものです。本講座は単に知識としてのマーケティングではなく、「自分たちで考えてみる」「自分たちでやってみる」ことを通じて、マーケティングの仕事の楽しさを体感してもらえる場にしたいと考えています。また、近隣の企業から具体的なテーマをもらって企画に取り組むことや、企業訪問インタビューなどもカリキュラムのひとつに想定しています。

以下にシラバスを示しますが、授業運営については受講生とともに話し合いながら進めていきたいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会人としてのマナーやビジネスリテラシーの確立	授業にはきちんと出席する、遅刻しない、メールには返信する、課題は提出する、約束は守る、学生同士互いに助け合う、きちんとしたメール文がつくれる…といった基礎能力を評価ポイントとする。	50%
マーケティング企画の実践を通じた基礎学力の向上	企画書の作成を通じてパワーポイントの扱い方を、調査分析を通じて統計的な思考法を、消費者行動の観察を通じて心理学を、ネーミングを通じて外国語を…というように、実務的な作業によって基礎的な能力も磨いていこうとする姿勢があるかどうかを評価ポイントとする。	30%
連携授業を通じた社会的体験づくり	企業訪問や連携授業に対する意義を理解して積極的に取り組み、高い成果を目指そうとする姿勢があるかどうかを評価ポイントとする。	20%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	概要説明
2	相互理解プログラム	参加者同士のコミュニケーション
3	プランニング作業①	企業との連携による具体的なマーケティングプランの作成
4	プランニング作業②	
5	プランニング作業③	
6	プランニング作業④	
7	企業訪問準備①業界研究	近隣の優良企業を事前に研究し、直接訪問して経営者にインタビューを行う インタビューした結果は「会社案内」としてまとめてプレゼンテーションする
8	企業訪問準備②経営理念研究	
9	企業訪問準備③顧客研究	
10	企業訪問準備④商品・サービス研究	
11	企業訪問	
12	まとめ作業①	
13	まとめ作業②	
14	発表とフィードバック	
15	総括と達成度の確認	

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で紹介予定。

【履修条件等】

◇商品開発や広告などに興味があること。

◇マーケティング、商品開発や広告などに興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等)、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミは学生主体で運営するものです。無連絡で欠席、遅刻をしないこと。

◇担当講師からの連絡・メールには、きちんと返信すること。

◇履修者同士の良好で長期的な人間関係をつくりあげていってください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

この演習では「経営」と「企業」についてさまざまな角度から考えていきます。経営とはなにか、企業がどのような仕組みで動いているのかということについての全体像をつかむことを目的としている。まず「戦略論」、と呼ばれる分野について、基礎的な文献を精読し、研究の方法を学び、各個人の興味や研究課題を明確にさせていくために、産業や企業に対しての興味の幅を拡げていくように学びを深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成する。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して積極的にコメントを行ったか。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表する。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行ったか。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行う。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮したかどうか。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求める。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価する。評価基準は、積極性と真摯さ。	20%

評価の方法　個人作業の内容：40%
集団作業の貢献度：40%
出席およびゼミ運営：20%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	オリエンテーション
2	テキスト講読
3	・テーマ設定会議で決定した内容に関連するテキストの輪読
4	・レジュメ作成・発表
5	
6	
7	
8	
9	グループワーク設定会議
10	グループワーク
11	・テキスト購読を通じて発見した課題の解決
12	・グループディスカッション
13	
14	
15	フィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示する。

◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識すること。与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスであるということを意識すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応する。

◇日頃より社会問題に広く関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇意欲のある学生を歓迎する。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 【寄付講座】税理士による租税講座	イシカワ　マサル 石川　　勝
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は日本税理士会連合会の寄付講座である。受講者には我が国における税金のしくみをわかりやすく解説し、色々な税金の内容やその運用、私たちの生活とのかかわりなどを理解することを目的としている。また、我が国の税金の運用を支える税理士の仕事の内容や社会的意義を理解し、税理士を目指す人にも有益な知識を得てもらうことを目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
税金の役割とその機能を理解する	毎回授業終了に提出するリアクション・ペーパーとレポートによって評価する。	25%
わが国の税金の仕組みを理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーとレポートによって評価する。	25%
税理士の仕事を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーとレポートによって評価する。	25%
税理士の社会的役割を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーとレポートによって評価する。	25%
評価の方法　授業の最終評価はリアクション・ペーパー30%、レポート70%の割合で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	「わかりやすい租税制度と税理士の役割について」
2	「あなたの成長と共に一生付き合う税金で何だろう」
3	「個人の税金　所得税の仕組み」
4	「確定申告書の見かたと書き方」
5	「会社の税金　法人税の仕組み」
6	「法人税申告書の見かたと書き方」
7	「消費税の仕組みってどうなっているのかな」
8	「相続税と贈与税の基礎知識」
9	「地方税の税金と基礎知識」
10	「国際課税の現状」
11	「税金の使われ方は誰が決定するのか」
12	「私の税理士になるための道のり」
13	「総括」
14	「試験」と「感想」

【使用教材】

◇教材は無料で配布します。

【履修条件等】

◇税金に興味を持っている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次回の授業で取り上げるテーマについて教材を読んでくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 地域マネージメント	イシワタ　マサト 石渡　正人
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

地方創生、観光立国などの政策に見られるよう、これから地域マネージメントが重要視されます。地域マネージメントは行政だけが行うものではありません。企業にとっても地域ブランド商品やサービスの開発、観光やイベントなど沢山のビジネスチャンスに溢れています。またＣＳＲが重要視される今日、企業市民として地域にどうかかわるかは大事な課題であり、地域ブランドの創出では企業のもつノウハウも含め大いに期待されています。

本講義では、事例検証を交え、地域ブランドビジネスの特性やビジネスモデルなどを学びます。さらに、後半の講義は実務 IQ の観点から、高田馬場を題材に地域デザイン（ここでいうデザインは目的をもって具体的に立案・設計することの意）についてフィールドワークを交え学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
地域社会の問題点や解決のための施策について理解できる	講義中に解説する地域社会の問題点や必要とされる施策について理解しようと努め、積極的に興味を持てるか。講義中の質疑や討論で客観的に評価。	20%
地域社会での問題点からビジネスを構築するための手法を理解する	地域ブランドビジネスの特性や、商品（サービス）の開発方法、問題点などを理解しているかを、授業中の質疑応答やテストで評価。	40%
地域社会での問題点を解決するために自分なりのビジネスプランをまとめる	地域を対象にしたビジネスプランを指定フォーマットの企画書にまとめる。地域の問題点への考察と課題解決に向けたプランを戦略的に組み立てられているかを評価ポイントとする。 実現性は問わない。	40%
評価の方法　70%以上の出席を条件に、出席評価（受講態度も含む）20%、 中間テスト40%、本試験（指定フォーマット企画書）40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	地方を取り巻く状況	人口減少社会、高齢化、産業空洞化、地域コミュニティの分断など現状の問題点を解説
2	地域活性化について 社会学的アプローチ	地域コミュニティとソーシャルキャピタル、地域の個性、差別化など
3	地域活性化について 経済学的アプローチ	地域ブランドの考え方、手法などの解説 地域商業（商店街）活性化など
4	地域ブランド開発①	地域ブランド商品、食文化、B級グランプリなど
5	地域ブランド開発②	文化・環境ブランド＝テーマ型集客施設、道の駅など
6	地域ブランド開発③	観光ブランド＝コンテンツツーリズム、インバウンド
7	地域ブランド開発④	キャラクター住民、ゆるきゃら、ご当地ヒーローなど
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	高田馬場の地域デザインを考える①	地域デザイン（目的をもって具体的に立案・設計すること）のためのフィールドワークの手法を学ぶ
10	高田馬場の地域デザインを考える②	地域の問題点の洗い出しと文献調査
11	高田馬場の地域デザインを考える③	フィールドワーク～調査対象：高田馬場周辺の商店街や企業施設、自治体など
12	高田馬場の地域デザインを考える④事例紹介	高田馬場発祥、日本で一番発行額の多い地域通貨「アトム通貨」に見るソーシャルキャピタルの醸成
13	高田馬場の地域デザインを考える⑤事例紹介	江戸伝統野菜「内藤とうがらし」再興プロジェクトとまちバルイベント「バル辛フェスタ」に見る地域ネットワーク
14	学習達成度の確認	学習達成度確認のための地域デザインをテーマにした、指定フォーマットによる企画書の作成

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇みなさんの身の回りにあることが題材になります。
　そのため講義中に質問や議論を行うことがあり、能動的な出席態度で望んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業終了時に次回の授業内容を予告します。その観点から自分の住んでいる街や、大学のある高田馬場の街を眺めておくと授業の理解度が増すでしょう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 【電通寄付講座】イベント先端戦略	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

2019ラグビーW杯、東京2020オリンピック・パラリンピック大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西など、全世界が注目するスポーツイベントが日本国内で開催されます。日本が全世界から注目され、訪日外国人も増加するなか、イベントは日本のあらゆるチカラを全世界にアピールする最高の機会になります。

スマホやネットが前提の社会になるなか、「Moment of Truth」＝イベントが本来持つ力に、注目が集まっており、その最前線で多様なイベントを企画プロデュースしている電通グループのメンバーが「イベントとは何か」「どんなイベントがあるのか」「どうつくるのか」という基礎的内容から、テクノロジーで進化している最先端事例まで、実体験に基づいたイベントの現在と未来を講義します。

講師は電通、電通ライブの社員が務め、オムニバス形式で行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントの本質・目的と企画戦略	設問に対する回答によって評価。イベントの本質や目的、戦略的なきかくについて理解し、それぞれの形態ごとについて答えられること。	20%
イベント実施、演出、運営とテクノロジー融合の理解	設問に対する回答によって評価。イベントの実施・運営や演出などに加え、それらを取り巻くテクノロジーについて理解すること。	20%
国、グローバル、スポーツなど大型プロジェクト型イベントの実態	設問に対する回答によって評価。国家が行う大規模プロジェクトやグローバルに行われるスポーツイベントなどの大型イベントについて理解し、その特徴について答えられること。	30%
イベント企画の実際：ワークショップ	実際にイベントの企画をワークショップ形式で立案し、その企画が目的を達成するものであるか、実際に実施が可能であるかなどを検証し有効的なプランを提案できること。	30%
評価の方法　授業態度30%、成果物（企画書作成など）30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション&イントロダクション	電通にとってのイベントとは。 「Moment of Truth」＝イベントが本来持つ力に注目が集まっている
2	イベント概論	イベントの種類と概要、時代毎の役割変遷、進化するイベント、各種法令とコンプライアンス
3	マーケティングにおけるイベント	目的・期待効果／ KPI 設定・効果測定、統合ソリューションにおけるイベントの役割と単体機能
4	イベントのつくり方	イベントを構成する要素の詳細説明 （企画、運営、演出、造作、施工、etc.）
5	イベントのトレンド	社会・経済・技術の変化に伴い生じている最新のトレンド（事例とともに紹介）
6	イベント×テクノロジー	体験装置としてのテクノロジーとマーケティング活用のための IT（事前～本番中～事後のデータ取得・分析まで）
7	ワークショップ①	TBD ／イベントを企画する、進行台本を書く、演出プランを考える
8	代表的なイベント具体事例①	TBD ／大型コンテンツ・文化イベント （国際的スポーツイベント、音楽ライブ等）
9	代表的なイベント具体事例②	TBD ／博覧会・展示会 （万博、モーターショー等）
10	代表的なイベント具体事例③	TBD ／販促イベント・ＰＲイベント （新商品発表会、商品体験型イベント等）
11	代表的なイベント具体事例④	TBD ／エリアイベント・全国横断イベント （六魂祭、シティマラソン、サンプリング等）
12	代表的なイベント具体事例⑤	TBD ／セミナーイベント・インナーイベント （事業フォーラム、周年、事業方針説明会等）
13	代表的なイベント具体事例⑥	TBD ／商業施設イベント・期間限定イベント （オープニング、ポップアップストア等）
14	ワークショップ②	TBD ／想定クライアントの競合プレゼン演習 事前オリエンを行った上で、複数チームによる競合プレゼンを行い、勝利チーム選定および講評
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※内容については変更することがあります。

【使用教材】
◇各テーマごとに必要に応じて用意します。

【履修条件等】
◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】
◇イベントに関する情報やニュースなど、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】
◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ **IoT･AI の経営戦略への活用**	オカザキ　ショウイチ 岡崎　正一
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略を考える上で、AI を含む IoT の活･は必須事項となっている。本講義では、IoT システムを構成する技術と導･事例を基に、AI を含む IoT 技術がどのように経営に活用できるのか、いかに必須の技術・知識となっているかについて理解する。

講義は、システム事例をもとにビジネスモデルを分析、利用されている技術の理解、最新技術のトレンドなど、演習を通して経営戦略への AI および IoT の活用について理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
IoT 用語の理解	IoT システムの基礎的な仕組みと特徴を説明できるレベル。	30%
IoT システムの構成要素の理解	IoT システム全体が俯瞰でき、システムへの AI 活用の検討ができるレベル。	30%
IoT・AI のビジネスへの展開	IoT・AI をビジネス分野へ展開できるかどうかの検討ができるレベル。	40%
評価の方法　(1)毎回実施する練習問題の理解度に基づいた評価30% (2)試験70%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	IoT 概論	IoT・AI 等の動向、産業界の IoT・AI への取り組み状況
2	IoT の仕組み	技術トレンド、システム事例
3	IoT システム構成	標準的な IoT システム構成、データ駆動型モデル、第４次産業革命、Society5. 0
4	IoT デバイス	センサの種類と活用方法、ロボット・ドローンの現状 プロトタイピング
5	インターネットの仕組み	インターネットの概要、サービスプロバイダーの役割
6	IoT 通信方式	IoT 通信方式の概要、無線 LAN
7	モバイル環境	モバイル通信、位置情報、ウェアラブルデバイス
8	IoT ビジネス推進にあたっての留意点	１回～７回の講義内容を振り返り、後半の講義における留意点を確認する
9	IoT データ活用	データの活用方法と事例、代表的なデータ分析手法
10	AI でできること	機械学習／深層学習、AI 適用システム事例
11	情報セキュリティ	IoT セキュリティ対策、システムの安全運用
12	ビジネスモデル	IoT プラットフォーム、イノベーション
13	IoT エコシステム	IoT サービスプラットフォーム、IoT システム事例
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度指示する。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 展示会・会議イベント	北原（キタハラ）　隆（ユタカ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

展示会という分野のイベントはシステムがかなり確立されています。

そのシステムを知り、展示会場の仕組みを知り、出展要綱を読み込み、展示会独特のルールを知ることで展示会というイベントを理解します。

さらに、その出展目的と出展位置に合わせた効果的なブース作りを提案し、最適な運営を行なえる知識とスキルを身につけます。

また、外に向けたものとしての会議やセミナー、講習会。企業が内に向けて行なうコンベンションや表彰イベントなどの特徴を知り、効果的に計画できる技術を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
展示会・会議イベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 技術や手法・道具を基礎から知り、理解し説明することが出来る。	15%
さまざまな展示会・会議イベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 さまざまな展示会・会議イベントのケーススタディにふれ、その特徴を理解し、説明できる。	15%
展示会・会議イベントの構成要素を知り理解する	設問に対する回答によって評価。 出展要項を読むことができ、理解し、クライアントに対し必要な条件を説明し、提出書類を選ぶことができる。	40%
自らの展示会・会議イベントを組み立てる力を身につける	課題とレポートよって評価。 オリジナル企画のイベントをデザインし表現して相手に提案し、実現することができる。	30%
評価の方法　日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	さまざまな会場、さまざまなスタイル
2	展示会の基礎　会議の基礎	展示会とは　会議とは
3	展示会場の仕組み	展示会に特化した会場作りの秘密
4	出展要綱について-１	展示会ならではのルール
5	出展要綱について-２	提出書類の意味　電気と備品
6	ビジネス DAY と一般 DAY	来場者の目的の違いと展示手法
7	施工時撤収時の注意	搬入搬出　車両　施工電源
8	リースとシステム	目的別システムの選び方
9	効果的なブース作り	導線計画 サイン計画 展示計画 ポストとシフト
10	名刺交換と管理	何のために出展しているのか　展示会後の対応
11	外部向け会議イベント	講習会　セミナー　発表会
12	内部向け会議イベント	キックオフミーティング　アワード
13	システムと演出のトレンド	同通と中継　プレゼンスタイル
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。

◇巻尺および三角スケール。

【履修条件等】

◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること。

◇１年以内に展示会を最低１つは見ていること。

◇「イベントキャリア」を受講済みであることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。

◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 産業と企業戦略１	ハヤシ　タカブミ 林　　倬史
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

大手企業役員経験者による各業界の事業と職務内容講義

大手企業の経営に実際に携わってきた方々による、「業界における競争環境の変化」、「企業組織」、「職務内容」、「必要な職務上の能力」、等々について具体的に解説し、学生諸君との質疑応答を通してビジネスマンとして要求される諸知識を習得していく。「現代の産業と企業戦略１」は、「化粧品・コンビニ・飲料・化学・家電・外資・アジア大手企業の業界構造とビジネスに言及して解説していく。

本授業は、受講生が、職業の選択に際して、自らの将来展望と要求されてくる職務能力に関する認識を深めることを目的としている。したがって、この科目は「就職活動に入る前の２・３年生を中心に、業界と企業に関する必要な知識を提供し、就職活動をより有意義なものにすること」を目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造、競争環境を理解していること	主な業界・産業の構成企業、競争状況、収益」状況などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造、競争環境が国際的な競争環境下において、何が求められているかを理解すること	講義で概説する主な日本の業界・産業と主要構成企業が国際的におかれている競争上のポジションを、競争優位性の観点からどの程度理解しているかを評価する。	10%
講義で取り扱った産業の主要企業における、歴史・組織・戦略に関する基本的知識を習得すること	それぞれの講義で扱われた企業の特質を、歴史・組織・戦略・技術開発力と国際的競争優位性等に関する基本的知識を習得しているかを評価する。	20%
それぞれの講義で説明した産業・企業の特質を競争環境・産業組織・主要企業の組織・戦略に関する専門知識を習得し、それら産業や企業で要求される職務能力を理解すること	それぞれの講義で説明された業界・企業の特質を、内外における競争上のポジションの視点からどの程度理解しているか、そしてそれら業界・企業で必要となる職務上の能力はどのようなものかを試験（客観テストの予定）により評価する。	60%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、試験（客観テストを予定）60%、小テスト20%、出席と授業への参加の程度20%の配分予定。 試験は客観テスト、小テストは論述により基礎的な学習成果を評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	各講義の概要説明	それぞれの講義内容の概説および各担当者の紹介
2	化粧品業界	化粧品業界の事業概要と主要企業の特質
3	資生堂	資生堂の事業概要と組織・戦略
4	流通業界	流通業界の特質と国際的競争環境
5	UPS ジャパン社	国際流通企業の業務内容と事業戦略
6	コンビニ業界	コンビニ業界の事業構造と職務内容
7	ファミリーマート社	ファミリーマート社の事業概要と職務内容
8	化学業界	化学産業の事業内容と構成企業の概要
9	帝人社	帝人社の事業概要と戦略
10	アジア企業の戦略（中国）	中国企業の事業概要：FUAWAY・アリババを中心として
11	アジア企業の戦略（韓国）	韓国企業の事業概要と戦略：サムソン・LG を中心として
12	パナソニック社	パナソニックの事業概要と巻き返し戦略
13	クアルコム社	クアルコム社の事業内容とスマホ戦略
14	飲料業界とマーケティング戦略	飲料業界の概要とマーケティング戦略

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：配布資料。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に各講義で説明する業界・企業を紹介するので、授業中の質疑に対応できる知識を事前に学習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業はそれぞれの業界の役員経験者による授業となるため、本学学生の業界における評価に直結することになる。したがって、授業態度には十分気を付け、積極的に討議に参加することは求められる。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ コミュニケーション囲碁	原（ハラ）　晶子（アキコ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

《自己実現のためのコミュニケーション能力向上と人間力アップ講座》

この授業では、囲碁の簡単なルールを用いて、コミュニケーション能力を高めていくスキルを学びます。

囲碁は、世界中の人々が楽しんでいるゲームです。

囲碁を通してさまざまな人と関わり、互いに学び合い、視野を広げ、自己実現に向けてディスカッションをしていきます。

グループワークを中心とした、体験型授業です。

さまざまな立場のゲスト、プロの囲碁棋士を招き、受講生と共に授業に参加していただきます。

囲碁で楽しく、コミュニケーション能力向上、人間力アップを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「囲碁」を通した対人関係の構築	・受講生全員との対戦 ・受講生以外の人に、囲碁でコミュニケーションを取る実践	30%
ディスカッション・発表のスキルアップ	・テーマに即した発言や発表 ・内容 ・聞き手に伝わる話し方	30%
話を聞く姿勢	・講義・ディスカッションでの人の話を聞き理解する力	20%
レポート	・自身の感じたこと意見を記述する	20%

評価の方法　正解、不正解はありません。
一人一人の考えや意見を尊重しながら進めていきます。
グループワーク、ディスカッション、発表、レポート全てにおいて、積極的な参加度を重視します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	囲碁とコミュニケーション	受講生同士で囲碁対局 日本、海外での囲碁事情
2	なぜコミュニケーション囲碁なのか	講義 ディスカッション
3	ふるさと自慢	自分のふるさと自慢を発表
4	自分史	自分の過去を振り返る
5	自分マップ	自分を知る
6	夢大会　１回目	夢を語り合う
7	違いを認め合う	体験型グループワーク
8	囲碁大会準備	受講生が囲碁大会をプロデュース
9	チームビルディング	ジャンボ碁盤を作成・団体戦体験
10	囲碁大会	囲碁大会
11	ゲスト自分史	ゲストの人生体験を聞く
12	未来予想図	自分の未来を考える
13	発表	テーマ発表
14	まとめ	まとめ

【使用教材】

◇教科書：囲碁セットとテキスト　1,200円

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要な場合、その都度伝える。

【その他の注意事項】

◇グループワークが基本で段階を追って構成しているプログラムです。
グループメンバーに迷惑をかけないためにも、遅刻や欠席は極力しないようにお願いします。止むを得ず欠席の場合は事前連絡をしてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ	三好（ミヨシ） 陽介（ヨウスケ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネスを進める際には、さまざまな場面で適切な意思決定が求められます。この授業は、企業経営の現場において適切な意思決定を行うための基礎知識の習得と理解を目的としています。

具体的には、意思決定の根幹である「判断」について、論理の側面から1)情報の収集と選別 2)リスクと現在価値 3)推定を、また心理の側面から1)合理的決定と感情 2)期待とバイアス 3)信頼、等のテーマを取り上げます。講義のほか実際のビジネスシーンをもとにしたゲーム形式の簡単な演習を行い、意思決定の実践方法を学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)合理的判断のための情報処理と推定についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)判断に対する感情の影響についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)評価についての実践的な理解	上記、学習・教育目標の1)および2)をふまえ、市場や社会の評価について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)基本的な意思決定手法の取得	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえ基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法　・授業への出席：最低でも70%（10回）以上出席すること。 ・評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	
2	情報の収集と選択(1)	情報の収集とその方法
3	模擬交渉(1)：準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
4	模擬交渉（2)：交渉	
5	情報の収集と選択(2)	不確実な状況での情報収集
6	リスクのもとでの判断	メリットとデメリット、リスクとダメージの違い
7	合理的決定と感情(1)	先入観による認知のバイアス
8	合理的決定と感情(2)	アンカリングとフレーミング
9	価値共有と信頼(1)	価値共有とそれによる信頼の醸成
10	価値共有と信頼(2)	信頼醸成のためのコミュニケーション
11	模擬交渉(3)	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
12	模擬交渉(4)	
13	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

◇最低出席率(70%)を満たすこと。不正出席者は履修停止とします。

◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。

◇30分以上の遅刻は50%欠席とします。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ キャラクターイベントにおける意思決定	出原（イズハラ）　隆史（タカシ）
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

アニメ作品等のキャラクターを利用したイベントは多種多様な形態で企画・開催され、今後発展・拡大するエンテタインメントコンテンツとして期待されています。そのキャラクターイベントを企画・開催する上で必要な権利処理を学ぶとともに、キャラクターイベントの企画書・収支計画の作成方法やプロデューサーとして意思決定するイベント要件について疑似体験を通じて学んでいきます。

本講義は、前半では事例を題材とした講義形式で進めます。後半はケーススタディとし、プロデューサーの立場に立ち、キャラクターイベント開催の基本事項（料金・会場・開催期間等）に関する意思決定について、発表・討議形式で授業を進めます。実務においては、合理的な意思決定とともに“勘と経験”が必要なことも伝えていきたいと思います。

最終的には、自分が好きなキャラクターの版権元の立場として、ファンの方が喜ぶキャラクターイベント（形態問わず）の企画書を作成し、発表会を開催いたします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントプロデューサーの基礎スキルの習得	講義に出席し、宿題を行えば身に付くことを前提に、出席率及び宿題の提出率をベースに採点し、基礎点とします。	35%
イベントプロデューサーとして、深く考える習慣の会得	ケーススタディにおける発表・討議に積極的に参加し、その発言回数・内容により加点します。	35%
キャラクターイベントプロデューサーの総合的なプロデュース力	最終発表会における発表・討議に積極的に参加し、その発言回数・内容により加点します。	30%
評価の方法　イベントやヒットビジネスに正解はないので、試験は行いません。 実務ではチームメンバーと協力し、より良いディスカッションを行うことがイベントの成否を決定するので、なるべく実態に沿った評価を行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	キャラクターの著作権	アニメキャラクターの著作権とは。 著作権保有の仕組み（原作・オリジナル）の理解
2	キャラクターの利用	商品化権・海外販売権・ビデオ化権・イベント権等の版権ビジネスの基本的な仕組の理解
3	キャラクターのイベント権の利用事例①	イベント権利用の方法（行使・許諾）と商慣習 キャラクターイベントの権利処理の留意点
4	キャラクターのイベント権の利用事例②	BtoB、BtoC イベントの事例 コンサート／舞台／スタンプラリー／等
5	イベント主催者（プロデューサー）の役割	イベントビジネスの事業特性 イベント企画書の作り方・主催者の決定
6	イベントプロデューサーの意思決定①	収支計画の作り方 基本的な費用項目の把握
7	イベントプロデューサーの意思決定②	ケーススタディ：キャラクターの周年イベント 入場料の決定
8	イベントプロデューサーの意思決定③	ケーススタディ：アニメキャラクターの原作展 開催期間と場所の決定
9	イベントプロデューサーの意思決定④	ケーススタディ：キャラクター展示会① 出展料の決定
10	イベントプロデューサーの意思決定⑤	ケーススタディ：キャラクター展示会① 集客方法の決定
11	イベントプロデューサーの意思決定⑥	ケーススタディ：キャラクターショー 収益方法の決定
12	イベントプロデューサーの意思決定⑦	ケーススタディ：アニメ番組の音楽イベント グッズの販売方法の決定
13	イベントプロデューサーの意思決定⑧	ケーススタディ：海外でのキャラクターイベント イベントのコンセプト決定
14	ワークショップ①	キャラクターイベントの企画プレゼン①
15	ワークショップ②	キャラクターイベントの企画プレゼン②

【使用教材】

◇必要に応じて用意します。

【履修条件等】

◇キャラクターイベントに興味がある方。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ	神渡（カミワタリ）　良平（リョウヘイ）
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

私たちは事業を取り巻く外的環境を俯瞰（ふかん）し、的確に判断して、状況を切り拓いていかなければなりません。開拓者は環境を開拓することができる主体性を持っていてこそ、開拓者たり得ます。

その意味で、自分の主体性を培う学問である「人間学」は、これから人生に立ち向かう者にとって不可欠の学問といえます。この授業では先人がつかみ取った人生の知恵を学び、自分の人生に活用できるようにしていくつもりです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
意見をまとめる	平常点により評価します。 授業に取り組む姿勢や、質問の内容で判断します。	20%
論点を整理する	毎週提出してもらうレポートで評価します。 書くことで自分の思考は深められていきます。 従ってレポートは重大視します。	60%
ディスカッション能力	小試験によって評価します。	20%
評価の方法　授業中の態度、質問内容、レポートなどから行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	人間とは何か①	人間の人生に関わってくる“大いなる存在”を私の実生活から検証します。
2	人間とは何か②	人生がうまくいっている人たちに共通したものを探る
3	安岡正篤の宇宙観、人間観	小手先の知恵では生きなかった安岡正篤だったからこそ、多くの人に感化を与えました。
4	心耳を澄ます	私たちに響いてくる宇宙の叡智に聴き入ったとき、人間は“天命に”目覚め、迷わなくなります。
5	中村天風が説く言葉の威力	松下幸之助氏や稲盛和夫氏を奮起させた天風哲学について語ります。
6	中村天風が説く人間観	人間は宇宙の入れ物だ。宇宙のエネルギーを活用する知恵を探ります。
7	佐藤一斎の『言志四録』にみる世界観	ある意味で明治維新を産み出したともいえる、幕末の最高の儒学者がつかんだ世界観について語ります。
8	西郷隆盛を育んだ逆境の人生	西郷隆盛がつかんだ“上位概念”とは何か、とくに沖永良部島に島流しされた時代をふり返ります。
9	森信三の世界	「人生二度なし」の哲理がなぜ学校教師たちを奮起させたかを探ります。
10	マザー・テレサが投げかけたもの	下坐に下りた奉仕の背後にあった「私をあなたの道具としてお使いください」という祈りを探ります。
11	名曲「アメイジング・グレイス」の背後にある思想	この名曲を作詞したニュートン司祭の軌跡をたどりながら、背後の思想を掘り下げます。
12	一燈園の創始者・西田天香が目覚めたもの	日本のフランチェスコと呼ばれる西田天香の思想の軌跡をたどります。日本を再生させるものがあります。
13	詩人坂村真民の世界	毎朝の最初の一閃を深呼吸し、宇宙のメッセージを詩にした坂村真民の哲学を探ります。
14	来るべき世界を開く「心耳を澄ます」という思想	行き詰った現代文明を救う「下坐に生きる」思想とは何かを考察します。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します。

【使用教材】

◇神渡良平著『安岡正篤人間学』同文舘出版、講談社文庫
◇神渡良平著『中村天風人間学』PHP 研究所
◇神渡良平著『宇宙の響き　中村天風の世界』致知出版社
◇神渡良平著『下坐に生きる』致知出版社

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題図書を熟読すること。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ プロジェクトマネジメント入門	ナンバ　トシキ 難波　俊樹
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントはもちろんのこと、社会に出て行われる「仕事」は「プロジェクト」と呼ばれる活動の連続です。この「プロジェクトを進める力」＝「プロジェクトマネジメント」は、エンターテインメント産業、流通業、製造業、不動産業など、すべての業種で重要です。この講義では、イベントの立案、実行力を身につけるだけでなく、社会人として必要な、さまざまな問題解決力、分析力、発想力を身につけることを狙いとしています。特に難しい概念的な事項については、コンサートや映画、ゲームなど身近な事例を通じて実践的知識を獲得できるように配慮しています。

また、時間中は講義だけでなく、実際にプロジェクトの実施を行うためのグループワークを実施します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な問題解決の枠組みの習得	・実践的に活用できるさまざまな問題解決力、分析力、発想力が身についたか。 ・〈記憶〉〈理解〉〈活用〉のレベルでの評価	30%
プロジェクトをマネジメントする能力の習得	・プロジェクトをマネジメントするためのさまざまな技法や考え方が身についたか。 ・〈記憶〉〈理解〉〈活用〉のレベルでの評価	50%
プランの発想・立案力の習得	・プランを発想し、それを他人に分かりやすく説明する能力は身についたか。 ・〈記憶〉〈理解〉〈活用〉のレベルでの評価	20%
評価の方法　講義中の参加状況20%、課題提出50%、最終確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明 　プロジェクト、とは何か 　社会の中のプロジェクト
2 ～ 4	問題解決思考	問題解決の技法 　質問力の向上 　アイデアの出し方～発想の技法 課題分析：分析・問題解決のフレームワーク 課題解決ワークショップ
5 ～ 9	プロジェクト基礎	プロジェクトマネジメントに必要な概念の学習 　目的と目標　アウトプットとアウトカム 　リーダーシップ、責任と権限 　ステークホルダー 　スコープ、スケジュールと進捗管理 　クリティカルパス 　リスクの分析と対策、利害調整
10 ～ 14	プロジェクト実践	さまざまなプロジェクトのケーススタディ 　コンサート、ゲーム開発、イベント、メディア制作などから実例をあげて行う。 コミュニケーション 　会議、SNS、議論の方法 　トラブル回避法 　インタビュー法 プラン立案の実務 ワークショップ：実際のイベント実施の立案、準備
15	総括・達成度の確認	・これまでの振り返りと気づきの確認 ・今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：オリジナルテキスト
　　その他の資料は随時配布する。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ 産業と企業戦略２	林（ハヤシ）　倬史（タカブミ）
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

大手企業役員経験者による業界と戦略の講義

大手企業の経営に実際に携わってきた方々による、「業界における競争環境の変化」、「企業組織」、「職務内容」、「必要な職務上の能力」、等々について具体的に解説し、学生諸君との質疑応答を通してビジネスマンとして要求される諸知識を習得していく。「現代の産業と企業戦略２」は、「総合商社・自動車・小売り・食品・飲料・精密・建設機械・ホテル・航空業界大手企業の業界構造とビジネスに言及して解説していく。

本授業は、講義全体を通して、学生諸君自らの将来展望と要求されてくる職務能力に関する認識を深めることを目的としている。したがって、この科目は「就職活動に入る前の２・３年生を中心に、業界と企業に関する必要な知識を提供し、就職活動をより有意義なものにすること」を目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造、競争環境を理解していること。	主な業界・産業の構成企業、競争状況、収益」状況などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造、競争環境が国際的な競争環境下において、何が求められているかを理解すること。	講義で概説する主な日本の業界・産業と主要構成企業が国際的におかれている競争上のポジションを、競争優位性の観点からどの程度理解しているかを評価する。	10%
講義で取り扱った産業の主要企業における、歴史・組織・戦略に関する基本的知識を習得すること。	それぞれの講義で扱われた企業の特質を、歴史・組織・戦略・技術開発力と国際的競争優位性等に関する基本的知識を習得しているかを評価する。	20%
それぞれの講義で説明した産業・企業の特質を競争環境・産業組織・主要企業の組織・戦略に関する専門知識を習得し、それら産業や企業で要求される職務能力を理解すること。	それぞれの講義で説明された業界・企業の特質を、内外における競争上のポジションの視点からどの程度理解しているか、そしてそれら業界・企業で必要となる職務上の能力はどのようなものかを試験（客観テストの予定）により評価する。	60%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、試験（客観テストを予定）60%、小テスト20%、出席と授業への参加の程度20%の配分予定。
試験は客観テスト、小テストは論述により基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	各講義の概要説明	それぞれの講義内容の概説および各担当者の紹介
2	総合商社	総合商社の事業概要と主要企業の特質
3	自動車産業	自動車産業の課題と、主要企業の戦略
4	小売り産業	小売り産業の特質と国際的競争環境
5	イオン社	イオン社の戦略と競争優位性
6	建設機械産業	建設機械産業の事業構造と国際的ポジション
7	コマツ社	コマツ社の事業概要と国際的競争優位性の源泉
8	食品産業	食品産業の事業内容と構成企業の多様性
9	企業とマーケティング戦略	食品事業で特に必要なマーケティング戦略
10	精密機械産業	精密機械産業の事業概要・構成企業・競争環境
11	キャノン社	キャノン社の事業概要と戦略
12	飲料産業	飲料産業の構成企業群と事業の特殊性
13	コカ・コーラ社	コカ・コーラ社の世界戦略と日本コカ・コーラ社
14	航空会社・企業	業界構造と世界的競争環境下における航空会社
15	ホテル産業・企業	観光業界とホテル産業の事業内容

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：配布資料。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に各講義で説明する業界・企業を紹介するので、授業中の質疑に対応できる知識を事前に学習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業はそれぞれの業界の役員経験者による授業となるため、本学学生の業界における評価に直結することになる。したがって、授業態度には十分気を付け、積極的に討議に参加することは求められる。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ 将棋	ホリグチ　コウジ 堀口　弘治
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

将棋のゲームとしての面白さ・奥深さはもちろん、伝統文化としての位置付けとして、世界における日本、日本文化自体を興味深く紹介していきます。

また将棋は次の一手を誰にも頼らず盤面の情報処理をして、自分なりに結論を出していくプロセスの連続です。対局の実技のみならず、授業全般にわたっても「自分の頭で考える」をテーマに展開していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
実技（主に対局）に集中することによりじっくり考える楽しみを知る	受講者同士の対戦を基に評価 受講当初より、どれくらい将棋に対する理解度が高まったか。	30%
課題やレポートに取り組み、自分が納得するまで考える力を養う	将棋関連のテーマに対する受講者のレポートの内容や詰将棋・将棋パズル等の課題への理解がどれだけ行われたか。	20%
各カリキュラムの理解度を問う	最終のテストで確認する	20%
評価の方法　出席100%を前提として授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	駒遊び	五角形の駒で様々な遊び方が創造できることを知る
2	ゴロゴロ将棋	５×６の小さな将棋盤で将棋の基本ルールを説明する
3	将棋とは?	将棋界の基礎知識を習得する
4	駒・盤作り DVD 鑑賞	職人技を鑑賞し、実際に駒に触れ、伝統文化の理解を深める
5	将棋の歴史(1)日本	平安～江戸時代にかけての将棋の歴史を知る
6	将棋の歴史(2)世界	世界のキングハンティングゲームの歴史を知る
7	青空将棋	歩のない激しい将棋でルール習得を促進する
8	スミワケ将棋	彼我の駒の利きを即時認識する能力を養成する
9	寄せ将棋	ゲームの最終目的である、王様を追い詰める技を習得する
10	プロ棋士の礼儀作法	プロ棋士の礼儀作法を学び、正しい駒の扱い方を習得する
11	プロ棋士の考え方	羽生善治の DVD を鑑賞し、プロ棋士の勝負哲学を知る
12	棋譜を取る	将棋を指しながら、自分で棋譜を書く
13	将棋トーナメント	真剣勝負の雰囲気を味わい、集中力を高める
14	対局の大盤解説	生徒の代表同士の対局を講師が大盤解説する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇将棋の教科書ならびに各種プリント。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、敢えて言えば、初心者程本講座に適しています。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇受講期間中、対面やネット、対局ソフトで対戦をしたり、情報を取得したりするように心がけるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーV	井原（イハラ）　久光（ヒサミツ）
Professional Seminar V	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングの基礎的な概念や知識についてケース（事例）を通じて学ぶ科目です。前半は、さまざまなマーケティングのケースをとりあげ、具体的な事例を通じて、実践的に学んでいきたいと思っています。たとえば、任天堂、T型フォード、ディズニーランド、キットカット、コカ・コーラ、ルイヴィトン、少年ジャンプなどの事例をあげて、マーケティングの基本的な概念や知識について一緒に考えてみたいと思っています。この科目ではリアクションペーパーやチームスタディを通じて、自分や、自分たちなりの結論を出していくプロセスも大切にしています。授業の中で問いかけをしますので、積極的に取り組み、一緒になって学んでもらいたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基礎的な概念や知識を学ぶ	マーケティングの基礎的な概念や知識を獲得できたかどうかを定期試験で評価します。記号式の問題で、用語欄から最も適切な用語を選択してもらいます。	25%
ケース（事例）を通じて実践的に学ぶ	マーケティングの基礎的な概念や知識を獲得できたかどうかを定期試験で評価します。記述式の問題で、事例を通じて学んだことを、記述してもらいます。	25%
授業を聞いて自分なりの考えをまとめる能力を高めていく	授業ごとに、その日の授業内容の要点を自分なりに整理して、疑問点や意見をリアクションペーパーとして提出してもらいます。ノートを積極的にとることがポイントです。	30%
討議を通じて自分たちなりの考えをまとめる能力を高めていく	話し合いを通じて自分たちなりの結論を出す能力を見ます。とことん話あし合って考え抜くことがポイントです。	20%
評価の方法　期末定期試験は必ず受けてもらうことを前提として、定期試験の成績を50%、授業中に行うリアクションペーパーの内容を30%、チームスタディへの貢献度を20%の割合で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	本科目の目的、スケジュール、評価方法等を紹介します
2	現代社会とマーケティング	現代社会をソフトとハードの面から切り取り、任天堂などゲーム市場に関するケースを紹介します
3	市場とは何か	マーケティングの市場概念を経済学と比較して、花王アタックなど、洗剤市場におけるケースから学びます
4	生産志向のコンセプト	T型フォードの事例から生産志向のマーケティング・コンセプトについて学びます
5	販売志向のコンセプト	ボン・マルシェの事例から販売志向のマーケティング・コンセプトについて学びます
6	顧客志向のコンセプト	アサヒ・スーパードライの事例から顧客志向のマーケティング・コンセプトについて学びます
7	社会志向のコンセプト	ペットボトルの事例から社会志向のマーケティング・コンセプトについて学びます
8	サービス業のマーケティング	ディズニーランドの事例からサービス業のマーケティングについて学びます
9	小売業のマーケティング	セブンイレブンの事例から小売業のマーケティングについて学びます
10	広告のマーケティング	コカ・コーラの事例から広告のマーケティングについて学びます
11	ブランドと認知	キットカットの事例からブランドとマーケティングについて学びます
12	ラグジュアリーブランド	ルイヴィトンの事例からブランドとマーケティングについて学びます
13	プロダクトアウトとマーケットイン	少年ジャンプの事例からプロダクトアウトとマーケットインについて学びます
14	社会現象とマーケティング	クリスマスが「恋人の日」になった事例から社会現象とマーケティングについて学びます
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】
◇井原久光（著）『ケースで学ぶマーケティング（第２版)』ミネルヴァ書房
◇井原久光（著）『改訂増補版　社会人のための社会学入門』産業能率大学出版部
◇その他、必要な資料やデータについて適宜紹介します。

【履修条件等】
◇日頃からマーケティングに関心や疑問をもっていること。

【予習をすべき事前学習の内容】
◇テキストをあらかじめ読んでおくこと。

【その他の注意事項】
◇テキストは定期試験でも使用しますので、あらかじめ読んでおいてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーV	緒方（オガタ）　義人（ヨシト）
Professional Seminar V	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：戦略営業論

企業活動にとって最も重要で本質的な「営業」。

本講座を通じ営業の仕事とはどういったものなのか、その実態と、どのようなスキルが求められているかを理解し、演習を通じ営業に必要な基本的スキルを身につけていきます。授業では実際に営業現場で日々向き合うことになる「問題解決」に取り組みます。そのプロセスを演習を通じて学ぶと同時に、毎回行われるグループワークを通じ、自分の意見をわかりやすく伝えながらメンバーを巻き込み、協働するプロセスも学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識を習得する	営業に関する基本的な概念や用語、企業研究を行うためのフレームを理解しているか。	20%
他者と協力しながら、主体的に取り組む	グループで決めた役割を意識しながら、目標達成に向け主体的に課題に取り組んでいるか。	40%
問題解決のプロセスを理解し、実践する	問題解決のプロセスを理解し、その知識を活用してロールプレイや演習を通じ実践しているか。	40%

評価の方法　この授業は演習が主となるので、知識の習得のみならずセミナーへの積極的な参加を求めます。そして他の受講生と協力しグループで課題に取り組む姿勢を重視します。

評価の配分はテスト20%、授業中の取り組み姿勢40%、アウトプット物（ワークシート、企画書、アンケート）40%です。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	概要（授業内容、評価方法）説明、アンケート
2	営業の仕事を知る①	映像や記事を元に、営業を理解する
3	営業の仕事を知る②	
4	営業視点で企業を研究する①	営業視点で企業研究を行い、調べた内容をポスターにまとめ、発表する
5	営業視点で企業を研究する②	
6	営業の仕事を体感する①	ロールプレイを通じ「モノを売る」プロセスを体感する
7	営業の仕事を体感する②	
8	営業の仕事を体験する①	企業研究を行うためのフレームを学び、企業の現状と課題を整理し、解決策を考え、プレゼンテーションする
9	営業の仕事を体験する②	
10	営業の仕事を体験する③	
11	営業の仕事を体験する④	
12	営業の仕事を体験する⑤	
13	振り返り	授業の振り返りとアンケート
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

◇講義資料は、授業で毎回配布します。

【履修条件等】

◇営業に「あまり良いイメージを持っていない」または「興味・関心はあるが、実態はよくわからない」が、授業を通じ「営業」について学びたいと感じていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の際、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーVI エンターテインメントイベント	北原（キタハラ）　隆（ユタカ）
Professional Seminar VI	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

主にステージ（舞台）を使ったイベントの基礎知識＋その応用を学びます。
同じ空間を使用するイベントでも、ライブと演劇ではその手法も意味も違ってきます。
使う道具も、場合によっては専門用語も違います。

その歴史や成り立ち、会場の仕組み、演出技術やその意味、仕事の構成を基本から知ることで、好みで偏らない的確で安全な企画提案が出来るスキルを身につけます。

またなるべく多くのケーススタディに触れることでその範囲の広がり＆その違いを知り、未知なるものにそれを応用する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
エンタメイベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 技術や手法・道具を基礎から知り、理解し説明することが出来る。	15%
さまざまなエンタメイベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 さまざまなエンタメイベントのケーススタディにふれ、その特徴を理解し、説明できる。	15%
エンタメイベントの構成要素を知り理解する	設問に対する回答によって評価。 イベント内容に合わせた会場選びができ、必要な機材及びスタッフを理解し構成すいることができる。	40%
自らのエンタメイベントを組み立てる力を身につける	課題とレポートよって評価。 オリジナル企画のイベントをデザインし表現して相手に提案し、実現することができる。	30%
評価の方法　日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	さまざまな会場、さまざまなスタイル
2	エンターテインメントの基礎	企画から撤収まで　予算配分
3	舞台とステージ	舞台空間とライブ空間の違い
4	色と光について	なぜそう見えるのか　色の出し方　照明効果
5	ライブとデッド	音について　音響効果
6	演出効果	映像　電飾　特効
7	舞台機構	舞台の構成　奈落　すのこ　せり
8	電気ついて	電気の種類　容量
9	セット美術	大道具　小道具　映像装置
10	リハーサル	スタジオリハ・テクリハ・ブロックリハ・ゲネプロ
11	搬入計画と搬入口問題	どの順番で、どう入れるか
12	着ぐるみ	着ぐるみの特質と使用上の注意
13	ファンクラブ運営	その重要性　会報　特典
14	グッズ制作について	世界観の共有　会場販売　ネット販売
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する

◇巻尺および三角スケール

【履修条件等】

◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること

◇１年以内にライブ＆演劇を最低１本づつは見ていること

◇「イベントキャリア」を受講済みであることが望ましい

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと

◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーVI “好き”を見つける教室”	針谷（ハリヤ） 和昌（カズヨシ）
Professional Seminar VI	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

イベント企画を通じて／自分自身を知りイベントプロデュースを学ぶ

人生で起こる出来事、それ自体ほとんどすべてがイベントである。イベントには、自分がワクワクしたり、興奮したり、愛おしいと思ったりするものが隠れている。それらの感情を浮き彫りにすることで、本当に好きなこと、本当にやりたいことが見えてくる。この授業では、イベントを企画する過程において、なぜそれがいいのか、なぜこれはしっくりこないのか、対話と議論の中で自分自身を深掘りしていきながら、自分の奥深いところを発見する。そして、実際に、イベントを企画し、イベントプロデュースの実践を体験的に学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自分が好きなことが「言語化」できるか？	講義内容であるポジティブ心理学、幸福学、コーチングについて理解し、自分の方向性を言語化できるかについて、レポートおよび授業中の発言で評価する。	15%
イベント実施の意義（自分がやりたいこと）を理解し、企画立案できるか？	講義内容であるインタビュー、フロー研究、キャプテンシップについて理解し、企画立案を文書化できるかについて、レポートで評価する。	15%
イベント企画に関する手順、方法論を理解し、応用できるか？	講義の中で実施するイベントプロデュースに関するアクティブラーニング、演習に参加し上で、グループワークおよびグループ発表内容で評価する。	15%
イベント企画案を立案し、適切な運用について文書化できるか？	自分自身が企画したイベントプロデュース企画案に関する最終レポートの提出が必要であり、そのレポート内容、および授業における積極的な参加姿勢を加味して総合的に評価する。	55%

評価の方法　授業中に実施する演習への参加、発言などに対する評価が40%、授業中および最終的に提出するレポートの評価が60%とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	・授業の全体像と自己紹介　・グループ討議（各自長所等）
2	セッション	
3	1)好きなことを探す	（・好きなこと概論　・対話と議論　・web 心理テスト）
4	2)アクティブラーニング	（・ゲームの紹介　・ゲームの実施　・タイプ診断）
5	3)コーチング	（・コーチング概論　・コーチング実践）
6	4)インタビュー	（・インタビュー概論　・インタビュー実践）
7	5)フロー	（・フロー概要　・フローエクササイズ実践）
8	6)キャプテンシップ	（・キャプテンシップ概論　・キャプテンシップ実践）
9	7)イベントの基礎知識	（・イベント全体概論　・イベント企画概論）
10	8)イベントのつくり方	（・イベント企画実践　・イベント）
11	9)レポートに向けた準備	（・対話と議論　・質疑）
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ドラマチックロールプレーイングゲーム。

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇適宜予習課題を指示します適宜予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

◇事業開発として企画中のものを使用するため、そのような資料については、内容を外部に口外しないこと（機密保持）を守ってください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職	野沢（ノザワ）　牧子（マキコ）
Professional Seminar VII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、就職に当たっては早い段階での主体的行動が求められようになってきました。本講義では、自立を目的として「話す・聴く・書く」というコミュニケーション力と対人関係構築力を、グループワークやプレゼンテーションを通じ体感的に学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	60%
社会人基礎力に基づいて、自己理解・自己分析を深め進路選択の方向性を決める	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項
2 3 4	社会人基礎力に基づくグループワーク	グループワーク
5 6	グループワークのまとめ	社会人基礎力から強みを考える 自己ＰＲの作成
7 8	仕事を理解する	産業構造理解 業界理解
9 10 11 12	課題解決型 グループワークおよび プレゼンテーション	テーマに基づきチームでプレゼンテーションを企画し発表する
13	履歴書の作成	履歴書、自己ＰＲ、志望動機作成
14	活動計画策定・発表	夏のインターンシップ、秋学期の活動計画策定

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職	宮地（ミヤジ）　由夏（ユカ）
Professional Seminar VII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、就職に当たっては早い段階での主体的行動が求められようになってきました。本講義では、自立を目的として「話す・聴く・書く」というコミュニケーション力と対人関係構築力を、グループワークやプレゼンテーションを通じ体感的に学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	60%
社会人基礎力に基づいて、自己理解・自己分析を深め進路選択の方向性を決める	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項
2 3 4	社会人基礎力に基づくグループワーク	グループワーク
5 6	グループワークのまとめ	社会人基礎力から強みを考える 自己ＰＲの作成
7 8	仕事を理解する	産業構造理解 業界理解
9 10 11 12	課題解決型 グループワークおよび プレゼンテーション	テーマに基づきチームでプレゼンテーションを企画し発表する
13	履歴書の作成	履歴書、自己ＰＲ、志望動機作成
14	活動計画策定・発表	夏のインターンシップ、秋学期の活動計画策定

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職（留学生対象）	イトカワ　ユウ 糸川　　優
Professional Seminar VII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

卒業後に、日本で働くことを希望する留学生が対象。

働くことの意味、どのような働き方が望ましいかを考え、自分に合った企業探し、就職活動のしくみを扱う。

エントリーシートや面接のための準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動のしくみと流れを理解する。それに沿っていま何をしなければならないかを考え、活動計画を立てる。課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	日本の業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のためにすべきことを理解し、準備をする。課題などをもとに評価する。	30%
評価の方法　授業参加度20%、協働作業への貢献度10%、課題45%、口頭表現25%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	
2	社会人基礎力	チームビルディング
3	仕事に求めるもの・こと	仕事観、外国人社員に期待されること
4	成長する企業	自分の成長、企業の成長
5	企業研究１	
6	企業研究２	
7	企業の社会的責任	コンプライアンス
8	就活の流れ	時期と内容、準備
9	自己分析、業種職種	適性検査、情報収拾の方法
10	自己ＰＲ	求められる資質、エピソード
11	特性とエピソード	アウトライン
12	ＦＢ	
13	ＦＢ	
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇日本で就職を希望する留学生で、３年生が対象（それ以外は受け入れない）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布したものがある場合には、予習をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇積極的な参加を求める。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職（留学生対象）	コバヤシ　ヒロノリ 小林　寛典
Professional Seminar VII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

企業の外国籍学生採用比率は年々高まってきていますが、採用の過程は一般の日本人学生と同じという企業が多いです。このような状況の中で日本での就職を目指す留学生は、今何を準備するべきか考え、計画的に行動していく必要があります。

この授業では、就職活動の現状を紹介すると同時に、学生自身のコミュニケーション能力、対人関係構築力を高めることを目的とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、提出物等により評価。	60%
自己理解、自己分析を深め、進路選択の方向性を決める	講義中の質疑応答、グループワーク時の対応、提出物等により評価。	40%
評価の方法　授業参加度（出席率、取り組み姿勢、態度）70%、提出物30% 学期の３分の１を超えて欠席した場合、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項
2	自分の強みを見つける①	発信力、傾聴力
3	自分の強みを見つける②	規律性、柔軟性
4	自分の強みを見つける③	課題発見力、計画性
5	自分の強みを見つける④	主体性、実行力
6	自己理解①	自己ＰＲの作成
7	自己理解②	自己ＰＲの作成
8	仕事理解①	産業構造理解
9	仕事理解②	業界理解
10	チーム活動体験①	調査、プレゼンテーション企画
11	チーム活動体験②	調査、プレゼンテーション企画
12	チーム活動体験③	調査、プレゼンテーション企画
13	チーム活動体験④	発表
14	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇とくになし。必要に応じて資料を配布します。

【履修条件等】

◇３年生で日本の民間企業への就職を考えている留学生は、必ず履修してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に情報収集を要請することがあります。

◇課題を提示する場合があります。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して変更することがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅧ	宇田川（ウダガワ）　素子（モトコ）
Professional Seminar VIII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：キャリアインタビュー

この授業では、社会人がどのような意識で仕事に取り組んでいるかを映像、記事、インタビューを通して理解し、その姿を参考にしながら自己理解を深め、今後のキャリアについて考えます。また、社会人へのキャリアインタビューを実践することで、マナーの理解、コミュニケーションに必要な傾聴力の向上を目指します。授業では毎回グループワークを行いますので、自分の意見をわかりやすく伝えながらメンバーを巻き込み、協働するプロセスも学べます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
他者と協力しながら、主体的に取り組む	グループで決めた役割を意識しながら、主体的に課題に取り組んでいるか。	30%
自己理解を深め、将来の見通しを持つ	自分に向き合い、自分を理解し、将来の見通しを考えているか。	30%
傾聴を心掛けキャリアインタビューを実践する	傾聴を心掛け、キャリアインタビューを実践しているか	40%

評価の方法

課題、ワークシート、試験、授業への参加姿勢を総合的に評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	概要（授業内容、評価方法）説明、アンケート
2	キャリアの理解①	映像・記事を通して社会人のキャリアを考え、理解する
3	キャリアの理解②	
4	キャリアの理解③	
5	インタビュー体験①	インタビューの体験を通して傾聴手法を理解する
6	インタビュー体験②	
7	キャリアインタビュー準備①	質問項目を検討し、計画を立てる
8	自己理解①	ワークを通して自分の価値観を知る
9	共有と振り返り①	各自が実践してきたキャリアインタビュー内容を共有し、振り返る
10	キャリアインタビュー準備②	対象者の勤務先・仕事内容など必要な情報を調べる、インタビューの練習をする
11	キャリアインタビュー実践	ＯＢＯＧにキャリアインタビューを実践する
12	共有と振り返り②	前回のキャリアインタビュー内容を共有し、振り返る
13	自己理解②	ワークを通して仕事のやりがいについて考える
14	キャリアプランニング	目標を設定し、達成に向けた計画を考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

◇講義資料は授業で毎回配布。

【履修条件等】

◇自己理解を深め、今後のキャリアを考えたいと思っていること。

◇就職活動を控えた学生におすすめしたい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の際、予習範囲を指示。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

プロフェッショナル・セミナーⅧ 株式会社レイ寄付講座　イベント映像	シヅカ　マサノリ 志塚　昌紀
Professional Seminar VIII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントにおいて、イメージや演出効果を高めるために映像の活用が大変有効な手段であると言っても過言では無い。近年では、プロジェクションマッピングやデジタルアートイベントなど、映像を主に置いたイベントも増えつつある。印象的な映像はイベント来場客の興味や関心を集め、新規来場客の獲得につながるだけではなく、イベントそのものの価値を高める効果もある。

本講義では、イベント映像分野の最大手、株式会社レイの協力の下、イベントにおける映像の重要性を理解するとともに、ワークショップを通じて実際に映像コンテンツや映像づくりなども行っていく。そのため、積極的なグループワークへの参加態度が求められる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントにおける映像の役割や可能性を深める	レスポンスシートや期末レポートなどにおいて理解度を評価する。	30%
映像機材や映像によるプロモーション効果を理解する	レスポンスシートや期末レポートなどにおいて理解度を評価する。	30%
映像の企画や制作のノウハウを把握する	グループワークへの参加態度や、プレゼンテーション、成果物の内容によって評価する。	40%

評価の方法　授業毎で実施するレスポンスシート20%、課題プレゼンテーション30%、期末レポート20%。その他、講義やグループワークへの積極的な参加態度30%。

※グループでのワークが中心となるため、遅刻・欠席については厳しく評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション＆イントロダクション	イベントにおける映像の役割と現状・会社紹介
2	イベント映像の内訳	映像機材・上映素材・オペレーションの内容 イベントにおける映像領域の内訳
3	イベント機材の詳細① コンサート・展示会・発表会等	大型イベントや展示会、発表会等での映像機材の詳細 ＬＥＤ・プロジェクター・その他大型モニター等
4	イベント機材の詳細② プロモーション現場等での映像機材	街頭プロモーションやデジタルサイネージ記事の詳細 インタラクション映像、デジタルサイネージモニター等
5	ワークショップ①	開催イベントを選び、映像機材の面白い使い方を考えるコンサート、発表会、展示会、屋外・街頭プロモーション等
6	上映素材の種類	それぞれのシーンでの映像コンテンツの種類 コンサート・屋外プロジェクションマッピングから街頭イベントまで
7	上映素材の作り方①	映像の作り方詳細 構成・絵コンテ・撮影・ＣＧ制作・レンダリング・編集・ＭＡ等／ＰＰＴ等
8	上映素材の作り方②	ムービーの作り方詳細（特別編） ＣＭ制作について
9	ワークショップ②	自分の設定したイベントで映像コンテンツを考える 自由に絵コンテを書いてみよう！
10	デジタルサイネージとは	デジタルサイネージの現状 アート作品から商品プロモーションまで
11	デジタルサイネージの詳細①	インタラクション映像とは インタラクション映像の様々な仕組み①
12	デジタルサイネージの詳細②	インタラクション映像とは インタラクション映像の様々な仕組み①
13	ワークショップ③	自由にインタラクション映像を考えてみる 自由な発想でアートからプロモーションまで面白い仕掛けの立案
14	ワークショップ作品の発表	３回のワークショップ作品からユニークなものを発表してもらう自由な意見交換と講評
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括及び学習達成度の確認

【使用教材】
◇適宜配付する。

【履修条件等】
◇授業内でおこなわれるグループワーク等に積極的に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】
◇とくに予習すべき教材はないが、イベントにおける映像について注意を払い、それらの現状や将来に対して想像力を働かせること。

【その他の注意事項】
◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

中小企業論Ⅰ	檜山（ヒヤマ） 昭信（アキノブ）
Theory of Small Business I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

普段の生活のなかで何気なく利用している飲食店、美容院などの多くが中小企業である。本講座では、我が国経済において多様な役割を果たす中小企業について、産業や社会における位置づけや役割をさまざまな切り口から学ぶとともに、その特性等を理解した上で、そこから立案・実行されている中小企業政策の考え方や効果等について理解を深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
わが国における中小企業の社会・経済的な役割や課題を理解していること	設問に対する解答によって評価する。評価基準は以下のとおり（以下同じ）。 ・中小企業が産業や地域社会において果たす役割や位置づけについての基礎的知識・意見 ・中小企業の人材育成や資金調達に関する知識・意見	40%
中小企業の特性や課題を理解していること	・中小企業の存立条件等についての知識・意見 ・中小企業の存立を可能とする形態等についての知識・意見	40%
中小企業政策の考え方や政策の特徴・課題を理解していること	・日本の中小企業政策の理念、政策体系の概要についての知識・意見 ・政策の立案、推進過程および政策効果の達成状況についての知識・意見	20%
評価の方法　試験（定期試験）100%（規定された出席率を満たすことが前提）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	・科目の目的・ねらい、授業の進め方、成績評価についての説明
2 3	中小企業の歴史的変遷と 中小企業政策	・日本における中小企業の歴史的変遷 ・中小企業政策の意義・役割と体系
4 5	中小企業の存立条件と役割	・産業構造・組織に見る中小企業の存立条件 ・存立条件のまとめ
6 ～ 7	中小企業の存立形態	・存立形態の定義と区分・種類 ・下請制の定義・動向 ・中小企業の様々な形態の動向と課題
8	中小企業の人材育成	・経営資源としてのヒトの重要性 ・最近の動向
9	中小企業の資金調達	・政策金融の累型と対応機関 ・最近の動向
10	地域産業集積	・産業集積の動向と課題
11	地域商業集積	・商業集積の動向と課題
12	中小企業のグローバル化	・中小企業のグローバル化の動向と課題
13	まとめ	・全体のまとめ
14	総括・達成度の確認	・学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇参考書：青山和正著『精解中小企業論』同友館

中小企業白書、その他

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業において、事前に指示した資料等の内容を調べておくことが望ましい。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

中小企業論Ⅰ	ヤマオカ　ジュンイチロウ 山岡　淳一郎
Theory of Small Business I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆してきた企業と経営者、社員の方々とのやりとりを基に、社会の変化、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論を展開し、現象の奥の構造を見抜く力を養います。その時々の社会的問題も取り上げ、日本語での読み書き、コミュニケーションの力を磨きます。

国の中小企業白書によれば、全国382万社のうち中小企業が99.7%を占めます。身近な企業の活動を手がかりに思考を深めましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法　評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	講義の狙い、テーマなどの概要説明
2	稲盛和夫の経営力	アジアで圧倒的な支持を集める経営者、稲盛和夫の手法
3	百年企業・木下サーカスの底力	浮沈の激しいエンターティンメント界で生き残ったサーカス団。「一場所、二根、三ネタ」のビジネスモデルとは？
4	製造派遣業・ＵＴグループの急成長	チームワークと育成で「イキイキ」をつくる。ゼロから会社を創設し、5000億円企業に育てた社長の軌跡
5	外食産業・物語コーポレーションの家族主義	焼肉やラーメンのチェーン店が「個」を大切にする「大家族主義」で発展。「就活30戦全敗」から起業した社長の突破力
6	航空機を支える町工場	航空機産業の未来と長野県の多摩川精機などの取組み
7	ドローンがつくる未来	新たな産業を開拓するドローン、一方で軍事転用の危うさ
8	脱炭素革命と電力事業	世界の自然エネルギーの動向と日本の現状
9	鈴廣かまぼこエネルギー革命	「老舗にあって、老舗であらず」をモットーに社屋のゼロエネルギー化、太陽光発電などに取り組む経営者
10	中小企業の落とし穴	金融機関の不正融資
11	元受刑者の就労支援	北洋建設・小澤輝真社長の「再チャレンジ」支援
12	医療と製薬会社	高額の医薬品が出回ると、医療財政はどうなるのか
13	出版企画コンペ	こんな本をつくりたい
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：授業ごとにレジュメ、ワークシートなど準備し、教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入なども実施します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

中小企業論Ⅰ	ヤマカワ　サトル 山川　悟
Theory of Small Business I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、「東京中小企業家同友会」に加盟している会社の役員（主に経営者）を毎回講師に招き、経営内容やご自身の経験談を中心にした講演を通じて中小企業経営の実際を学びます。また、講演後の議論により、対象企業の経営課題を経営者と同じ目線で考えるきっかけを提供します。本学からの新卒採用を考慮に入れている企業もありますので、就職活動前の企業研究としても格好の場です。

昨年度は、11社の経営者より講演を頂戴しました。進路をまだ決め切れていない、企業研究がまだできていないという学生は積極的に履修登録し、自らの指針づくりに役立ててください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業の経営戦略・人材育成についての理解を深める	・今日的な状況の中で、中小企業特有の経営課題、経営戦略の在り方を理解している。 ・来校した企業の経営者の話を聞き、それぞれの経営のユニークさや、そこで求められる人材はどのようなタイプなのかを理解できている。 ・主として定期試験、中間試験による評価。	60%
中小企業経営者との対話を通じて、自らのキャリア意識を高める	・講義中のミニレポートに自分自身の言葉で、感銘を受けたこと、印象に残ったことが明記されている。 ・傾聴姿勢があるとともに、話を聞きながらきちんとメモがとれている。 ・講義後に適切な質問、対話ができている。 ・講義内レポートと講義への参加姿勢で評価。	40%
評価の方法　約70%以上の出席を前提に評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法等の説明
2	中小企業を学ぶ	中小企業の定義と意義および経営課題について
3	デザイン業	(株)デザインコンビビア
4	非破壊検査業	電子磁気工業(株)
5	防犯システム業	(株)セーフティ&ベル
6	和菓子業	(有)共楽堂
7	番組制作業	(株)白川プロ
8	水道工事業	(株)木村工業
9	旅行業	(株)富士国際旅行社
10	アパレル卸業	(株)ディレクターズアイエスビー
11	システム開発業	(株)シーキューブソフト
12	人材派遣業	(株)ウィル
13	システム開発業	(株)ヅノー
14	まとめと総括	これまでのまとめとレポート課題の提示

【使用教材】

◇企業概要や講演レジュメなど、各回資料を配布します。

◇講演者が使用したパワーポイントのスライドは配布しないことがありますので、講義用ノートを必ず作成し、講演者の発言のキーワードをメモしてください。

【履修条件等】

◇社会人としての基本的マナー（遅刻しない、途中退席しないなど）を守り、授業を受けられる人。

◇企業の話を直接聞くことで、進路決定に役立てたいと考える人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇当日の企業・業界に関して事前研究をしておくことを勧めます。

◇質問事項を準備しておいてください。

【その他の注意事項】

◇黙って聞くだけではなく、積極的に質問を行うことがマナーです。企業経営者と直接対話する絶好のチャンスだと思って参加してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

中小企業論Ⅱ	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
Theory of Small Business II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

中小企業は大企業に比べヒト・モノ・カネの経営資源が乏しく、大企業（強者）とは異なる戦略や知恵と工夫により、新たな市場開拓を見出し、経済社会に貢献している。本講座では、大企業経営とは異なる中小企業の経営的な側面を経営戦略から財務までの基礎から応用まで学ぶ。講義を聴くだけではなく、事前に配布した演習を、自分ならどう解決していくかを考えることで中小企業経営をより深く解明する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業経営に関する基礎的な知識と考え方を理解していること	小テストを行い、企業経営に関する基礎的な用語や知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業経営に関するテーマごとの基礎的な知識と課題を理解していること	中小企業経営に関する基礎的な知識を習得しているかを評価する。中小企業経営の戦略ツールや思考体系の理解がされているかを小演習により評価する。	15%
中小企業経営に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業経営に関して、テーマごとにその内容と課題を把握しているかどうかを演習により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業経営に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業経営をテーマごとに、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス 中小企業経営とは	本講座の目的と授業の進め方、評価基準等を説明。 中小企業経営の特性と独自性
2	中小企業経営者の条件	中小企業は経営者の条件とは何か
3	中小企業の経営戦略(Ⅰ)	中小企業の経営戦略の基本
4	中小企業の経営戦略(Ⅱ)	中小企業の差別化戦略の進め方
5	中小企業の経営戦略(Ⅲ)	中小企業の NO1戦略とは何か
6	中小企業のマーケティング(Ⅰ)	中小企業のマーケティングの進め方
7	中小企業のマーケティング(Ⅱ)	中小企業のブランドづくりの基本
8	中小企業の組織づくり(Ⅰ)	組織づくりの基本と中小企業の組織形態
9	中小企業の組織・人材(Ⅱ)	中小企業に最適な組織づくり
10	中小企業の財務(Ⅰ)	中小企業の財務データの基本
11	中小企業の財務(Ⅱ)	中小企業の財務データの活用
12	中小企業の財務(Ⅲ)	中小企業の資金調達と中小企業金融制度
13	ファミリービジネス(Ⅰ)	フォミリービジネスの概要
14	ファミリービジネス(Ⅱ)	後継者育成と事業承継
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括・学習達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：山田英二（著)『競争しない競争戦略』日経出版

【履修条件等】

◇モノづくり、小売業、サービス業などの経営に関心をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習（10問）の配布予定。その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

中小企業論Ⅱ	ヤマオカ　ジュンイチロウ 山岡　淳一郎
Theory of Small Business II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆してきた企業と経営者、社員の方々とのやりとりを基に、社会の変化、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論を展開し、現象の奥の構造を見抜く力を養います。その時々の社会的問題も取り上げ、日本語での読み書き、コミュニケーションの力を磨きます。

国の中小企業白書によれば、全国382万社のうち中小企業が99.7%を占めます。身近な企業の活動を手がかりに思考を深めましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法　評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価しま 評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	講義の狙い、テーマなどの概要説明
2	稲盛和夫の事業観	小さな組織が自立する「アメーバ経営」など
3	「2025年問題」と医療・介護業界	超高齢化が進む日本。期待される医療・介護業界だが、一般企業とは成り立ちが違う。国民皆保険と事業のしくみを解説
4	清山会グループの成長	地域密着で医療と介護の垣根をとりはらった事業展開
5	健康機器の「タニタ」	「はかる」を通して世界の人びとの健康をつくる事例
6	渇望される医療通訳	ランゲージワン（株）などの「多言語コールセンター」事業
7	発展する「宅急便」	ヤマト運輸の宅急便を生み、物流の大変革を成しとげた小倉昌男の経営観
8	土建業者から首相へ	田中角栄の生き方と社会の変化
9	震災で中小造船が団結	東日本大震災の痛手を乗りこえた気仙沼市の「みらい造船」
10	自営業から県知事へ	玉城デニー沖縄県知事は多くの職を経験し、今、県政を担う
11	「生命だけは平等だ」	ゼロから巨大病院グループを築いた徳田虎雄の生き方
12	災害に負けない農業	仙台市の農業法人「舞台ファーム」の農業改革
13	良い建物を長く使う	「再生建築」のリーダー、青木茂建築工房の挑戦
14	ＮＰＯの若き起業家	会社でなくとも、価値ある事業はできる。人道支援のＮＰＯを起こした若者たちの動機と行動
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：授業ごとにレジュメ、ワークシートなど準備し、教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入なども実施します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

中小企業論Ⅱ	ヤマカワ　サトル 山川　悟
Theory of Small Business II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

中小企業における大きな課題のひとつである「ブランド」の問題を考察します。ブランドとはネーミング・ロゴマーク等の表示体系に限らず、企業理念やビジョン、社内コミュニケーションとも深く関わるため、経営者自らが主導して構築すべきものです。

前半はブランド戦略のフレームワークと諸要素（ブランドマネジメント）について、後半は具体的な事例からブランド構築（ブランディング）の方法論について検討していきます。毎回の講義において「中小企業固有のブランド課題」を採り上げ、議論したりワークをしたりしながら、受講者同士で意見を交わす時間を設ける予定です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業におけるブランドの役割や機能について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランド管理の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランド管理の方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランディング戦略の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランディングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法　約70%以上の出席を前提に評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	中小企業におけるブランドとは？	授業内容の説明、ブランドの定義と歴史
2	ブランドマネジメントについて	ブランド管理の基本的な考え方とその手法
3	ブランディングについて	ブランド力を強化する戦略についての方法論
4	ネーミングと商標	ネーミングによる差別化戦略の実例研究
5	ロゴタイプとシンボルマーク	シンボルマークによる差別化戦略の実例研究
6	ブランドステートメント	スローガンによる差別化戦略の実例研究
7	ブランドとデザイン	ＣＩ、商品やパッケージデザインとブランド
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	インターナルブランディング	社内活性化に向けたブランディング活動
10	地域ブランディングと中小企業	地域のブランディングと地域企業の役割
11	顧客熱狂ブランディング	圧倒的な支持を得る中小企業の研究
12	ストーリーによるブランディング	物語を活用したブランディングの方法論
13	音楽活用のブランディング	店頭音楽、サウンドロゴ、ＭＰＶ、社歌など
14	五感ブランディング	聴覚、嗅覚、味覚、触覚で伝えるブランド戦略
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社刊

【履修条件等】

◇「中小企業論Ｉ」、「マーケティング」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名・商品名、日本文化についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビＣＭなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

ベンチャービジネス論	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
Venture Business	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

ベンチャー企業の概念、歴史的変遷を理解した上で、ベンチャー企業の起業家の特性と行動、アイデア発想や事業機会の認識、ビジネスモデルのパターンと工夫、マーケティング、組織づくり、ベンチャーファインス、新興株式市場への上場条件、ベンチャー支援策の活用などを学ぶ。

講義に加えて、ベンチャー企業に関わる事例研究や演習を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ベンチャー企業、起業家の基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	ベンチャー企業の社会経済における重要性、特性、起業家の条件・行動などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ベンチャー企業のビジネスモデル形成のための基本的な要件やフレームワークを理解していること	ベンチャー企業の事業展開をする上でのビジネスモデルの形成とその要件やフレームワークが理解されているかどうかを演習による評価する。	10%
ベンチャー企業の成長段階での経営のあり方を理解していること	ベンチャー企業の成長段階（アーリー、ミドル、レーター）での、経営戦略、マーケティング、組織、ファイナンスの専門的知識を習得しているかを評価する。	20%
ベンチャー企業の基礎から応用までの成長ステップと各成長段階のベンチャー経営の専門知識を理解していること	起業家精神の涵養とベンチャービジネスの仕組みを十分に習得しているかを試験により評価する。	70%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	起業家の特性と行動	起業家の資質、条件、起業行動
3	ビジネスモデルの基本(1)	アイデア発想からビジネスモデルの構築
4	ビジネスモデルの基本(2)	優れたビジネスモデルのパターン （演習１）ビジネスモデルの検討
5	ビジネスモデルの基本(3)	ブルーオーシャン戦略とベンチャー企業
6	マーケティング①	ベンチャー企業のマーケティング活動
7	マーケティング②	サービスマーケティング活動 （演習２）事例分析
8	組織マネジメント①	ベンチャー企業の組織行動とマネジメント
9	組織マネジメント②	ベンチャー企業の人事労務 （演習３）急成長する組織づくり
10	ファイナンス①	ベンチャー企業の多様な資金調達 （演習４）ベンチャーファンナンス
11	ファイナンス②	ベンチャーキャピタルの仕組みと目利き
12	ファイナンス③	企業価値と株価の決め方 （演習５）企業価値の算定
13	ファイナンス④	株式公開と資本構成
14	ベンチャー支援策	ベンチャー支援政策、制度の活用
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。

◇参考書：忽那憲治・長谷川博和、他３名（著）『アントレプレナーシップ入門』
有斐閣
保田隆明（著）『企業ファイナンス入門講座』ダイヤモンド社

【履修条件等】

◇「新事業創造論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習問題を配布するので、事前に学習しておくこと

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

ベンチャービジネス論	片山（カタヤマ）　源治郎（ゲンジロウ） 奥田直樹・児玉陽平 ・隅田浩司
Venture Business	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：「事業を授業に！」アイスクリーム事業からベンチャービジネスについて学ぶ

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスビコ）を中心とするアイスクリーム事業の創業からその事業発展の進行に合わせて、起業するとはどのような意味を有するのか、ベンチャービジネスとは何か、そして事業展開を目指す上で経営学はどのように活用されているのかを実践的に学びます。したがって、この授業では、講義と演習が組み合わされる形の授業です。この講義を受講することによって、ベンチャービジネスに自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
ベンチャービジネスの特徴を理解する	ベンチャービジネスとは何か、そしてそのビジネス上の特権、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に提携していることを理解しているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
創業のための創造性を身につける	ベンチャービジネスはゼロからの創業を含みます、最初のアイデアをどう実践し、事業創造につなげるための方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
協調性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%

評価の方法　毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ベンチャービジネス論　概要	授業計画の解説とベンチャービジネスにおけるの重要事項についての講義
2	アイスクリームのマーケティング	食育、アイスの市場調査についての解説講義
3	販売研修準備①	ダシーズアイスの特徴と販売手法のディスカッション
4	販売研修準備②	販売スタッフ研修　ロールプレイング
5	販売研修	販売体験
6	販売研修のフィードバックと製造準備	収支報告と改善点の考察及び発表
7	製造準備「衛生管理、原材料、製造工程」	飲食店営業許可、食品衛生責任者の資格取得、ダシーズアイスの原材料、製造工程について
8	製造実習①「原材料準備」	ダシーズでの原材料準備と衛生管理についての解説講義
9	製造実習②「アイスクリームの製造」	アイス製造と提供、片付けまでの店舗実習
10	新フレーバー、店舗内外装の考案	新フレーバーと提供方法、店舗外装のディスカッション
11	営業実習準備①	ビジネスマナー基礎、営業の心得についての解説講義
12	営業実習準備②	ビジネスマナー、営業　ロールプレイング
13	営業実習準備③	営業先調査と提案資料の作成
14	営業実習	営業実習と営業日報の作成
15	最終講義	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献の指示、資料配布を行います。

【履修条件等】

◇原則として春学期の「新事業創造論（片山源治郎)」の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時受講停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提出されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行う場合があります、詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。皆さんにとって大きなチャンスです。しかし単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

新事業創造論	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
New Business Creation Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

経済のグローバル化やＩＴ化・ＡＩの進展、少子高齢化社会の到来により、我々の価値観や生活スタイルも大きく変容してきている。そのため、既成の価値観や領域を超えた新たな発想での新ビジネスや新市場創出が強く求められている。本講義では、新事業のアイデア発想から事業化までの基本的なステップを理解し、各自のアイデアをもとにビジネスプラン作成を行い、新事業の構想からマネジメント、ファインスなどを学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
新事業創出の重要性と基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	新事業創出の必要性を認識し、新事業を生み出すための基礎的な知識や最近の市場のトレンドなどを理解しているかを評価する。	10%
新事業発想と事業化のための基本的な条件や事業化の進め方を理解していること	新事業創出の源泉となるアイデア発想の基礎的な知識や考え方、事業化のための経営資源の調達、マーケティングなどの基礎的な知識を習得しているかを、演習を通じて評価する。	10%
新事業創出の集大成としてビジネスプラン作成の基本から応用まで理解していること	各自のアイデアを事業化するために、経営資源の調達、市場開拓、組織体制などをベースに、ビジネスプランを作成し、それを評価する。	40%
新事業創出の基本からプラン作成までの各段階の専門知識と進め方を理解していること	新事業の創出のためのアイデアと、それを事業化するための条件、ビジネスプラン作成などを十分に習得しているかを試験により評価する。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、出席10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	アイデアの発想	多角的な視点で事業アイデア発想
3	アイデアを磨く	身近なものからアイデアを構想
4	基本コンセプトづくり	演習によるアイデア発想とコンセプトづくり
5	外部環境の分析	新事業の市場環境・分析など、マーケティング視点の基本を理解
6	新事業の事業展開(1)	マーケティング戦略にもとづいた新事業の進め方
7	新事業の事業展開(2)	ビジネスモデル構築の進め方
8	新事業の売上計画立案	新事業の売上予測、売上計画づくり
9	新事業の資金計画	新事業の資金計画の作成
10	新会社の設立	新事業の会社設立の進め方と留意点
11	ビジネスプラン作成・演習（Ⅰ）	各自でアイデア発想し、それをビジネスプランに落とし込み、プラン作成
12	ビジネスプラン作成・演習（Ⅱ）	ビジネスプラン作成の指導
13	ビジネスプラン作成・演習（Ⅲ）	ビジネスプランの作成と発表
14	試験・解説	

【使用教材】

◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。

◇参考書：渡邊卓（著）『事業計画書の作り方』㈱あさ出版、その他

【履修条件等】

◇アイデア発想を豊かなにしておくこと。

◇将来、自分でお店や会社を立ち上げたい人は、自分のプラン作成。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

新事業創造論	片山（カタヤマ）　源治郎（ゲンジロウ） 奥田直樹・児玉陽平 ・隅田浩司
New Business Creation Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：「事業を授業に！」アイスクリーム事業を創造する

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスビコ）を中心とするアイスクリーム事業の創造からその事業展開の進行に合わせて、新事業の創造を実際に体験しながら、経営の現場で発生するさまざまな問題を皆さんと一緒に解決していきます。したがって、この事業では、講義と演習が組み合わさる形の授業です。この講義を受講することによって、新事業に自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1.経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
2.事業創造の特徴を理解する	事業創造とは何か、そしてその特徴、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に連携していることを理解しているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
3.創造性と継続性という事業創造の重要ポイントを身につける	事業は、立ち上げるだけでは意味がありません。事業継続の中で、日々事業の創造が求められます。事業創造や改善のアイデアをどう実践し、事業を継続するのか、その方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
4.協働性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%

評価の方法　毎回の講義の出席状況、受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	前期授業の概要と目的	新事業創造における重要事項の解説講義
2	ダシーズについて	ダシーズの目的とコンセプトの解説講義
3	ダシーズオープンまでの道のり	新事業立ち上げの経緯を解説講義
4	ダシーズのコンセプトとマーケティング	食品・アイス市場、アスリートのセカンドキャリアについての解説講義とディスカッション
5	起業と企業のカタチ	新会社設立の流れ、様々な事業の実例の解説講義
6	企業の危機管理経営	具体的なリスク・危機とは？危機管理経営の解説講義
7	ＩＴビジネスの可能性と未来	新事業における最新のビジネスモデルの活用についての解説講義
8	マーケティングとプロモーション	ネーミングとロゴ、映像と音楽のチカラによるマーケティング講義
9	映像プロモーション	映像の持つ力と映像プロモーションの活用についての解説講義
10	新規事業の立ち上げと継続	資金計画、損益計算の基礎知識講義
11	事業計画書の作成①	事業計画書の基礎知識と項目の解説講義
12	事業計画書の作成②	新店舗オープンの事業計画書作成演習
13	事業計画書の作成③	新店舗オープンの損益計算書作成演習
14	前期まとめ	前期授業についての総括、学習達成度の確認

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献の指示、資料配布を行います。

【履修条件等】

◇原則として秋学期の「ベンチャービジネス論（片山源治郎)」の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時履修停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提示されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行います、詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。
皆さんにとっては大きなチャンスです。
しかし、単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

新事業創造論	野澤（ノザワ）　弘宗（ヒロムネ）
New Business Creation Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネスは、創造であり、そして事業家は常に挑戦を続けなければなりません。新事業創造論は、起業家精神（アントレプレナーシップ）を発揮する上で不可欠となる新事業の創造をいかにして行うか、その具体的な方法論について学びます。

新事業は、単なる思いつきだけでは創造できません、かといって、型にはまった方法に基づいて自動的に作り出されるものでもありません、この新事業創造を効果的にすすめていくための着眼点、基礎知識、そして具体的な方法論について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学の基礎知識を実践の中でどのように応用できているか否かについて講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
2)事業創造の特徴を理解する	事業創造における経営戦略、マーケティング、ファイナンスの有機的連携を理解しているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
3)事業創造の基礎的な方法論を習得する	事業創造において、さまざまな関連する発想や、市場動向を踏まえ、深い洞察に基づく事業創造力の基礎が習得できているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
4)新事業の事業継続性の方法論を理解する	新事業を創造するにとどまらず、持続的成長を目指す上で必要となる知識や方法論の基礎を理解しているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
評価の方法　毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	IoT と事業創造	IoT と事業創造について解説
3	IoT とセキュリティ	IoT を活用した実際の事業創造事例の分析
4	IoT、データと事業	IoT 関連事業創造におけるデータの重要性について解説
5	先端技術と事業創造	先端技術と事業創造について解説
6	産学連携	大学の知恵、知見から生み出す事業創造について解説
7	災害と事業創造	日本における地震・災害の復興に貢献する事業創造について解説
8	地震と事業創造	免震を軸とした事業創造について解説
9	津波と事業創造	シミュレーション技術を中心とした事業創造について解説
10	人命と事業創造	災害からの避難を改善する事業創造について解説
11	地方と事業創造	自治体と企業との協働による事業創造について解説
12	電波と事業創造	経済を支える電波の利活用と事業創造について解説
13	センサーと事業創造	21世紀の必須技術であるセンサーと事業創造について解説
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多く、テキストの内容がすぐに陳腐化するため教科書を指定しない。その代わり、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず事前に調べ、その内容について簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営史（春学期）	清水（シミズ）　太陽（タイヨウ）
Business History	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の経済活動の中枢を担う主体のなかで、企業に焦点をあてて学んでいきます。この授業では、企業の変貌と発展の歴史を見ていき、現代企業の抱える問題とその行く末を展望します。また、それぞれの「時代」についてもあわせて考えることで、経営史を多面的に理解できる授業にしたいと考えています。映像資料や音楽動画などを活用することにより、経営史を学習することの楽しさと意義を理解できるような授業を行います。受講者の積極的な参加を期待します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	30%
内容の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の内容を正確に理解し、説明することができる。	30%
時代の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 時代の流れをとらえ、それぞれの時代と経営史の結びつきを理解し、説明することができる。	10%
知識の応用	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の知見を生かし、現代の企業が抱える諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができる。	30%
評価の方法　期末試験70%、レポート20%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業内容についての説明、経営史はなぜ必要か
2	戦略商品と経済覇権の変遷	市場と商品、第一次産業革命
3		第二次産業革命、第三次産業革命
4	会社の誕生	企業と企業家、工場と会社の誕生
5		重工業における技術革新と市場、エネルギー革命
6		パートナーシップから株式会社へ、取引コストの削減、イギリスにおける企業誕生の意義
7	ビッグ・ビジネスの成立	第二次産業革命、インフラストラクチャーの整備、企業家精神と戦略
8		垂直統合戦略と企業形態、アメリカ的組織と経営手法
9		競争戦略とマーケット・セグメンテーション、ビッグ・ビジネスの成立とその限界
10	大競争時代	先発国と後発国、財閥の形成と解体、日本的生産システムの確立、
11		エレクトロニクス革命とグローバリゼーション、ＩＴ革命
12		国際競争の象徴としての自動車産業、Ｒ＆Ｄと大競争、サブプライム危機と金融革命
13	ものづくりとファイナンス	大企業、ベンチャーネットワーク、マネーの世界の現在
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：安部悦生（著）『経営史＜第２版＞』日経文庫、2010年

◇参考文献：中瀬哲史（著）『エッセンシャル経営史―生産システムの歴史的分析―』中央経済社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ、教科書で、その日の授業内容を読んでおくと、授業での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営史（秋学期）	清水（シミズ） 太陽（タイヨウ）
Business History	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の経済活動の中枢を担う主体のなかで、企業に焦点をあてて学んでいきます。この授業では、企業の変貌と発展の歴史を見ていき、現代企業の抱える問題とその行く末を展望します。また、それぞれの「時代」についてもあわせて考えることで、経営史を多面的に理解できる授業にしたいと考えています。映像資料や音楽動画などを活用することにより、経営史を学習することの楽しさと意義を理解できるような授業を行います。受講者の積極的な参加を期待します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	30%
内容の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の内容を正確に理解し、説明することができる。	30%
時代の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 時代の流れをとらえ、それぞれの時代と経営史の結びつきを理解し、説明することができる。	10%
知識の応用	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の知見を生かし、現代の企業が抱える諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができる。	30%
評価の方法　期末試験70%、レポート20%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業内容についての説明、経営史はなぜ必要か
2	戦略商品と経済覇権の変遷	市場と商品、第一次産業革命
3		第二次産業革命、第三次産業革命
4	会社の誕生	企業と企業家、工場と会社の誕生
5		重工業における技術革新と市場、エネルギー革命
6		パートナーシップから株式会社へ、取引コストの削減、イギリスにおける企業誕生の意義
7	ビッグ・ビジネスの成立	第二次産業革命、インフラストラクチャーの整備、企業家精神と戦略
8		垂直統合戦略と企業形態、アメリカ的組織と経営手法
9		競争戦略とマーケット・セグメンテーション、ビッグ・ビジネスの成立とその限界
10	大競争時代	先発国と後発国、財閥の形成と解体
11		日本的生産システムの確立、エレクトロニクス革命とグローバリゼーション
12		ＩＴ革命、国際競争の象徴としての自動車産業
13		Ｒ＆Ｄと大競争、サブプライム危機と金融革命
14	ものづくりとファイナンス	大企業、ベンチャーネットワーク、マネーの世界の現在
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：安部悦生（著）『経営史＜第２版＞』日経文庫、2010年

◇参考文献：中瀬哲史（著）『エッセンシャル経営史―生産システムの歴史的分析―』中央経済社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ、教科書で、その日の授業内容を読んでおくと、授業での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

人的資源管理論Ⅰ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Human Resource Management Ⅰ	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味答えられること	25%

評価の方法　期末試験65点、レポート・小テストなど20点、リアクションペーパー15点
※レポート課題を１回行う予定。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・限定正社員
11	多様な職業人生	ワークライフバランス
12	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
13	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
14	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：岩出博編著『現代日本の人的資源管理の実相』中央経済社
(2020年5月出版予定)。

◇資料等：レジュメを配布（教科書にない情報など)。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇授業内にてレポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

人的資源管理論Ⅱ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Human Resource Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味答えられること	25%

評価の方法　期末試験65点、レポート・小テストなど20点、リアクションペーパー15点
※レポート課題を１回行う予定。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：岩出博編著『現代日本の人的資源管理の実相』中央経済社
(2020年5月出版予定)。

◇資料等：レジュメを配布（教科書にない情報など)。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇授業内にてレポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

キャリア発達心理学	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Career Development	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

一生涯を通じて、私たち人間はつねに発達し続ける存在です。この講義では、生涯発達心理学の観点から、胎生期から死に至るまでを範囲とし、とくに成人期に焦点をあて、人の心理社会的な変化のプロセスに関する知識と考え方を学びます。学習を通じて、人間理解の幅を世代的におし広げ、考察を深められるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の理論	試験の設問に対する解答によって評価。生涯にわたる心理社会的発達に関する概念の定義や用語について適切に答えることができ、また説明できる。	10%
各年代の固有の特徴	設問に対する解答によって評価。胎生期～成人期～老年期、死にいたる人生の各段階における心理的危機と社会的適応について理解が十分であること。	25%
成人期の課題と社会性の発達	レポート課題・設問に対する解答によって評価。働き盛りである成人期中期の心理社会的特徴を理解し、社会性に注目して考察を適切に行えること。	35%
キャリア発達	レポート課題ならびに設問に対する解答によって評価。とくに成人期の能力(キャリア)発達に関する基本的な枠組みや、それらの意義について理論や実践を通じて理解し、的確に答えられること。	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験（持込一切不可）60%・レポート（中間試験に代わる課題）20%を勘案して、総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	生涯発達とは？	生涯発達心理学の考え方、発達段階説
2	胎生期	胎生期の発達
3	乳幼児期(1)	心身の発達、愛着関係、社会性／相互作用性の発達
4	乳幼児期(2)	認知的発達
5	乳幼児期(3)	情緒的発達
6	児童期(1)	認知的発達
7	児童期(2)	社会性の発達
8	青年期(1)	思春期と青年期、マージナルマンとしての青年
9	青年期(2)	アイデンティティと職業選択、モラトリアム、社会的ひきこもり
10	成人期(1)	職業的キャリア
11	成人期(2)	ワークライフバランス／ワークライフコンフリクト
12	成人期(3)	働き盛りとメンタルヘルス
13	老年期(1)	老年期の特徴、健康な老い、ＱＯＬとＡＤＬ、認知症
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：藤村宣之 編著『発達心理学―周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本)』ミネルヴァ書房

◇参考書：菅野幸恵・他『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て―いのちのリレーの心理学』新曜社

岡本依子・他『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち』新曜社

岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社、その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日どおりに提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

キャリア発達心理学	松田（マツダ）　美登子（ミトコ）
Career Development	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

「人生とキャリア」をメインテーマに、一生涯の長いスパンからキャリアを考える。「仕事探しは自分探し」として、自己理解を図るための心理テストやワークシートを施行する。さらに、コミュニケーション・スキルを高めるための体験（ワーク）を行う。最後には、それらをまとめて「セルフ・ポートフォリオ」を作成する。「セルフ・ポートフォリオ」は自己ＰＲにも活用して欲しい。自己とキャリアについての理解や関心を深めることでキャリア設計に対して前向きに対処できるようになることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の一生（生涯発達）とキャリアとの関連性について理解する	試験による評価。人間の発達段階について学習する。発達段階とキャリア観の発達との関連性について理解する。自己とキャリアについての関心を深めることで、キャリア設計に対して前向きに対処できるようになる。	50%
自分を内省し自己理解を図るための課題を実施する	心理テストやワークシート等の課題の提出により評価する。複数の心理テストとワークシートを実施するため、欠席するとかなりの負担となる。心理テストやワークシートの施行を通じて自分と向き合い自己理解を図ることができる。	20%
「セルフ・ポートフォリオ」を作成する	「セルフ・ポートフォリオ」を作成し提出することで評価する。心理テストやワークシートを通じてさまざまな視点で自分を見つめ自己理解を図ることができる。さらに、これらをまとめて「ポートフォリオ」として仕上げる。言わば、「自分の統合」である。これにより、自分を客観的に理解することができる。	20%
コミュニケーション・スキルを高める	小グループによる体験（ワーク）に意欲的に参加することで評価する。アサーション（さわやかな自己表現）について学ぶ。さらに、実際に体験することで、コミュニケーション・スキルを高める。	10%
評価の方法　①平常点（授業後のリアクションペーパーの提出）10% ②レポートおよび宿題提出、ワーク（体験学習）30% ③定期試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	講義の進め方および評価方法についての説明 キャリア発達心理学とは？
2	キャリアとは	キャリアについての定義・分類
3	人生とキャリア	生涯発達の視点からキャリアを考える
4	青年期の発達と危機	アイデンティティ拡散と職業未決定
5	成人期の発達と危機	職業的アイデンティティと職場環境への不適応
6	中年期以降の発達危機	人生後半を生きる　キャリア観の問い直し
7	ﾗｲﾌｻｲｸﾙ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	誕生から死までのライフラインを描いてみよう
8	自己とキャリアの探求①	キャリアの３条件　パーソナリティを知る(性格)
9	自己とキャリアの探求②	好きなことを知る（職業興味）得意なことを知る（強み）
10	ストレス・マネジメント①	自分のストレスを測ってみよう！
11	ストレス・マネジメント②	ストレス・コーピング（ストレス対処法）を知る
12	コミュニケーション力を高める①	自分のコミュニケーション・タイプを探る
13	コミュニケーション力を高める②	アサーション（自己表現）のワーク
14	自己ＰＲに活かす	「セルフ・ポートフォリオ」作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない（適宜、プリントを用意します)。

【履修条件等】

◇自分自身の人生設計、キャリア・マネジメントに興味がある方。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇宿題が与えられた際は、提出できるように仕上げておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

メンタルヘルス・マネジメント	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Mental Health Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

こころの健康（メンタルヘルス）に関する心理学の理論と実践について、講義形式で学習します。私たちの日常生活における心理的ストレス、適応に関する基礎知識を、講義を通じて習得します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
健康心理学関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	試験の設問に対する解答によって評価。概念の定義や種類に関する用語を適切に答えることができ、また、適切に説明できること。	20%
メンタルヘルスと職業生活・社会生活がどのように関連するかを理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。メンタルヘルス、ストレスが個人の身体の健康や職業生活、社会生活とどのように関わっているかについて説明できること。	20%
自己理解と性格分析を、ツールを用いて客観的に測定したうえで、適切に内省を行える	日々のミニレポート課題、ならびにレポート課題によって評価。心理検査類を用いた客観的測定と自己洞察を適切に行えること。	40%
メンタルヘルスの重要性について理解し、その知識や方法を知り、予防やケアに役立てられるようにする	設問に対する解答によって評価。メンタルヘルスケアの基本的な枠組みや方法、それらの意義について理解し、ケアや予防の方策について答えられること。	20%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験（持込一切不可）60%・レポート（中間試験に代わる課題）20%を勘案して、総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	メンタルヘルスとは？	メンタルヘルス・ストレスとは
2	ストレスの基礎理論①	心と身体の関係：セリエの汎適応症候群など
3	ストレスの基礎理論②	ストレスの捉え方：ラザラスのストレス理論など
4	ストレスの基礎理論③	ストレスと性格：防衛機制・ストレスコーピングなど
5	社会生活とストレス①	社会・対人関係：成人期の心理社会的発達とキャリア発達
6	社会生活とストレス②	社会的適応－不適応①：さまざまな生活の場での適応
7	社会生活とストレス③	社会的適応－不適応②：事例検討
8	職場のメンタルヘルス①	職場のメンタルヘルス：予防とケアの基本的な考え方
9	職場のメンタルヘルス②	セクシュアル・ハラスメント
10	職場のメンタルヘルス③	心身症、気分障害（うつ病）
11	ストレス・マネジメント①	ストレスのアセスメント、ストレス緩和とリラクセーションなど
12	ストレス・マネジメント②	ストレス緩和とソーシャルサポートなど
13	職場環境と心理的ケア①	カウンセリングの理論と技法：受容と傾聴
14	職場環境と心理的ケア②	カウンセリング：対処－予防、セルフケア、専門家によるケア
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定なし。

◇参考書：伊波和恵ほか『マネジメントの心理学』ミネルヴァ書房。
その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

◇「心理学」（教養科目）の単位を取得（見込）していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書の関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日通りに提出すること。

◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。

◇民間資格である「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種（大阪商工会議所）」の取得を念頭に置いて学習を進めるとよい。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営心理学研究法	伊波（イナミ） 和恵（カズエ）
Business Psychology Study Methods	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義では、人の心という目には見えないものを可視化し、測定する方法とその理論について学びます。経営心理学の学びをより深めるために必要な手段としての数値化や現象の記述方法について基礎的な手続きと方法を学び、受講学生が自分自身でそれらの方法を活用できるようにすることを目標とします。そのため、授業は講義を通しての知識の理解を求めるだけでなく、実習・レポート作成にも重点を置きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心理学研究方法における基礎知識への適切な理解	試験の設問に対する解答によって評価。心理検査や各種調査法について、①種類やツールとしての特性、②測定に関する基礎的用語、③調査法の特性等を適切に答えることができ、また説明できること。	20%
心理学研究法を用いる際に必要となる基本的な統計技法への理解	レポート課題によって評価。Excel 等の表計算ソフトを用い、基本的な統計知識を正しく理解できているかどうかを評価する。	25%
実験法や面接法を用いた、適切な測定・結果や考察の記述（レポート作成）	レポート課題によって評価。実験法や面接法を用いて、簡単な心理学実験･調査を行い、その結果を統計的に分析し、考察できるかどうかを評価する。	25%
質問紙法を用いた、適切な測定・結果や考察の記述（レポート作成②）	レポート課題によって評価。質問紙調査法を用いて、簡単な質問紙（アンケート）調査を行い、その結果を統計的に分析し、考察できるかどうかを評価する。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点（ミニレポート・授業参加度等）20%・小テスト課題（２回）20%・レポート課題40%・本試験20%を勘案して、総合的に評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義概要と授業の進め方についての説明。心理学研究法とは何か
2	心理学研究法の基礎①	心理検査の種類･特性
3	心理学研究法の基礎②	質問紙の概念理解。妥当性・信頼性
4	心理学統計法の基礎①	数値化について。平均・分散･標準偏差
5	心理学統計法の基礎②	統計法実習①
6	心理学統計法の基礎③	統計法実習②
7	実験法①	レポートの書き方・計画の立て方
8	実験法②	測定実習
9	実験法③	レポートの作成①
10	面接法①	構造化面接法
11	面接法②	レポートの作成②
12	質問紙法①	質問紙法の測定実習
13	質問紙法②	結果の分析方法
14	質問紙法③	レポートの作成③
15	総括	総括と確認テスト

【使用教材】

◇教科書：とくに指定なし（配付資料を用意する)。

◇参考書：適宜、講義中に紹介する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料については、各自熟読し、その内容の理解に努めること。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日どおりに提出すること。

◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。

◇実習･レポートといった課題が含まれるため、全出席を原則とする。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

知的財産法	髙丸（タカマル）　涼太（リョウタ）
Intellectual Property Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、知的財産法の概要と個別法の基礎的知識を理解・習得するとともに、それらを応用し、現実に生起する問題を発見・解決する能力を涵養することを目的とします。本講義では、知的財産法と総称される法律群のうち、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法を主な対象としますが、本学のカリキュラムの特性等に鑑み、それらのなかでもとくに著作権法に重点を置くこととします。もっとも、「知的財産法」の講義である以上、個別法単独の知識等の解説にとどまらず、各個別法相互の関連性をも重視して講義を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
①知的財産法の概要と各個別法の基本的知識の理解・習得	知的財産法の概要を理解するとともに、各個別法の基本的知識を習得できているかについて、学期末試験によって評価します。	40%
②各個別法の特徴と相互関係の理解	各個別法の保護領域等の特徴と相互関係を理解できているかについて、学期末試験によって評価します。	30%
③上記①、②の各理解等に基づく、具体的な事例における問題発見	本講義で習得した知識等を元に、具体的な事例の下で知的財産法上の問題を正しく捉えることができるかについて、学期末試験によって評価します。	15%
④上記①、②の各理解等に基づく、上記③の問題の検討と解決	本講義で習得した知識等を元に、具体的な事例における知的財産法上の問題に対して適切な解決策を示すことができるかについて、学期末試験によって評価します。	15%

評価の方法　原則として学期末試験によって評価しますが、積極的な講義への参加等があった場合には、相応の加点をする場合があります。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の内容、評価方法等の説明
2	知的財産法総論	知的財産法の全体像
3	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(1)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
4	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(2)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
5	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(3)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
6	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(4)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
7	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(5)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
8	技術開発と知的財産法(1)	特許法、不正競争防止法等の基礎
9	技術開発と知的財産法(2)	特許法、不正競争防止法等の基礎
10	ブランド・デザインと知的財産法(1)	商標法、不正競争防止法、意匠法等の基礎
11	ブランド・デザインと知的財産法(2)	商標法、不正競争防止法、意匠法等の基礎
12	知的財産法の現代的課題(1)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
13	知的財産法の現代的課題(2)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
14	知的財産法の現代的課題(3)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
15	総括・達成度の確認	今までの講義内容の総括と学習達成度の確認テストの実施

【使用教材】

◇教科書は指定しませんが、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法の４法については、手元で条文を参照できるようにしておいてください。

【履修条件等】

◇法学系科目の知識（特に民法の知識）があることが望ましいです。また、知的財産法は独占禁止法・競争法とも密接に関連しているので、「経済法」の履修も本講義の内容の理解に資すると思います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要がある場合は、その都度指示をします。

【その他の注意事項】

◇受講者の関心や要望等に応じて、授業計画を変更することがあります。

◇私語や正当な理由のない入退室等、講義に支障を来す行為があった場合は、受講をお断りすることがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

労働法（春学期）	黒岩（クロイワ）　容子（ヨウコ）
Labor Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%

評価の方法　期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います。
また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集団的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。

◇参考書として、浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法　第７版』有斐閣アルマ、2019年。
また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修ずみ、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇現実の社会で、労働に関してどのよう問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。

◇また、授業中は私語厳禁です。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

労働法（秋学期）	黒岩（クロイワ）　容子（ヨウコ）
Labor Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%
評価の方法　期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います。 また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集団的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	労働をめぐる紛争	職場のトラブルとその解決手段
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。

◇参考書として、浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法　第７版』有斐閣アルマ、2019年。
また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修ずみ、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇現実の社会で、労働に関してどのよう問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。

◇また、授業中は私語厳禁です。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

流通論Ⅰ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Channel Management I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%

評価の方法　全14回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとＣＶＳについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとＳＰＡについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える３ＰＬ
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
13	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『１からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

流通論Ⅱ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Channel Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機ＳＣＭなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ＩＣＴ化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるＩＣＴ機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%

評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、ＳＣＭの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるＩＣＴ活用の展開	ＩＣＴの導入、流通ＩＣＴ化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

商品論（春学期）	田口（タグチ）　冬樹（フユキ）
Product Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。さらに最近の商品動向として所有から利用へ、ダウンロードからストリーミングやサブスクリプションといったサービス化のトレンドについてもその変化の意味を考察し、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味)、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはＳＷＯＴ分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法　定期試験60%、授業時の小テストやレポート30%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方：なぜ商品論を学ぶのか
2	商品とは何か	商品化とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
3	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドの起源
4	サービス商品	サービス・ドミナント・ロジック：所有から利用の変化について
5	製品開発と開発主体	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとＳＰＡ
6	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位、環境にやさしい商品とは
7	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化、ＰＰＭとの接点
8	市場細分化	ＳＴＰとは何か
9	フリーのねらい	商品と価格の関係
10	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
11	ブランド戦略	ケーススタディ：ＮＢとＰＢ、ＯＥＭ、地域ブランドの展開
12	日本市場とブランド	日本のブランド、新興国のケース、インフルエンサーの役割
13	商品企画＆改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹（著）『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹（著）『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房
授業開始時ならびに必要に応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士）」受験の準備・参考資料なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した問題に関し、教科書をよく読んで関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいっても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

商品論（秋学期）	田口（タグチ）　冬樹（フユキ）
Product Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。さらに最近の商品動向として所有から利用へ、ダウンロードからストリーミングやサブスクリプションといったサービス化のトレンドについてもその変化の意味を考察し、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味)、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはＳＷＯＴ分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法　定期試験60%、授業時の小テストやレポート30%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方：なぜ商品論を学ぶのか
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、便益の束とは
3	現代の商品概念	商品とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドの起源
5	サービス商品	サービス・ドミナント・ロジック：所有から利用の変化について
6	製品開発と開発主体	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとＳＰＡ
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位、環境にやさしい商品とは
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化、ＰＰＭとの接点
9	市場細分化	ＳＴＰとは何か
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
12	ブランド戦略	ケーススタディ：ＮＢとＰＢ、ＯＥＭ、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本のブランド、新興国のケース、インフルエンサーの役割
14	商品企画＆改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹（著）『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹（著）『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房

授業開始時ならびに必要に応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士）」受験の準備・参考資料なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した問題に関し、教科書をよく読んで関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいっても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

消費者行動論Ⅰ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Consumer Behavior I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因ついて解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意思決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになる	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、専門用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになる	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できる	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

消費者行動論Ⅱ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Consumer Behavior II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること。	25%
消費者行動のネットによる変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

商業簿記Ⅰ	西山（ニシヤマ）　一弘（カズヒロ）
Commercial Bookkeeping I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は企業活動を記録、計算、整理するための技術であり、財務諸表を作成するための手段であるといわれています。本講義では、「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の履修を前提とし、応用的な簿記処理を学びます。

各授業は、講義テーマについて、座学の後、ワークを学生が解くことで理解を深める形式をとります。したがって、講義への参加が重要となり、講義内では複数回、提出すべき課題が出されることがあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する理解度によって評価します。商業簿記の意義や目的を理解した上で、簿記についての説明が可能であること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する理解度によって評価します。商業簿記のシステム、特に簿記一巡を理解し、説明できるようになること。	10%
商業簿記に関する応用的な知識を習得し、企業活動を理解することができるようになる	設問に対する回答によって評価します。商業簿記の特徴として、仕訳はもちろん試算表、精算表を作成できるようになること。 さらに、その数値を使い、企業活動を説明できるようになること。	80%

評価の方法　原則、期末試験の評点により判断しますが、平常点（講義への参加姿勢や課題等の提出状況）も加点要素とします。

全講義回数の３分の２以上の出席を成績評価の対象とします。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法について説明します。
2	商品売買取引	商品売買の会計処理について説明します。
3	現金預金	現金と預金の会計処理について説明します。
4	手形取引	手形取引の会計処理について説明します。
5	有価証券	有価証券の会計処理について説明します。
6	有形固定資産	有形固定資産の会計処理について説明します。
7	その他の債権債務	その他の債権債務の会計処理について説明します。
8	貸倒損失と引当金	貸倒損失と貸倒引当金について説明します。
9	資本金と税金	資本金と税金の会計上の取り扱いについて説明します。
10	その他の収益および費用	その他の収益および費用と訂正仕訳について説明します。
11	伝票	伝票について説明します。
12	決算整理	決算整理の処理について説明します。
13	精算表	８桁精算表の作成方法を説明します。
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書：新田忠誓他著『エッセンス簿記会計』（最新版）森山書店

◇適宜資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位を修得済みであるか、日商簿記検定３級あるいは全経簿記検定３級を取得済み、あるいはそれと同程度の簿記の知識を有することを履修の前提とします。簿記は、段階を踏んで学習をしなければ理解が深まらない分野です。必ず、ご自身の簿記の知識を考慮して履修をするようにしてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書には練習問題がついています。また、講義の際には演習プリントを配布することがあります。これらの資料に加えて、簿記の理解のために練習問題を解くことで、受講者は各自、講義で取り扱った内容について復習をするようにしてください。

◇受講生の理解度によっては、予定が早まること（遅くなること）もありうるため、必ず講義で取り扱っている内容について復習をしておくようにしてください。

【その他の注意事項】

◇講義には電卓を用意してください。

◇講義は、一定レベルの簿記の知識を前提として進めますので、ついていけない学生は各自で不足している知識を補うようにしてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

商業簿記Ⅱ	西山（ニシヤマ）　一弘（カズヒロ）
Commercial Bookkeeping II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は企業活動を記録、計算、整理するための技術であり、財務諸表を作成するための手段であると言われています。本講義では、「商業簿記Ｉ」に引き続き、実際の企業活動を意識した、財務諸表作成のための簿記を理解します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記に関する応用的な知識を習得	設問に対する解答によって評価します。商業簿記の応用的な論点について正しい仕訳等を行うこと。	80%
簿記を通じて、実際の企業活動に関わる取引の具体例を挙げることができる	設問に対する解答によって評価します。商業簿記の取引を、企業活動として、具体例をもって相手に伝えることができる。	10%
企業活動を理解することができるようになる	設問に対する解答によって評価します。 簿記がなぜ、特定の取引について、特殊な処理を行うのかについて説明することができる。	10%
評価の方法　講義の中で行われる小テストを40%、定期試験の成績60%を目安として、総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法について説明します。
2	商品売買取引	特殊商品売買取引の会計処理について説明します
3	手形と電子記録債権	手形と電子記録債権債務の会計処理について説明します。
4	有価証券	有価証券の会計処理について説明します。
5	有形固定資産	有形固定資産の会計処理について説明します。
6	引当金	引当金の会計処理について説明します。
7	新株発行	新株発行の会計処理について説明します。
8	剰余金の配当	剰余金の配当等の会計処理について説明します。
9	外貨換算会計	外貨建取引や外貨建有価証券の会計処理を説明します。
10	伝票	伝票制について説明します。
11	決算整理記入	決算整理事項の会計処理について説明します。
12	精算表の完成	より複雑な８桁精算表の完成方法について説明します。
13	本支店会計(1)	本支店間の取引について説明します。
14	本支店会計(2)	本支店合併財務諸表の作成方法について説明します。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：新田忠誓他『エッセンス簿記会計』（最新版）森山書店

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」、さらには「商業簿記Ⅰ」を履修し単位を修得済みであるか、日商簿記検定３級・全経簿記検定３級と同等以上の簿記の知識を有することを履修の条件とします。

◇「商業簿記Ⅰ」を未履修の学生は、各自で当該範囲を自習しておくことが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書には練習問題がついております。また講義の際には演習プリントを配布することがありますので、受講者は、各自講義で取り扱った内容について、その都度復習しておいてください。

【その他の注意事項】

◇毎回、電卓を用意してください。

◇特別な事情がない限り、遅刻・早退は出席とみなしません。

◇「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」および「商業簿記Ⅰ」を履修していることを前提とします。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

工業簿記Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Industrial Bookkeeping I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、日商簿記３級等で勉強する商業簿記を、商品を自社で製造して販売する活動、つまり工業に当てはめた簿記の形態である、「工業簿記」を重点的に取り扱います。

工業簿記と名は打っていますが、工業簿記は突き詰めて言いますと、製品１個の原価を計算するということになりますので、原価計算と考えて頂いて結構です。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。最終的に、日商簿記２級の工業簿記レベルの知識の習得が目標となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
工業簿記に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 商業簿記と工業簿記の違いを理解してください。とくに工業簿記の計算一巡に関する手続きの理解に努めてください。	20%
費目計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 費目別計算を行う意義と製造間接費の配賦処理を理解してください。	20%
部門別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 部門別計算を行う意義と補助部門費などの配賦処理を理解してください。	20%
製品別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 製品別計算の意義と財務諸表との連動を理解してください。また、原価集計の視点を変えるとさまざまな原価情報を作成できるということに関する理解が必要です。	40%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので３回の実施を予定しております。

貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価と原価計算(1)	原価計算の意義に関して説明
3	原価と原価計算(2)	原価計算の目的に関して説明
4	費目別計算(1)	原価要素の分類測定に関しての説明
5	費目別計算(2)	製造間接費の配賦に関しての説明
6	部門別計算(1)	個別費・共通費の集計に関しての説明
7	部門別計算(2)	補助部門費の配賦に関しての説明
8	部門別計算(3)	部門別計算の総まとめ
9	製品別計算(1)	個別原価計算に関しての説明
10	製品別計算(2)	総合原価計算に関しての説明①
11	製品別計算(3)	総合原価計算に関しての説明②
12	製品別計算(4)	個別と総合の違いに関しての説明
13	製品別計算(5)	製品別計算の総まとめ
14	春学期試験	試験

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたく思います。「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中だけでは問題演習をこなすことはできないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

工業簿記Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Industrial Bookkeeping II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、「工業簿記」を重点的に取り扱っており、「工業簿記Ｉ」の発展的講義となります。「工業簿記Ｉ」と併せて受講することで日商簿記２級レベルの工業簿記の知識の習得を最終目標としております。また、講義初回に検定重視の講義にするか、会計学の知識とＰＣスキルがどのように連動するかに焦点を置いた講義にするか選択を行います。多数決で決まりますが、どちらにしても日商簿記２級レベルの知識の習得は実現されますのでご安心ください。会計学をＰＣで実装する楽しさを体験していただければ幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
標準原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 標準原価計算を元にどの様に管理活動が行われるかを理解してください。	20%
直接原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算の計算手続きに関する基本的な理解をしてください。	20%
ＣＶＰ分析に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算を応用することで可能になる経営分析があることを理解ください。	20%
工業簿記をＰＣ上で行うために必要なスキルを身につける	講義や検定試験では、会計学は電卓を用いて手書きでやることが主流となっておりますが、実際に社会に出ると経理などの会計のお仕事はＰＣ上で行うことになります。企業によっては専門ソフトではなく、自身で会計手続きをＰＣ上に実装することが求められます。その際に有用な知識を身につけてください。	40%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題30%、期末試験60%で評価します。※課題・期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。
課題は、Excel 上に工業簿記を実装する課題を出します。講義を聞いていれば簡単な問題となると思います。
貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	工業簿記をＰＣ上で行うための確認事項	受講者のＰＣスキルの確認と、基本的なＰＣスキルの講習を行います。
3	前期の内容をＰＣ上でやってみる(1)	前期に学習した、費目別・部門別・製品別計算を第２回で学んだ内容を元に実装していきます。
4	前期の内容をＰＣ上でやってみる(2)	簡便的なＤＢを用いることで第３回の内容をブラッシュアップします。
5	前期の内容をＰＣ上でやってみる(3)	前期の内容をＰＣ上で行うことの総まとめを行います。
6	標準原価計算(1)	基本思考に関する説明とスキーマの構築
7	標準原価計算(2)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ①
8	標準原価計算(3)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ②
9	標準原価計算(4)	Excel で原価計算関連の報告書を作ってみよう
10	標準原価計算(5)	標準原価計算総まとめ
11	直接原価計算(1)	直接原価計算の概要とスキーマ構築
12	直接原価計算(2)	直接原価計算を実装してみる
13	直接原価計算(3)	報告書関連を作ってみる
14	秋学期試験の説明	当期の総まとめと秋学期試験
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義ではＰＣを使用します。学務にＩＴルーム活用の申請を出しておきます。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたく思います。「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「工業簿記Ⅰ」の講義内容を復習しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

原価計算	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Cost Accounting	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

原価計算とは本来、原価・収益計算であり、利益構造を考えるとは原価構造を考えるという企業運営のためには必須の専門領域だと言えます。

本講義では、原価計算のさまざまな計算の手法を中心に原価情報作成方法の習得を目的とします。作成された原価情報がどのように活用されるのかといった点にご興味をお持ちの方は併せて、管理会計の授業を受講することをお勧めします。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。また、本講義では Excel を用いて演習を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
原価計算の意義に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 必要な経営活動に関する原価情報を得るためにはどのような計算手続きを用いればよいか説明できるようになること。	40%
さまざまな原価計算手法に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 個別・総合原価計算や標準原価計算などの計算手続きを Excel などで実装できるようになること。	20%
原価計算を Excel で行うための操作に関する理解	実際の現場ではＰＣを用いて会計を行うことが一般的であるため、マイクロソフトオフィスソフトである Excel で原価計算を行うために必要な操作を覚えること。	20%
原価に関するデータの応用的な活用に関する理解	原価に関するデータを統計処理することにより原価関数を作りシミュレーションを行うなど、ＰＣを用いるからこそ得ることができる情報を作成できるようになる。	20%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点20%、期末試験70%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので３回の実施を予定しております。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価計算総論	原価計算基準や原価計算の目的などに関して
3	原価の費目別計算	材料費・労務費・経費に関して
4	製造間接費の配賦計算	製造間接費の配賦基準を中心に
5	原価の部門別計算	部門別計算の目的を実現する計算処理に関して
6	個別原価計算	仕損処理を中心に演習を行う
7	総合原価計算(1)	仕損とその配賦に関して
8	総合原価計算(2)	総合原価計算各論、さまざまな総合原価計算手法に関して
9	標準原価計算(1)	シングル・プラン、パーシャル・プランなど
10	標準原価計算(2)	標準原価差異の会計処理に関して
11	直接原価計算(1)	直接原価計算と全部原価計算の違いに関して
12	直接原価計算(2)	直接標準原価計算と予算実績差異分析に関して
13	直接原価計算(3)	価格決定や最適セールスミックスの決定に関して
14	ＣＶＰ分析	損益分岐分析や多品種製品のＣＶＰ分析などに関して
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメファイルと Excel ファイルをメーリングリストにて配布し、配布したファイルを教材とします。

◇参考図書はガイダンス時に紹介いたします。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」や「会計学Ⅰ」・「会計学Ⅱ」を履修していることが望ましいです。

◇簡単な Excel 操作を知っていると講義内で行う演習での理解が深まります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義内容の復習、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。

◇本学で学習するＰＣに関する講義内容でとくに Excel 操作に関する復習をしておくとよいと思います。

【その他の注意事項】

◇講義中に詳しく説明します。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

経営分析論	坂入（サカイリ）　遼（リョウ）
Financial Analysis Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

経営分析に必要な資料や情報を見極めて正しく指標を算出し、総合的な分析を行える能力を身につけてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の役割をそれぞれ理解するとともに、それら財務３表から各種の指標を導き出して総合的に企業の経営状況を分析するための学習、実践を行う。

企業の経営状況を分析する能力は、金融機関で働く人だけでなく、事業会社で働く多くの人々に求められる。本授業は、そうした必要スキルを身につけるための場となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経営分析に使われる資料の役割や指標の意味を理解する	授業中の演習、小テスト、定期試験によって理解度を評価する。決められた時間内での正確な説明が求められる。	20%
2)資料を正しく読み込み、分析に必要な指標を算出できるようになる	授業中の演習、小テスト、定期試験によって到達度を評価する。決められた時間内での正しい指標算定が求められる。	30%
3)資料から経営に影響する定性的な情報を読み取り、分析に生かせるようになる	授業中の演習、小テスト、定期試験によって到達度を評価する。決められた時間内で、資料から必要な定性的情報を読み取り、分析に反映することが求められる。	10%
4)学んだ分析手法を使い、総合的な経営分析をできるようになる	半期の総括として授業内に行う総合演習への取り組み状況、定期試験の結果にもとづき総合的に評価する。定量的、定性的な分析の両方を駆使し、論理的な結果を導くことが求められる。	40%

評価の方法　成績評価に占める割合は、授業中の演習への取組状況・授業内の小テストの結果が40%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が60%である。ただし、出席回数が全回数の３分の２以上であることが、成績評価を受ける条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の全体像・進め方、成績評価方法に関して説明する
2	経営分析の手掛かり	分析に臨む上での基本姿勢を身につける
3	損益計算書（P/L）	損益計算書（P/L）の構造を理解する
4	貸借対照表（B/S）	貸借対照表（B/S）の構造を理解する
5	キャッシュフローとは	キャッシュフロー計算書の構造を理解する
6	収益性の分析	企業の収益性を評価するための指標について学ぶ
7	損益分岐点分析	利益の確保に必要な売上高を算出する方法などを学ぶ
8	生産性の分析	企業の生産性を評価するための指標について学ぶ
9	成長性の分析	企業の成長を評価するための分析手法を学ぶ
10	安全性の分析	企業の安全性を評価するための指標について学ぶ。
11	キャッシュフロー分析	現金の動きに着目して事業の持続性を評価する手法を学ぶ
12	定性的な分析	財務諸表からは明らかにならない情報を分析に生かす姿勢を学ぶ
13	総合演習	学習した内容を踏まえて実践にあたる
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献については、適宜授業の中で紹介する。

【履修条件等】

◇経営分析の学習では、一定程度の簿記や会計学の知識が前提となる。したがって、簿記や会計学の学習をすでに進めていることが求められる。

◇授業では、受講生にさまざまな計算を実施してもらうこととなる。そのため、筆記用具、ノート等の紙媒体、電卓を持参すること。

◇携帯電話やスマートフォン、タブレット端末などでの電卓の使用は、本授業では認めない。電卓は、12桁以上を表示可能なもので、かつ、印刷機能、音声機能、プログラム機能、辞書機能のないものを持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇小テストの実施について前もって告知する。その範囲に応じて事前学習を行うこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

財務諸表論	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Financial-Statements Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、税理士や公認会計士の試験科目である「財務諸表論」の基本的な考え方を習得するために、各会計基準の背景にある会計原則や会計理論について学ぶ。したがって財務会計の全般的な知識を有している学生を対象としており、その内容は発展的なものであることに留意が必要である。各テーマについて、テキストを中心に講義形式で解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務3表の意義と内容を理解している	設問に対する回答によって評価。財務諸表の役割および国政を理解していること。また、その各財務諸表に記載される会計情報について、それらが示す意味を理解していること。	20%
会計を行う上での前提条件や諸概念について理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義といった内容を説明できること。	40%
会計基準や、会計手続きとその背景にある会計理論について説明できる	設問に対する回答によって評価。各種会計基準の理論的意義、	40%
評価の方法　授業への貢献度20%、本試験80%。「出席しない点」は設定。 ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法、財務諸表論の学び方
2	会計の目的と法規制	会計の目的、役割、会社法・金商法・税法
3	企業会計原則	一般原則、損益計算書原則、貸借対照表原則
4	資産会計	資産の分類、資産の評価、
5	金融商品会計	金融商品の分類、デリバティブ取引、有価証券の評価、評価損益の処理と実現概念
6	棚卸資産会計	棚卸資産の原価配分、低価法
7	固定資産会計	固定資産の原価配分、無形資産の分類、リース取引の分類と処理
8	繰延資産会計	企業会計原則上の繰延資産と会社法上の繰延資産
9	引当金	企業会計原則（注・18）の設定要件、各種引当金
10	資産除去債務	資産除去債務の意義と会計処理、個別財務諸表上の取り扱いとの違い
11	資本会計	株式会社の資本制度、資本金と準備金、剰余金の配当
12	損益計算	3つの損益計算、一致の原則、収益の発生と実現
13	減損会計	減損とは、減損の兆候と減損損失の計上、回収可能価額
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：田中弘著『財務諸表論の考え方－会計基準の背景と論点－』税務経理協会

◇参考書：田中弘著『新財務諸表論』税務経理協会、など

【履修条件等】

◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」および「財務会計論Ⅱ」をすでに履修済みであることを条件とする。また、本講義には日商簿記２級程度の簿記の知識を要する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」の復習をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

租税概論Ⅰ	三関（ミセキ）　公雄（キミオ）
Tax Introduction I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして、租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論Ⅰ」では、所得税と法人税の基本的な事項に関して理解を得ることを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
租税法の基本原則の理解	租税法の根底にある基本的な原則や法体系について理解する。 設問により評価する。	30%
所得税の基礎的知識の習得	所得税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
法人税の基礎的知識の習得	法人税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
評価の方法　受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	財政の仕組みと役割
2	租税の意義	わが国における租税の発達、租税法の基本原則
3	租税法の体系	租税の分類、租税に関する述語、税法の法体系
4	所得税(1)	所得税の基礎、所得の概念
5	所得税(2)	所得の分類
6	所得税(3)	所得の分類、所得控除
7	所得税(4)	所得控除
8	所得税(5)	課税所得の計算
9	法人税(1)	法人税の基礎、法人の概念
10	法人税(2)	法人税の益金概念、法人税と企業会計の相違点
11	法人税(3)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
12	法人税(4)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
13	講義のまとめ	
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

租税概論Ⅱ	三関（ミセキ）　公雄（キミオ）
Tax Introduction II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論Ⅱ」では、「租税概論Ⅰ」で学んだ所得税と法人税以外の税金の分野やシステムについて学んでいくことを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相続税・贈与税の基礎的知識の習得	相続税・贈与税の概要を理解する。 設問により評価する。	45%
消費税の基礎的知識の習得	消費税の計算構造や概要について理解する。 設問により評価する。	45%
納税者の権利救済制度の理解	制度の概要の理解。 設問により評価する。	10%
評価の方法　受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
2	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
3	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
4	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
5	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
6	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
7	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
8	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
9	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
10	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
11	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
12	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
13	納税者の権利救済	加算税、延滞税、争訟制度の概要
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇「租税概論Ⅰ」を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

税務会計論Ⅰ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Theory of Tax Accounting I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、当該会計的アプローチに従いながら「租税のあるべき姿」を探求する上で、問題となる論点を発見し、当該論点を解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション１	税務会計の概要等についての講義
2	税務会計の概要	税務会計の意義
3	租税と会計	税法と会計の関係性について
4	税務会計の種類	所得税務会計、財産税務会計、消費税務会計
5	税務会計の機能と実態	税務会計の機能・役割・実態
6	税務会計学	税務会計学の研究領域・学問的使命
7	税務会計の基礎理論(1)	税務会計の課題と役割
8	税務会計の基礎理論(2)	課税所得概念
9	税務会計の基礎理論(3)	税務会計に関する基準
10	課税所得の計算(1)	課税所得計算の通則
11	課税所得の計算(2)	課税所得計算の個別計算
12	課税所得の計算(3)	課税所得計算の基本構造
13	課税所得の計算(4)	申告書について
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇１年次に「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対する基本的な知識をひと通り会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

税務会計論Ⅱ	石塚（イシヅカ） 一彌（カズヤ）
Theory of Tax Accounting II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、「税務会計論Ⅰ」で修得した税務会計総論の知識をもとに、典型的な各論の問題を取り上げる。各テーマでは、各人が実際に手を動かして、税法の趣旨に沿った計算に取り組み、税額算定のプロセスを理解することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	税務収益会計(1)	販売収益
2	税務収益会計(2)	役務収益
3	税務収益会計(3)	請負収益
4	税務収益会計(4)	譲渡収益
5	税務収益会計(5)	受取配当等
6	税務収益会計(6)	受贈益・債務免除益
7	税務収益会計(7)	受取利息他
8	税務収益会計(8)	給与
9	税務収益会計(9)	交際費等
10	税務収益会計(10)	販促費
11	税務収益会計(11)	寄付金
12	税務収益会計(12)	租税公課他
13	税務資産会計(1)	有価証券・棚卸資産・固定資産
14	税務資産会計(2)	その他資産
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇「税務会計論Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対して応用的判断ができることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

法人税	田中（タナカ）　俊久（トシヒサ）
Corporation Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の経済社会では、法人形態での活動がその中心的な役割を担っています。法人が利益追求のため経済活動を行うにあたって、どのような租税負担を負うことになるのかを知ることは、ビジネスを行う上で極めて重要です。法人税では、法人に対する申告納税のしくみについて、身近に生じている課税問題等を通じながら、基本的な理解を得ることを目標とします。

講義では、簡単な設例等をあげて解説するなど、わかりやすく授業を進めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基礎的な知識の習得	法人税制における基礎的なしくみ、個人課税との違い、企業会計と税務会計、納税義務者について理解する。	25%
法人税における所得計算の理解	法人税に関する益金、損金について学ぶとともに、それぞれについての別段の定めを理解する。また、同族会社と中小企業税制、法人税の申告と納付までの流れを理解する。	60%
わが国の国際課税の基本的なしくみの理解	企業が海外へ進出した際のＣＦＣ税制のしくみや外国の企業が日本で活動した際に生じる外国法人税制などについて、その概要を理解する。	15%
評価の方法　講義への３分の２以上の出席を前提として、試験70%、受講態度30%として、評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	法人税の概要
2	法人税の基礎	法人税の特色、個人課税との相違、納税義務者
3	法人所得の計算	法人の所得、企業会計と税務会計
4	益金(1)	益金の規定の構造、資産の販売等
5	益金(2)	無償取引
6	益金(3)	受取配当、評価益
7	損金(1)	損金の規定の構造、原価、費用
8	損金(2)	損失、資本等取引との区別
9	損金(3)	役員給与
10	損金(4)	寄附金、交際費
11	同族会社	同族会社の概要、中小企業税制
12	法人税申告	法人税の所得計算、税額計算
13	国際課税(1)	ＣＦＣ税制、移転価格税制
14	国際課税(2)	租税条約、外国法人課税
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書は使用せず、プリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、財務会計の知識があれば、一層の理解が進むものと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告とプリント配布しますので、事前に該当箇所について確認してきてください。

【その他の注意事項】

◇配布プリントを忘れずに、持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

法人税	我妻（ワガツマ）　純子（ジュンコ）
Corporation Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

近時は、法人が利益追求の経済活動を行うにあたって、どれだけ租税負担があるかを考えることは避けられない状況になっています。さらに、グローバル化が進む中で、国境を越えて活動する法人・企業グループに対する課税が各国共通の問題にもなっています。

本講義では、以上のような法人に対する課税の問題について、基本的な理解が得られるように、わかりやすい講義を進めたいと考えております。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基礎的知識の習得	企業課税と個人課税の違い、企業会計と租税法会計、納税義務者について理解する。	30%
法人所得の計算の理解	益金、損金、それぞれについての別段の定めを理解する。	40%
法人株主間、法人相互間の取引に対する課税の理解	出資と分配、組織再編税制、グループ法人税制、連結納税制度の概要を理解する。また、外国親会社・外国子会社が関わる税制についても理解する。	30%
評価の方法　試験60%、授業態度40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	法人税法の概要	沿革、法人税法の構成
2	法人税の基礎	法人税の特色、個人課税との相違、納税義務者
3	法人所得の計算	法人の所得、企業会計と租税法会計
4	益金(1)	益金の規定の構造、資産の販売等
5	益金(2)	無償取引
6	損金(1)	損金の規定の構造、原価、費用
7	損金(2)	損失、資本等取引との区別
8	別段の定め(1)	受取配当、評価益、還付金
9	別段の定め(2)	役員給与
10	別段の定め(3)	寄附金、交際費
11	法人株主間取引(1)	出資
12	法人株主間取引(2)	分配
13	法人税制度の各論(1)	組織再編税制、グループ法人税制、連結納税制度
14	法人税制度の各論(2)	移転価格税制、タックス・ヘイブン対策税制
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、プリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、法人税法に興味を持っていることを望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をしますので、該当箇所について確認してきてください。

【その他の注意事項】

◇配布プリントはすべて毎回持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

所得税	田中（タナカ）　俊久（トシヒサ）
Income Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

所得税は、個人が得た所得に対して生じる税金で、個人の生活に密接に関係しています。どのような場合に所得税の納税義務が生じるかを知っておくことは、大切です。所得税の特色として、近年では４千万人を超える給与所得者が源泉徴収により所得税を納付していたり、２千万人を超える納税者が確定申告をしていたりと、人々の関心がとりわけ高い税金です。

講義では、簡単な設例等をあげて解説するなど、わかりやすく授業を進めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基礎的な知識の習得	所得税の対象となる所得の概念や納税義務者について理解するとともに、給与所得や事業所得をはじめとする所得分類について学習する。	50%
所得計算の通則と税額算出の理解	収入金額と費用控除、所得の帰属、所得控除および所得税額算出の手順について理解する。	30%
所得税額の確定手続、不服申立手続きの理解	所得税にかかわる税額確定手続、修正手続を理解するとともに、不服申立制度について学習する。	20%
評価の方法　講義への３分の２以上の出席を前提として、試験70%、授業への貢献度30%として、評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	所得税の概要
2	所得税の基礎	所得の概念、納税義務者
3	所得分類(1)	利子所得、配当所得
4	所得分類(2)	譲渡所得、山林所得
5	所得分類(3)	給与所得、退職所得
6	所得分類(4)	不動産所得、一時所得
7	所得分類(5)	事業所得、雑所得
8	所得計算の通則(1)	収入金額、課税のタイミング、所得の人的帰属
9	所得計算の通則(2)	必要経費、費用控除のタイミング、損失の扱い
10	所得税額の計算(1)	所得控除
11	所得税額の計算(2)	税率表の適用、税額計算の通則
12	所得税に関する手続	確定申告、修正手続、青色申告制度
13	所得税に関する手続	不服申立て、租税訴訟
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書は使用せず、プリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、「租税概論Ⅰ」を併せて受講するか、受講済であれば、理解が一層進むものと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告とプリント配布しますので、事前に確認してきてください。

【その他の注意事項】

◇配布プリントを忘れずに、持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：２～４年生

所得税	我妻（ワガツマ）　純子（ジュンコ）
Income Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

所得税は、個人の生活に密接に関係している租税であり、どういうときにどのような課税がなされるのかを知っておくことは大切です。しかし、所得税について定めている所得税法を理解することは難しいといわれています。その理由としては、普段使わないような用語や、独特の考え方や言い回しがみられることなどが挙げられます。

本講義では、法律の観点から見た所得税について、できるだけわかりやすい講義をしたいと考えております。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基礎的知識の習得	所得の概念、納税義務者および所得分類について理解する。	50%
所得計算の通則と税額算出の手順の理解	収入金額と費用控除、所得の年度帰属および所得控除について理解する。	30%
所得税にかかわる手続の理解と判例の読み方の習得	税額確定手続、修正手続、源泉徴収制度および不服申立制度について理解するとともに、納税者と課税庁の争いに対する裁判所の判断の読み方を習得する。	20%
評価の方法　試験60%、授業態度40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	所得税法の概要	沿革、租税法の基本原則、
2	所得税の基礎	所得の概念、納税義務者
3	所得分類(1)	利子所得、配当所得
4	所得分類(2)	譲渡所得
5	所得分類(3)	給与所得、退職所得、事業所得
6	所得分類(4)	不動産所得、一時所得、雑所得
7	所得計算の通則(1)	収入金額、課税のタイミング
8	所得計算の通則(2)	必要経費、損失の扱い、費用控除のタイミング
9	所得計算の通則(3)	所得控除
10	手続法(1)	税額確定手続、修正手続、源泉徴収制度
11	手続法(2)	徴収手続、不服の申立て、租税訴訟
12	総合(1)	所得分類のまとめ
13	総合(2)	所得計算の通則のまとめ
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、プリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、所得税法に興味を持っていることを望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をしますので、該当箇所について予習してきてください。

【その他の注意事項】

◇配布プリントはすべて毎回持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

論文指導（卒業論文）	
Senior Thesis	応用科目／通年／２単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

１、２週間に１回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、２・３年次（３年次編入生は３年次のみ）に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：2021年１月15日（金）　15:00まで

提　出　先：学務部

【授業計画】

＜春学期＞

１．卒業論文の作成概要指導
２．各自のテーマ決定の確認・助言
３．論文の形式、構成の指導
４．テーマに関する資料・情報の収集法指導
５．論文作成（中間）の指導
６．中間発表

＜秋学期＞

１．夏期休暇中の研究成果の確認
２．論文完成に向けての指導
３．最新のデータとの照合
４．論文要旨に対するディスカッション
５．論文の完成・最終稿のチェック
６．卒業論文発表会

専門科目　　経営学科 履修対象：１～４年生

簿記技能Ⅰ（日商３級）	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Bookkeeping Ⅰ	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

本講義は、2020・2021年度日商簿記３級、６月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記３級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行いますが、次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問１から問５までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。
※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。
貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	問１対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問２対策講座	補助簿全般の解き方、Ｔ字勘定を使った解答法
3	問３対策講座	試算表全般の解き方
4	問４対策講座	伝票などの解き方
5	問５対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問１問題演習	問１問題の演習徹底的にやります
7	問２問題演習	問２問題の演習徹底的にやります
8	問３問題演習	問３問題の演習徹底的にやります
9	問４問題演習	問４問題の演習徹底的にやります
10	問５問題演習	問５問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
13	予想問題演習	今回の６月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応

＊授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記３級６月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：50～）に行います。時間帯にご注意ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：１～４年生

簿記技能Ⅱ（日商２級）	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Bookkeeping II	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

本講義は、2020－21年度日商簿記２級、11月・２月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記２級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行いますが、次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

2016年度から日商簿記２級の出題範囲が変更され、例年より難化する可能性が考えられます。出題変異の変更点等含めしっかり学習していきましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問１から問５までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 日商簿記２級は原価計算が分かればほぼ合格は間違いないと言えます。しっかりと勉強しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 特に本支店会計は慣れが必要です。よく理解しましょう。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。
※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。
貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	問１対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問２対策講座	特殊仕訳帳や伝票会計に関する解法
3	問３対策講座	精算表・本支店会計に関する解法
4	問４対策講座	費目別・部門別計算を中心とした解法
5	問５対策講座	総合原価計算・標準原価計算の解法
6	問１問題演習	問１問題の演習徹底的にやります
7	問２問題演習	問２問題の演習徹底的にやります
8	問３問題演習	問３問題の演習徹底的にやります
9	問４問題演習	問４問題の演習徹底的にやります
10	問５問題演習	問５問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
13	予想問題演習	今回の11月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

＊授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「商業簿記Ｉ」・「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ｉ」・「工業簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記２級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。全く知識のないままの受講は控えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記２級11月・２月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

東京富士大学

〒169-0075　東京都新宿区高田馬場３－８－１

入　試　広　報　部　TEL ０３－３３６８－０３５１

キャリア支援部　TEL ０３－３３６２－８４７９

学　生　支　援　部

学生支援担当　TEL ０３－３３６２－２２５２

留学生担当　TEL ０３－３３６８－１７６１

学　務　部

学務課　TEL ０３－３３６８－２１５４

図書館　TEL ０３－３３６８－８８２６